

莫斯科の裁判所はアルバツト・クロボトキナ街にある。自分が行つた時は法廷は満員で三名の兵士が場内整理に當つてゐた。やゝ經つて一人の兵士は

「タワリーリシチ、裁判が始まります」と手を舉げて大聲でどなつた。一同が起立すると審判席に三人の法官が現はれたがその一人は女である。三人はレニンの肖像を背にして着席し、それから事件の審問が始まつた。被告等は前方第一列に二名の兵士警戒の下に着席してゐる。一番面白かつたのは宿舍委員長某の公金千留費消事件であつたが、辯護士が、裁判官諸公、余は共產黨の一員として……を前置きに喋々と辯護を始めたなど、ここにも共產黨萬能振りが發揮されてゐる。それから他人の僅かの金を無斷で費消した主婦だの、石油コンロの奪ひ合ひから喧嘩した連中とか、泥棒の一團の裁判があつたが何れもレニンの標語をあまり忠實に守つた連中らしい。

監獄とゲベウ

裁判所見物を終つてからルビヤンカに在るゲベウの監獄に行つたが、第一印象はすこぶ

る好かつた。立派な建物だ。若し番兵さへ居なければ第三流の大官の邸宅としか見へぬ。故チエルジンスキーの後任者メンジンスキー御大將も頗る愛想よい、初対面の者は好い感じを受け教養ある好人物だと感心するだらう。勞農政府が敵視する分子は白系露西亞人ばかりではない。無政府主義者も、シンヂゲートの社長も、普通の泥棒も、人殺しも、黨人以外に對しては同様監視の眼、取締りの手を緩めないのである。自國の監獄には順番で殺される無政府主義者がウヨ／＼してゐながら、サツコ・ワンセツチの如き、外國の政府が宣告した死刑にまで反對の抗議を申込むほど、黨員同志のことにかけては一生懸命である。政治犯人が莫斯科に護送されて來ると、先づ第一にゲベウの獨房に打ち込む。そこには藁の入つた寢臺は一つもない。泥棒と同様に扱はれて碌に食事も與へられない。二三枚の板が寢臺代りに當てがはれ、黒パン二三キレと少量のスープが給せられるだけである。讀書などは無論許されない。牢の内はヒツソリとして墓地も同様である。ゲベウの役人は人を人とも思はない。銃殺、長期禁錮、西伯利流刑……とその日／＼の氣分で勝手に宣告す

るのである。

最近も英國の密偵の片割れと睨まれた若い女が西伯利追放を宣告されたが、両親は出發前に一目逢ふて別れを告げたいと係りの役人に願ひ出たが、明日面會させると約束して置きながら、翌日になると彼女が分派的行動、違法職業組合運動を行つたことが發覺したから、今朝未明にもう護送してしまつた、といつて面會させなかつたといふ事實を知つた。また自分は或るコーヒー店で伊太利の無政府主義者の一團と會合したが、彼等は泣いて前非を悔ひ、何とかしてこの共產主義地獄國から、本國に歸れるやうに盡力して呉れと自分に訴へた。

離婚と結婚

勞農露西亞の夫婦は實際にくつつきもの、離れものであつて、夫婦の何れか一方が同棲の意思が無くなると、届書一本差し出すと直ぐに赤の他人になれる。これは殊更ら自分が大袈裟にいふのでは決してない。自分は莫斯科滯在中に役所の離婚係のところに行つて見

て呆れ果てた。まだうら若い婦人が嚴めしい役人に向つて、笑ひ乍ら離婚の手續をしてゐたが、間もなく手續が済んで喜んで歸るのを多數見受けた。

離婚出願者の控室に充てられた小さな部屋には、まだ若い快活な女が七人腰かけて待つてゐた。その向ふにむづかしい顔した男が四人腰かけてゐる。男のうちの一人は七人の婦人中の夫であつたが、その他はどれもわかれ話しがきまつて届出でにやつて來た連中である、が知らぬ男の前で平氣で嬌態を作つたり、今日から獨り身になつたんだから、私が代つて上げませうかとも云ひたいやうな表情で男を眺めてゐた。官僚主義一點張りで、事務の取扱ひが萬事六つかしい國柄なのに、この離婚係だけは例外で、たつた五六分間に願ひの趣聞き届けてくれる。順番毎に係官の前に呼び出され用紙に摘要を記入し、一定の手数料を納むれば萬事完了で、係官は次の順番を呼ぶ。こんな調子で三十分の間に十一人の手續が片附いた。午前中であつたから割合に少いのであらう。

その隣りは結婚希望者の控室である。こゝでも手續は簡單だ。離婚の場合は片一方だけ

で済むが、結婚は雙方の合意を要するだけの相違である。これだけはブルジョア制度が加味されてゐる。

私生兒認知

その次ぎの部屋は戸籍係とでもいふべきもので、そこへ来るお客さん、イヤ届出人は一定の夫を有せずして懐妊した女とか、結婚届出前に孕んだ女などが、分娩期の三ヶ月内に届出を要することに法律で定められてゐるため、腹の中の私生兒認定のため出頭した者ばかりだといふ。それだけではまだ要領を得ないので、説明を求めると、例へば子供のない有夫の女や、娘などが私通したりあるひは暴行を受けたりして妊娠した場合、女から相手方に對して胎兒の父たることを認知せしめるために、相手方の姓名を届出でに來るので、相手方も役所から呼出しを喰ふのであるが、この場合男の方は呼出されてから二ヶ月間は抗争の権利を與へられる、若し抗争せなければ自己の受くる給料の三分の一を胎兒に支給するの義務を生ずるので、兎角逃げ腰の者が多いらしいが、申立て曖昧な場合は大抵女の

申立てを信用し、男の言はあまり採用されない。自分はいかくの如き風紀頹廢には全く愛想をつかしてしまつた。それどころではない、露西亞では處女や人妻が公然と墮胎を行ひ、これがためには素人療治、女醫、外科醫等々とあらゆる機關を公然利用して憚らない有様である。自分は將來の赤露のために悲まざるを得ない。

動員豫行演習

今日はレニングラード見物である。到着勿々自分は遅くも、誰からも案内されずに、しかも飾り氣のない、赤裸々の社會的現象を見ることが出來たのは、外の處でポリシエウイキの領袖連に案内されての見物の時よりも餘程愉快を感じた。

到着の翌日、自分は散歩のためヨーロッパ・ホテルを出て市中をうろついてゐると、宣傳ビラらしいものを澤山小脇にかい込んでゐる労働者に逢つた。労働者はとある建物にビラを貼りつけたので近寄つて見ると、赤軍兵士が在郷軍人を家庭から兵營に誘ひ出さうとしてゐる繪であつた。自分が立止まつてそれを見てゐる間に多數の野次馬がぐるりと娉集

し出した。別に説明者がゐなくても動員豫行命令の下つたことを知らせるピラである。一八九六年から一九〇三年出生の在郷軍人が動員されるのである。そして召集されるのは或種の専門技術を有する者及共産黨員である。

「何だ！ 嚇かしやがつて、演習じゃねえか、俺はまた戦争にでも引つ張り出されるのかと青くなつたよ」

と云ふ男があると思ふと、

「イヤ、戦争に驅り出されるやうになるかも知れんよ」

と悲観してゐる者もある。勿論これは動員計畫の豫行演習ではあつたが、その後四日間レニングラードの人心は極度の不安に驅られ、お負けに時を同じふして酒精飲料の販賣が禁止されたから、尙ほさら一種の不安が増したのである。

動員氣分でレニングラード到着匆々緊張した自分は、ぼつ／＼市中の見物に出掛けた。何しろ第三インターナショナルや、黨中央委員會や、例のメンジンスキー(ゲベウ長官)の

お膝下たる莫斯科から離れてゐるだけ、幾分か安神の出来る、住み心地のいゝ都會だなど思つたのは束の間で、サテその裏面を観察すると、レニングラードは全く陰謀家の巢窟でも云ふべき土地である。或る人はレニングラードは國境間近だし、密偵の根據地だから外國人に氣をつけてその行動を嚴重に監視するのは當然じゃありませんか、と云つた。なるほど時々ブチ込まれたり、死刑が行はれたりするのは、外國への面當てにやるのだなあと思つた。

外 國 人

で自分は一體密偵に使はれてゐる外國人はどんな種類の人間かと或る役人に尋ねて見たところ、所謂親佛政策のサウエート國家の官吏はそれには答へないで

「獨逸人は露西亞人をわざ／＼教育しておいて、他日一度にその收穫を得やうと、根氣よく構へてゐる人間ですよ、差當り獨逸はサウエート露西亞との密接な商取引關係を結ばうと努力してゐます」

といった。自分は佛蘭西人がレニングラードに何人住んでゐるかを調査したところが、極めて少数で、もと此處の大學に露西亞通で有名な、佛國のバトイエ博士や、マルテリ氏が數週間ゐたことがあつたそうだが皆歸國し、當時から今まで残つてゐるのはその當時の教員で、今では老寄りの女二人だけであつた。レニングラードが第二の故郷のやうになつてゐる二人は國に歸つても喰へないので、こゝで惨めな生活を續けてゐる。自分はその内の一人の女に市場の小店で出會つたが、薄汚い姿をして、これでも同胞かと涙が出るほどであつた。彼女はいつた

「私は自分の持つてるものは大抵賣り盡しました、ミュンヘンや伯林の商人は私のお蔭で大分金儲けをしたものですよ、貴方がニコリスキー市場に行かれたら、そこにゐる私のお友達のX嬢に逢へるでせう。あの老嬢も一時はミーシエル劇場でサーシヤ・キトリなとど肩を並べて踊つたもんでしたが、今では持物はすつかり賣り盡してしまつて、もう私同様何を賣つて喰ふやうになるか知れませんが」

と。

孤兒の國

レニングラードの孤兒の多いのは驚いた、ボロ／＼の服を着た孤兒數十名が、コルバコウ附近の半成家屋の中で、犬か狼のやうに集まつて寝てゐる。夜中に警官のために叩き出されると、彼等はす／＼と足の向く方に當もなく歩き出す。つひこの間孤兒の巢窟狩りをやつた際一人の警官が行衛不明になつたが、後になつて孤兒のために袋叩きになつて殺された死體が見つかった。その巢窟を検査した警官の話によると、孤兒が大勢集まつて棒切れや、石ころで件の警官を叩き殺したのださうな。またその家屋内で鼠の骨を二千ばかりも發見したが、それは彼等が鼠の肉を喰つて、皮はつないで袋にしたり、人に賣つたりした残りだつたさうな。これは晝間見聞したことであるが、夜の世界はこれとまつたく反對で、自分の泊つてゐるヨーロッパ・ホテルの如きは魔性の女が盛んに出入し、しかも彼女等は亞米利加最新流行の衣服を身につけ、筆紙に盡されない變態、嬌態を作つて夜の

定期市場

世界に遊野郎の生血を吸ひつゝあるのを見て自分は悚然たるものがあつた。

自分は莫斯科や、レニングラードの見物を終つてから、有名なニージノウゴロド市の大市場の視察を思ひ立つた。これに就いて莫斯科で或る人は

「どうせ行つたつて駄目ですよ、何も有りやしません、失望して歸つて來るのが關の山ですよ」

といつたが、別な人は

「あすこの定期市場だけは見逃がしてはならぬ。そこへ行けば歐羅巴式の市場と、亞細亞式の市場と同時に視察することが出来るし、サウエートの隅から隅までの商人がいろいろな商品を出品してゐるから、商業視察としてはこんな絶好の場所と機會はない」と盛んにニ市行きを勧めた。さて愈々行つて見ると、やはり初めの悲觀論者のいつたことが眞實であつた。定期市場は全然その意義を失つたものであつた。個人の出品にかゝるも

のは僅か百數十點の手工藝品の外、支那人の持ち込んで來た茶であるとか、波斯人の自慢の敷物とかで、これなどが定期市場の重なる取引商品であつた。

一寸自分の目を惹いたのは或る工業家の出品した齒磨揚子を積んだピラミットの山であつた。ところが見物人中には何のために使ふ品物だか判らぬ百姓が多いと見え、出品者は齒磨きで口をみかくと衛生に非常によろしい、といふやうなことを平易に説明しあつたが露西亞人の文化程度の低い一例として驚ろいてしまった。サウエートの役人が倫敦などで各方面の進歩、向上を頻りと宣傳するが、實際露西亞の百姓は二ヶ月に一度もその泥足を洗ふかどうかさへ疑問である。

きたない風をした百姓達がバラツクの間を列を作つてまはり歩いてゐる。時々軍樂隊が貧弱な演奏をやる。怪しげな調子でカルメンや、インターナショナルを繰り返へしてゐる。自分が佛國記者だといふので敬意を表したつもりかマルセイユをやつて呉れたが、まるで氣の抜けたピールのやうなものだつた。定期市場で盛んに賣り出しをやつてゐるのは、例

の工業振興の目的で發行された勸業債券で、農業債券の抽籤もやつてゐた。で自分は群集を押し分けて現場に行つて見たが、辯士は喋々と債券發賣の趣旨やら國民の義務を説明してゐた。そして合ひ間にインターナショナルの樂隊で景氣をつけてゐた。

自分はそこで、定期市場に派遣された大藏省の役人に紹介されたので、聞いて見ると、「債券は市場ではサツパリ駄目だが、陸軍部内では大分賣れる、將校も下士も月給から差引きで、債券を購入する條件に對して異議はない」とのことであつたから「それじや工業債券でなくて、強制債券じやありませんか」とからかつて見たら、件の役人先生顔を眞赤にして「そんな事はない、サウエートの陸軍は勞農民から編成されてゐるので、國家のために喜んで債券を購入するのである」と辯解したが、どうも怪しいものだと思つた。役人は尙「訓令にもあるとほり、此の公債は外國でも發賣する事が出来ます。もしお國に希望者があるなら」といつたから自分は「イヤ露西亞の公債では佛蘭西はヒドイ目に逢つてゐるから」と又ひやかさうと思つたら、役人が演壇に上る時刻が來たのでそのまゝ別れた。

農村と黨員

自分は露西亞の農村の状態を視察するために、ウオルガ河沿岸のニージニーから汽船セルジンスキー號に乗つてカザン市に下航した。案内役を勤めて呉れたのは労働運動界の先輩の一人の名士であつた。

案内の勞をとつて呉れたその人は

「私等の村には共產黨員なんか一人もゐません。考へても御覽なさい、一億一千万人の露西亞の農民の中に、共產黨員は全部で僅か二十二萬人しかゐません。だから土地を耕してゐる人々の中から共產黨員を發見するのは至難なことです。黨員はコーペラチウの従業員とか村落行政機關の役人に限られてゐます。いくら宣傳をやつたり、煽動をしたところで、百姓に政治なんか判る筈はありません。だからサウエーの選舉を厭がる村が澤山あります」

と語つた。自分は最初上陸した沿岸の或る村落では大きな家に案内された。案内者は「ス

ターリンの保護政策に對しトロツキが憤慨してゐる所謂大農中の一分子たる新地主様のことに就てお話しませう」と云つたので自分は

「お國では土地は農民に平均に分配した筈じやありませんか、それにどうして大農とか新地主様とか云ふ言葉が出来たんですか」

と反問したところ、案内者は

「土地を農民に分配したのは事實です。しかし農民は土地だけを分與されたんでは何にもならない。その土地を耕さねばならぬ。しかし貧農はその資力が無い。自ら耕すことが出来なければ、農具なり牛馬なりを持つてゐる者に自分の土地を手放して、そして土地と一緒に自分も所謂地主様の下で働かせて貰ふやうになつたのです。だから貧農は新地主の奉公人も同様です」

と答へた。自分は「それじや偉大なる農民革命だなんて云つてもいゝ加減なものじやありませんか」と冷やかしたら、案内者も苦笑してゐた。村落には實際に大農が多い。

村の消費組合に行つて見てもアルコール飲料の外には殊な商品はない。消費組合のある村には酔つ拂ひが非常に多い。學校なども昔自治團で經營してゐたものに較べると甚だ劣つてゐる。圖書館に行つて見てもカーメネフ夫人の指導の下に編纂されるといふ宣傳、偏動用の書本、パンフレットの外、農民の利益になる書籍なんか見當らなかつた。

汽車の内

莫斯科とチフリスとの間の列車の運轉は圓滑に行はれてゐる。乗客が非常に多いから切符を手に入れることは困難であるが、これも適當にコンミツションをやれば譯なく切符も座席も手に入る。自分は二等車に乗つて見たが車内は清潔で、よく整頓し、時刻表通りに發着する。列車の壁には何々すべからず。何々する者は嚴罰に處す。といったやうな揭示が澤山貼つてある。各驛の一二等待合室も掃除が行き届き、食堂の食物も可なりで、ロストフや鑛泉地の各驛はことによく、戦前の露西亞を想起せしめた。ポイイも町噺で、テール掛けも奇麗で、紙屑籠や、タン壺の設備もあり、プラットフォームには何處も昔のやう

に熱湯供給所があるなど往年の戦時共産主義時代とは雲泥の差である。これは新経済政策のお蔭であらう。

汽車中の乗客の話しも二三年前とは變つて來た。二年前まではどんな話しても出來たが政治問題になると四方に氣を配り、秘々と話しをして少しも油斷が出來なかつた。が今ではもう平氣の平座、寧ろ政治問題が専ら話題に上るほどで、もう恐怖の念は取除かれたやうで、未知の乗客との間でも、話はすぐ政治問題に移るやうになつた。新成金や農民が政治に興味を持つてゐることは驚くほどだが、労働者は案外沈黙してゐる。

戦争と農民

莫斯科を發車すると間もなく、乗客の間に戦争問題と、反對派のことが話題に上つた。これは當面の大問題であるので、或る者

「サウエート政府は歐洲諸國の攻撃に對しては抜かりなく備へてはゐるが、波蘭や羅馬尼がもし攻撃を始めたら、反政府暴動が國內に勃發して、折角の經濟政策も頓挫するだらう」

「う」

など述べたが、どうも一般國民は戦争はとて免れないものと思ひ込んでゐるやうだ。ことに村落では一層恐怖してゐる。戦争が始まれば、お定まりの物資缺乏となつてまたひどい目に逢ふだらう、と見越して食糧品、石油、マッチ、糸、針などと手當り次第日用品を買ひ溜め出した。また農民等はどうせ又徴發を喰ふんだらうと云ふので耕作を怠り、牛馬を賣拂つて金に代へ、町に出て日用品を買ひ込むので、何處の町の商店の前でも行列を作つてゐる。これなどは、政府側が、國防週間を作つたりして、外敵の侵入、開戦の危機切迫せりなどと國防熱を煽つた結果である。

一般の考へでは「民衆は自覺してゐないから、民衆の自力でボリシエウイキを倒すことは不可能だ。同時に、戦争が始まつたらボリシエウイキの政權が動搖するのは明かだから戦争の力を藉りるより外はない、帝政露西亞が戦争で倒れたと同様、サウエート政府も戦争で終末を告げるだらう」などと漠たる考へをもつてゐるやうである。がさてその戦争で

ボリシエウイキ政府が倒れた後にどんな政府が出来るか、といふことは村落地方では寄ると觸ると話題の中心になつてゐる。が一般の意見を綜合すると

「權威あり公正なものが欲しい。共産黨の壓制はもうこり／＼だが、秩序と平和と維持してくれるものなら、社會革命黨でも立憲民主黨でも何でも構はないと考へてゐる。帝政に賛成する者もゐるが、これとてロマノフの帝政でなく、形を變へた帝政を望み、誰でも構はないの獨裁專制的の確かりしたものが望ましい」と

といふにあるやうだ。といつて猶太人の專制には反對である。トロツキも猶太人であるがために一面に排斥を受ける。共産黨員でも、赤軍將卒でも、露西亞は猶太人のためにひつ掻き廻はされたといふ觀念を深く抱いてゐる。それで猶太人も案外不遇な境地にあるに拘はらず「何か事が起ると猶太人は眞先きに殺されるだらう」とか「猶太人を殺して露西亞を救へ」などの言葉が今も尙ほ深刻に言ひ交はされてゐる。

だから共産黨内の反對派は村落では人氣がない、反對派の大部分が猶太人であることか

ら、スターリンは猶太人を排斥してゐるのだといふ考へを農民が持つてゐる。且つ又反對派の政綱中には農民の氣に入るやうなものは一つもないし、反對派は農民虐めをするのだといふ幹部派側の宣傳が利いて、農民間には反對派に同情する者は誠にもつて寥々たるものである。農民が一番騒いでゐるのは矢張り土地問題である。今日の露西亞にはなる程昔の程度のやうな大地主はない。土地は農民の物のやうでもあるが、さりとて眞に土地の主大公であるといふ確かな安心は與へられてゐない。何日何時役人がやつて來て土地を取り上げはせぬかといふ不安が何時も農民の頭から去らない。だから農民は誰しも「自分の物として永久安心して耕作の出来る法律を發布して貰ひたい」と熱望してゐる。従つてこの法律を發布して農民を安堵せしめて呉れる者には誰にでも味方する。

猶太人排斥

莫斯科はアルバツト街の猶太人料理店ガルキンで食事中に、自分は數名の猶太労働者と談話を交へることが出來た。コレネツ地方生れの猶太労働者の某は、猶太訛の多い怪しい

露西亞語で、自分に向つて盛んにサウエート政府の猶太人排斥政策を攻撃し始めた。そして工場内でタワースリシチ連中から、彼等が猶太人であり、猶太教徒であるといふことだけで、無法の迫害と侮辱を受けつゝあることを憤慨した。

露西亞における猶太人排斥は昔も同様少しも變りない模様である。殊にポリシエウイズムなるものが、猶太人の發明であり、サウエート制度が猶太人の勢力によつて組織されたものだと思ひ込んでゐる人達から見ると、サウエート政治の世の中であるに拘はらず、猶太人が露西亞人から虐待されてゐることは、異様の感を抱かせる。自分はガルキンで猶太人達が述べ立てた不平はどうも誇張で、嘘まこときませたものだ、實は半信半疑である。彼等は果して自分を欺いてゐるだらうか？。ところが自分は料理店で、非常に聰明で博學さうな、村夫子然たる一人の猶太老人と會つたが、その老人は自分を捉へて

「サウエート政府の職員録を御覽なさい。今日では閣員中には猶太出身者は一人もゐませんよ。猶太民族たるの故をもつて同族は悉く追はれてしまつたのです。大きな官衙にな

ればなるほど、猶太官吏の數は少數で、猶太人の高級官吏は露西亞人の二二%から今日では七%に減つてゐます」

村夫子先生はかく語つて顎髭を上げていた。そして更に

「ポリシエウイキ政府は他の宗教と同様、猶太教に對しても壓迫を加へましたよ。チーホン大僧正が死んだのは、宗教没落の機を早めました。高德の猶太大僧正シネルソンの如き、八十の高齡でありながら、宗教壓迫が烈しいので露西亞にゐたままらず、リガ市に轉住しました。最近シオニストに對する迫害は一層深刻となつて、裁判もしないで西伯利に追放したり、ぼんやり反革命主義者の名目で處罰したり、バレストアインに恩恵を施してゐる英國の手先だ、英國の間諜だとの罪名で流刑に處したりするやうな亂暴を重ねてゐます、でポリシエウイキのために西伯利に追放された猶太人の家族達は、同じ猶太人であるトロツキーに救済方を請願に行つたのですが、個人主義者で、利己主義者で有名なトロツキーは不幸な同族の境遇などには少しも同情しない。この一事だけでも利

己主義で、無神論者たる彼の性格が遺憾なく現はれてゐるではありませんか。猶太人が猶太人を排斥するなんて、恐ろしい世の中に變りましたよ……」

村夫子先生は、熱心に説き來り説き去つた。がそれでも自分がその話を尙ほ半信半疑で聞いてゐるものと思つたのか、彼はポケットから猶太人排斥に關するサウエート新聞の切り抜きを自分に見せつつ、サウエート万歳、ジード（註、猶太人に對する侮蔑語）無用と題した猶太人排斥論の一節を読み上げた。またカフェーでも酒場でも、近頃は次ぎのやうな俗論が盛んに流行し出し、これを歌ふと非常な喝采を博することだ。（ネツプマンとは新經濟政策後の成金のことである。又猶太人の名前はンに終つたのが多い）

タワリリシチよ

なんぼお前が血眼で

興信所の臺帳を繰つたとて

お氣の毒だが露西亞人にや

ネツプマンなどあるはしない

ネツプマンの名前は

タワリリシチとは違ひ
 リフシン・コン・ブロンシテインてなものばかり
 これに驚いたタワリリシチ
 とは露西亞の一大事ぞと
 またもスターリン親分に泣きついて
 露西亞は元のやうに露西亞人に
 返へして呉れよとせがみつく……。

御用詩人デミヤン・ベードヌイ

雀が岡に上つて四邊の風景を眺めて居る時、若い男女七名が附近に來て口々に何やら面白相に歌つて居た、案内者の某君は彼等の歌に耳を傾けて居たが、餘程おかしかつたものと見え吹き出してしまつた。

何かおかしいのですかと尋ねたところ案内者は、あの若い男女はベードヌイの短詩を朗吟してゐるんです。ベードヌイといふ男は諷刺文學者で、この頃減切り金を溜め込んだので

すよ、人のあらを拾つて——而も御用記者——成金になつた奴ですよ、ペードライの書いたものに對しては一行に三留の原稿料をコンムニストが支拂つて居るんです、だから一生懸命に書くんです、大びらでね——サウエート大詩人氣取りでさ——

それから案内者はサウエートには御用美術家でプロドスキーといふのが居ることも話して聞かせた。

自分は七人の中、女學生らしいのが二人軍人服のやうなのを着て居るのが珍らしかつたので尋ねて見たら、女子軍の隊員であることが判つた、案内者は笑ひ乍ら、亭主は帳簿係りで妻君が女子隊長で、共稼ぎをやつて居るのが私の友人の中にありますよと語つた。

矛盾と内憂外患の

露西亞見聞記

▲想像は裏切られた▲雀が丘▲メーデー▲新しい芝居▲レニンの臨終地▲レストラント

▲河畔の景勝▲莫斯科の印象▲深刻な内憂外患……共産黨の内訌……聯邦分裂の兆……

對外關係の險惡……露西亞の將來……

註。左記は豫て久しく東の方から深く露西亞を研究してゐた新界の權威者、某所の囑託にして、我が社の客員たるM・K氏が先般西歐諸國に赴き、西の方からまた露西亞を見返へし、往行路、露西亞に立より、殊に莫斯科には一週間滞在し、露西亞の真相に觸れ、豫て研究してゐたところを實地に裏書きして歸朝した、その露西亞見聞記である。露西亞の表裏面を知るには最も有力な資料と信ずる。

想像は裏切られた

M・K氏

善男善女の寺詣て……夜の銀座通り

四月二十九日早朝、リガから乗った吾等の列車が、時間表通りに、莫斯科で一番田舎臭い感じのする……一寸池袋とでもいひたい……ペロルスキー停車場に着いたら、舊知のH氏が、案内人の朴君をつれて迎えに来てくれたので、近頃出来たといふフォードのたたくタクシーに乗つて、例の外国人樹のホテル・サボイに行つた。浴室なしの小さい室で一日十留は、巴里あたりに較べると随分高いには相違ないが、ブルジョア排斥の國に来て、その國の人々に給仕をさせ、チップの前に叩頭せしむる矛盾より来る一種の快感？を味ふ代としてみれば、必ずしも高價ではない。

午後からH氏の案内で赤^{クラムヤコフ}廣^{ロシヤ}場の入口の建物の赤煉瓦の壁に、レニンが書かした有名な標語——宗教は國民のためには阿片なり——といふ文字を見、その直ぐ側にある小さいけれども無敵いやちこなと云はれる御寺に、善男善女が踵を接して参詣し、例の露西亞式の御叮嚀な十字をきつてゐる皮肉な場面を見てから赤廣場を通り、トレチャコフスキー美術館にいつた。この美術館はトレチャコフスキーといふ富豪のギャラリーを没収してこれ

に他所で獲たものを加へたものだといふことである。むろん繪畫の蒐集で、西歐羅巴の何處の博物館にいつても、耶蘇の降誕と刑死の繪が過半を占めてゐるのに、ウンザリしてゐた自分は、こゝに来て近代的な傑作のかす／＼に接して、何となく解放されたやうな感じがした。

この美術館には、教師が學生を引卒して来て、繪畫の由來とか、描寫の方法とかについて講義をしてゐるもの、または帝王專制時代の農民壓迫の状態を描いた繪の前で、共產主義に關する歴史の講義をしてゐるのを見た。前者の例は世界の博物館到る處で見らるであらうが、美術をさへも、主義の教育宣傳に利用せんとする後者の例は、はたして他に求め得られるであらうか。

トレチャコフスキー美術館のある方から、モスクワ河を隔て、やゝ高めに眺められるクレムリン宮殿の側面は、誠に美しいものであつた。白い壁、青い屋根、その裏から顔を出した金色の御寺の擬寶珠、なにか一つ調和を破るものがない。

夕方M氏の御宅にいつて、すき焼の御馳走になり、四方やまの話しに時を過ごしてからH氏と莫斯科の銀座通り、トウエルスカヤの夜景を見にいつた。倫敦や、巴里の夜の、あの華やかさ、明るさは無論ないけれども、狭い歩道に溢れるほどの通行人の中には、可なりブルジョア式の服装を凝した女やら、白粉と、口紅と、眼付ですぐそれと感づかせる種類の女が、オペラバツクをぶら／＼させ踵上りのラツクの靴に、そゞろ歩きをしてゐるものが非常に多いのには、聊か裏切られた感じがした。

世界唯一の共産主義の國の主都で、世界無比のわが皇室の天長節を壽き奉ることもまたわが一生の想ひ出となるに充分なる對照であつた。

雀が丘

ラヂオの利用……ソコリニチー公園……泥棒の上前

四月三十日。けふはわが大使館に敬意を表し莫斯科滞在に關する交渉を御願ひし、午後

からM氏の御案内で馬車に乗つて、奈翁の古蹟を偲ぶべく、雀が丘に向つた。莫斯科の中心から雀が丘までは、馬車で行けば一時間もかゝつたかと思つた。折悪しく烈風で、砂塵揚がり、眼鏡が欲しい位であつた。途中に亞米利加の軍艦のマストのやうな恰好した無線塔があつた。これは第三インターナショナル中央放送局用として、最近出来たものだとのこと。

無線といへば、莫斯科に来て、特に眼につくものゝ一つは、ラヂオの利用である。すなはち大抵の廣場、廣場には擴聲器が備えられて音楽は勿論、議會その他の演説など、すべて晝夜間断なく放送されてゐる。夕方の散歩時になつて、群集が擴聲器の許に集まり、またはベンチに腰かけながら音楽の放送を聴いてゐるのを見た。ラヂオの利用は、宣傳の本場だけに、他國よりも進んでゐるやうに思はれた。

雀が丘は距離からいへば、東京と飛鳥山位ひで、眺望の具合からいふと一寸九段坂上から丸の内、神田方面を觀たやうな感じがした。奈翁がこの丘から莫斯科の大火を見た時に

は丁度九段坂から震災當時の火事見物したやうなものであつたらう。その炎々と燃え上る呪の火を觀た時、曠世の英雄の胸中は如何であつたらう。

雀が丘も、ネスクーチヌイ公園も、春まだ淺き昨今の薄ら寒さには、遊人の杖を曳くものもなく、吾等も直ちに馬車を返へして市中に戻り、さらに北の端にある、リコリニチー公園にいつた。この公園は丁度巴里のポアドブローニユといふ感じがする。その奥の方に一人で行くと、時々裸にされるとのことでもつて、その一斑を知るべしである。丁度この公園の入り口で、明日のメーデーの觀兵式に参加する裝甲自動車隊の行進に會つた。大砲や、機關銃を角のやうにニヨキくと生やしカモフラージュした貨物自動車、五六臺赤軍兵に守られて蒸の這ふやうに街路をクレムリンの方にいつた。

夕飯は市廳の前にある、矢張り外國人のよく行くポリシヤヤ・モスコフスカヤで採つた。建物は昔の華かさを思はせるに足るものがあるが、ありふれたもの二皿にビール、コトヒ、コニヤツク一杯で約八留餘の勘定は可なり人を喰つてゐる。このホテルには革命

當時掠奪した、貴金屬品類を陳列して販賣してゐる。切り上等のものもないが、金の食器、煙草入など、ありし昔の露西亞のブルジョアの豪奢ぶりを想はせるに足るものがある。二十留乃至二百留の價の附してあるものが多い。この掠奪品を賣り子に美衣を着せて外國人に賣りつけ、國庫の收入増加に充てんとするがごときは、如何にも皮肉なので、記念にもつとも安さうなものを一つ買ったが、泥棒の上前はねるやうな氣がして愉快であつた。

メーデー

市中の御祭り騒ぎ……青天白日旗……マークの押し賣り

五月一日。今日はメーデーである。自分が莫斯科滞在を延期したのも、これを見んがためであつたので、朝から大に勉強して、九時頃ホテルを出て、クレムリンの方に行かうとする、早速民警にネリジャー(いけない!)とやられた。けだし、赤廣場の觀兵式は、露

國における特權階級……共產黨員、諸官員の外、一般の庶民には観せてくれないのであつた。で已なく市中の状況を見やうと思つてトウエルスカヤ通りや、その他目貫きの場所を巡歴した。

街は軒並みに赤旗で飾られ、官廳とか、購買組合とかいふ類の家には、赤布に白地で、革命謳歌、産業興隆、資本主義呪咀などの意味の御極まり文句の標語を書き連ね、中にはイルミネーションの仕掛をしたものもあつた。途行く女は赤のネクタイを結ぶか、赤のリボンを胸につけるかして、中には六十過ぎたお婆さんが赤風呂敷を被つてゐるなど、全く滑稽で、飛鳥山の花見氣分を思ひ出させるものがある。車道中には労働者の少年少女を乗せたトラックがこれもまた赤布に飾られて、ひつきりなしにウラーを連呼しながら疾駆する子供達は自動車に乗せてもらつたので、嬉々として騒ぎ、附添ひのおかみさん連も一緒にやつてキャツ／＼とやつてゐる。トラック組は少年ばかりではなく、時には種々と凝つた飾物に乗せてつ引つ張て行くのがある。

時節柄、チャンバレン、蒋介石などは大分悪い方に利用されて居つた。この外、労働組合は各種の團體毎に行列し、徒步行進で樂隊喇叭を先頭に町中を練り歩いた。歩道の上には今日を晴と着飾つた男女が、腕を組んで、これ等の催ふし物を見るために、群集してゐたが、如何にもものんびりしてゐて、些しの騒ぎも起らない。クレムリンの廣場には、莫斯科の附近にある約一師團の軍隊が觀兵式に列し、空には數十の飛行機が、編隊飛行や、宙返へりをやる圖など、わが國の觀兵式と些しも變りがない。がその軍隊の後から一般市民で軍隊訓練を受けたもの、および女子の團體各千人ばかりに、毒瓦斯よけのマスクを被せて分列式を行はした如きに至つては、一寸他の國に見られぬ圖であらう。

見られぬこといへば、支那、朝鮮などの東洋人から成る六十人ばかりの、學生隊が武裝をして觀兵式に列するがごときも天下の奇觀である。東洋人利用といへば、このメーデーは全く支那問題の示威運動に轉用された觀があつた。すなはち、各所に掲げられた、標語の中には、共產支那を援助せよとか、蒋介石を倒せとかいふ意味のものが多く、特に赤

廣場、カサン停車場の如きは、とても大きな幕に漢字で、打倒蔣介石とか、中國蘇聯結合世界革命的捷徑といふやうなことを書き連ねてある。トラックにもわざ／＼支那人を乗せて引つ張り廻はすといふ風で、わが駐在武官をひつつかまへて、支那將軍ウラーと叫ぶに至つては、何が何やらさつぱり判らぬ。

またこの前日から、翌二日に亘る三日間は、支那青年共産黨援助のための義金募集をなして、少年共産黨員をして街上、青天白日旗の後に赤旗が見え、下に「支那青年共産黨員に」と書いてあるマークを販賣させ、莫斯科人の殆んど全部がこれを胸につけるに至つた。自分も支那人と誤られたる有り難さには、同胞のためだから是非購へと再三強請せらるゝの光榮を有した。

この日は正午頃一寸時雨れた外、非常に好天氣であつたので、夜に入つても街上は恐ろしい人出で、イルミネーションに輝いた街の中を、兵隊がきれいな女と手を取つて歩いたり、青年共産黨員が、女子黨員と相擁して行つたり、全くもつて御目出度い限りの御祭り

気分を終つた。

この日の夕方、クレムリン側の例の難険いやちこだと云はれる御寺の横を通ると、労働者の市街行進の間を縫ふて、御寺に御詣りする多數の人々を見て、妙な對照に、露西亞人の持つ矛盾さを今更の如くに感じた。

新しい芝居

博物館……芝居も主義宣傳

五月二日。赤軍博物館と革命記念博物館を見物した。赤軍博物館は赤軍に關係するものを集めてあるけれども、その歴史が新しいだけに、とても他國の博物館のやうな譯には行かず、たゞ過般死亡した陸海軍大臣フルンゼの遺品その他が無暗に並べてあるので、まるでフルンゼ記念館の觀があつた。その一部に参考として帝政時代陸軍の諸品が置いてある中に、日露戦争に關係した、繪畫、戯畫などがあつたが、その中に日本軍が、露軍の陣

中にまいた勅降文の寫眞があつた。その要旨は日露戦争は露西亞の皇室および、高官などの私慾を充たさんがための、所謂無名の師であるから、この戦に生命を捧げるのは神への冒瀆であるから、早く武器を捨て、日本軍に來い、といふやうな意味で、三十七年七月頃に出來たものだ。西伯利亞出兵中などに、過激派が、わが軍に撒いた宣傳文の範例が十餘年前にチャンと日本軍が教えたものかと思ふと、運命の神の惡戯に微苦笑を禁じ得なかつた。この館では入場者に署名を求めた。

革命博物館の方は、一種の露國革命歴史館であつて、年代毎に露西亞の革命、農民騷擾などの有様が、繪畫その他に現はれてゐる。最近の革命のものは、いろ／＼の記念品が並べられ、同志間の秘密通信、旅券偽造等の要領、器械などが多數陳列されてをつた。また現代各國における革命運動進行の模様を表したのもあつたが、日本に關するものが掲げてなかつたのは、聊か物足らなかつた。この館でも少年達にたいし、教師らしい婦人が熱心に寶物を見せながら、革命の歴史を教えてゐるのを見た。また監視の御婆さん連も求め

に應じて、革命の講義をしてくれる。

この晩はストラスナヤ・プロシチャチにある小劇場に、新しい芝居を觀に行つたが、觀客場外に溢れんばかりの盛況で、ロージュ一人二留半は、劇場の設備のとても貧弱なるに比しては甚だ高いと思つた。劇の外題は忘れたが、内容は青年共産黨員と、女子青年共産黨員と、新成金の娘との三角關係を主題とし、これにネツプマンの家のブルジョア的生活の内面描寫を加えた、軽い喜劇的のもので、ネツプマンの娘が、青年共産黨員に戀するけれども、彼の女がネツプマンなるが故に、之を嫌ふといふやうな筋であつた。ネツプマンの娘や、その母親の如きは舞踊の素養のあるいはゞ、玄人であるに比し、青年共産黨の男は全く素人的の青年男女で、その元氣のいゝこと、殊に女子青年共産黨員が、ネツプマンの娘を罵倒するところなどは、全く資本主義排斥の大演説であつた。が衣裳の如きも、随分亂暴で、素足に靴をはくといふ始末であつたのに反し、ネツプマンの娘は顔も美しいし、衣裳も奇麗で、藝もなつてゐるので、美男なる青年共産黨員にたいする二人の戀の競

争は、明かにネツプマンの娘の勝になるやうに見えて仕方がなかつた。演劇中、舞臺が狭い關係から、役者が觀覽席に降りて所作をする、音楽は階下と階上とに分れてやつてゐた

レニンの臨終地

高い自動車賃……豪奢な猶太人

五月三日。今日はM氏がレニン臨終の地に案内してやるといはれたので、お晝頃からH氏と三人タクシーに乗つて郊外のゴリキ村に向つた。ところが道を知つてると自稱する運轉手が、その實一向承知して居らず、方向が四十五度以上も違ふワルシャウスコエ・シヨツシエを二三十露里も走つてから、行人に聞いてはじめて誤れるを知るといふやうな、露西亞にありさうな頓珍漢を演じながらも、遂に目的地すなはちゴリキに達した。レニンの住んだ家は帝政時代の莫斯科市長の夫人の所有地で、大きくはないが、二階作りの小さつぱりした別荘風の建物の外、廣大な農場を持つてゐて、四邊森林に圍まれ、極めて閑靜で

療養地としては、實に理想的と思はれた。この所有地は目下、莫斯科縣コムムンの經營で農業、特に果樹園、溫室栽培をやつてゐる。われ等は此處の庭園で辨當をつかひ、寫眞などを撮り、農場を見せて貰つてから歸途についたが、誰やらがこの別荘を見てレニンは此の白聖館の南向きの日當りのいゝ室で永眠したのださうだが、この位ひの別荘を持つてゐるやうな共産主義なら、誰れでも直ぐになる、と悪口いつたさうだが、ともあれレニンは外の主義者と違つて何となく、悠大な處があつて世界の偉人中に加はる素質を持つてゐるやうに思ふ。先日のメーデーの日のデコレーションにレニンの像を飾つたものゝ數は現時の花形のスターリン、ルイコフなどのものと較べて御話にならぬ程多數であつた。

歸りにツアリチンの別荘地に一寸立ち寄つたが、手入が不充分で行樂の氣分を味ふに足らず、夕方莫斯科に歸つた。このタクシー奴、自分で道を誤つて遠道をしたに拘はらず、全行程にたいする料金五十何留かを請求した。莫斯科で自動車賃の高いのは旅人には非常の苦痛である、馬車賃も仲々安からず、二三留は直ぐ取られるのみならず、懸値をいふの

でこれを値切るのが、ほんとにうるさかつた。この晩はポリシヨイ・テアートルにオペラを観に行つた。その廣さにおいては歐洲第一と稱せられるこの劇場は、昔ながらの壯大さを持つてゐるが、何しろ椅子とか、何とかの小設備ははなはだお粗末なものに變つてゐる、しかし場内は殆んど満員の盛況で、ことに驚いたのは、一二等席にゐる婦人連中が多くドレスを着て、時計、首飾りなどの裝飾品も相當のものをつけて、如何にもブルジョア然として納まり返つてゐる、しかしてその大部分が、猶太型であつたことである。

幕合ひに、皆がフォイエを散歩してるところを観てゐると、一寸自分は今、共産主義國の首府にゐるのだ、といふ感じが無くなつてしまふやうにあつた。

レストラント

昔の露西亞気分……御者の話し

五月四日。この日は方々の本屋にいつて、専門の書籍を漁り、午後には「農民の家」を見に行つた。「農民の家」は地方から來た農民の休憩所に兼ねて農事改良に關する参考品が置いてあり、農事に關する智識の普及に便してある。建物は立派なもので、何れ昔は相當の人の住宅か何かであつたらう。われ／＼が見れば百姓だましの、誠につまらぬもので、農民はこんなものを莫斯科に建て、貰ふよりも、工業生産品を一哥でも安く、一つでも多く配給されることを欲するであらう。

晩はポリシヤヤ、モスコブスカヤでR氏、H氏等とお別れの夕食をなし、それから革命劇場といふにいつて觀た。内容は現代における舊來の學者の内面生活の墮落せる處を諷した一向つまらぬもので、聊か氣抜けがしたそれからツウエルスカヤ街の市營の大きなレストランに入つた。此處で、その道にはすでに經驗あるH氏が、あちこちに客をはつてゐる女達を集め、ビールを飲んだりしてゐる内に、室の二隅の小舞臺では、合唱やら獨唱やら種々の餘興が始まつた。このザールペダンスをやられば、西歐ソツクリだと思ふ位ひに

この邊の気分は已に昔の露西亞に逆轉してゐる。

莫斯科の最後の夜も、かうして愉快に過し、夜半人なき街路を馬車にゆられてホテルに向ふ途中、若い馬車曳きがお前は支那人かといふから日本人だと答へたら、支那の戦争はどうなつたかと問ふので、あの戦争を起したのは誰か、あれは露西亞のポリシエウイキが起したのだ。あの戦ひで一番ひどい目に逢ふたのは矢張り支那人自身だ。といふたら全く同感だと答へたから、さらに、お前の國は先日メーデーの日に支那共産黨のために、義捐金を募集してをつたが、お前達はそんな餘裕があるのか、他人にやる金があるやうなら、それを露西亞の復興に使はにやならぬ現状ではないか、といふたら「ウエルノ！ウエルノ！」と盛んに同感の聲を放ちかつ、われ／＼の新聞はどうも本當のことを傳へて呉れぬから困るとつぶやいた。

河畔の景勝

五月五日。今日はアレキサンドル博物館に行つたけれども、折悪しく休館で、見る事が出来ず、フラム、スパシーテリヤ（帝政時代、皇帝が戦勝祈願に來た寺院）に行つて、莫斯科河畔の景勝を眺めた。この日午後十時、ヤロスラウスカヤ停車場から知人達に送られて、何時又會へるか判らぬ莫斯科におさらばして東行の途についた。

莫斯科の印象

或る日、莫斯科の銀座通り、トウエルスカヤ街を散歩してゐた自分は、遂に立ち止まつた。そして自分は果して共産制度の國家の首府に來てゐるのだらうか、と自問した。こと程左様に莫斯科には共産主義の香がなくなつて、西歐の資本主義の臭ひが漂つて居る。そこには何等、共産平等の現はれがなくて、レベルこそ下つて居れ、服装にも、乗物にも、食物にも、富者と貧者との著しい差別がある。

高價な毛皮の外套に包まれ、減法に高いといはれる絹の靴下に、ラツクのピカ／＼した

靴を穿ち、白粉、口紅でシヤナリ／＼と練り歩く女の側を、西洋乞食の標本見たやうな、格好をした、如何にも生氣を缺いた、労働者がぞろ／＼と通る、この有様を、共産黨の領袖達は何と観るか。

戦時共産主義時代の破壊の跡を受けて、産業の復興に盡した、現幹部連の努力は充分の敬意をもつて之を認むるに躊躇しないが、さてその復興の結果が結局、資本主義への復帰となつて現はれるのでは、役者たる幹部連の遺憾、苦惱、察するにあまりあるが、見物のわれ／＼も聊か呆氣ない感がある。しかして我々はこの共産黨治下に表はれた、矛盾極まる現象を、共産黨の墮落として一笑に附し去るべきであるか、將又、新興露西亞出現の曙光として恐るべきであらうか。最近國內に連發する反共産黨事件は、果して何を物語るか。

深刻な内憂外患

▲共産黨の内訌 外遊中に逢つた、露西亞通の某氏は曰く。今や露國の共産黨は、内憂外患交々臻るの苦境に陥つてゐる。對内問題の中、黨の内訌が漸次露骨深刻になつてゆく狀況は日本にも相當に知れてゐるやうに、内訌の目的が眞に主義上の争ひでなくして政權争奪、個人喧嘩、または人種的抗争に墮した以上、縱令ジノウイエフ・トロツキーを追ひ出してしまつても、第二、第三の反幹部派が出来るのは當然であつて、特に彼等が國外の反勞農勢力と提携しやうとする徴候が漸次顯著になるに従ひ、幹部連もますます對策に腐心することであらう。

猶太人にたいする反感も相當に強いことは眞實で、スターリンが元首になつて以來、中央に猶太人の數が減つて、東洋系の妙な姓名の人達が殖えたのも決して偶然ではあるまい。また猶太人一派があらゆる手段と方法を盡して、富と權力を専有する實情にたいしては、如何に鈍重な露西亞の農民も、そろ／＼不満を爆發させていい頃ではあるまいか。

▲聯邦分裂の兆 さらに第三の問題は、勞農聯邦内のウクライナ高架索等の有力な

聯邦中に、莫斯科の編緯を脱して獨立自治せんとする觀念が漸次高まりつつあることである。そもく聯邦制度は、勞農の勢力を國外に擴張せんがために、レニンの採用した巧妙なる方式であつたが、其のあまりに民族自治を助長した結果は、邊境の小邦にたいする中央の威令が振はぬこととなつて來た。露西亞のやうな領域廣くして、交通の發達せざる國土において、地方の獨立的政治を許可せざる場合、如何なる結果に陥るべきかは多言を要せない。僅かに外蒙、唐努、烏梁海などを勢力圏内に入れ得た代りに、露西亞の心臓とも云はれる小露西亞に母國の絆縶を脱せんとする運動を起さしむるに至つては、引き合つたものではない。犬猿の間柄にある、英と露が聯邦問題には、今や同病相憐むの状態に置かれんとしつつあるは、甚だ興味があるではないか。

ウクライナ獨立運動の國外における策源地は波蘭の首府ワルソーにある。此等の獨立運動者等は曰く……「刻下全世界が安定を得ざる唯一の原因はポリシエウイズムの存在による。ポリシエウイズムを撃滅せんとせば、その本據たる勞農露西亞を撃破するにある。こ

れがためには露西亞の豊庫たる、露西亞生存の一大資源たるウクライナを露西亞より奪へば可なりで、ウクライナの獨立は換言すれば、世界安定の前提である……」と。斯して主に、英國から獨立の援助を受くべく、交渉してゐる。波蘭の現首相にして、事實上波蘭の元首たるビルスードスキーは豫て抱懐する大波蘭主義が早急に實現せしめ得ざる現況に鑑み先づウクライナを獨立せしめて、露西亞の力を滅殺し、ウクライナと聯盟を結んで徐ろに主義の達成を圖らんとするものらしく、獨立運動には大に好意を寄せてそれとなく斡旋しつつあるやうである。

▲對外關係の險惡 以上の如く、國內問題としては、財政經濟の行詰り以外に、幾多の難關に直面してゐる矢先き、對外關係はどうかといふと、支那におけるサウエート運動は御承知の通り一寸燎原の勢をもつて進捗したが、蔣介石が反旗を翻へしたため、一大蹉跌を來し、爾來その盛り返へしに四苦八苦の態である。支那問題は國民にたいし、あまりその成功を吹聴した結果、今このまゝに手を引くやうなことになつたらば、國民にたい

する共産黨の威信は頓に落ちるであらう。即ち支那問題は對內的に重大意義を有してゐるので、何とかして相當の成果を擧げることに関心しつつあるは無理からぬ處である。

英露の斷交は直接經濟的には影響は少いとはいふものの、世界から孤立するといふことが、國民一般にある不安を與ゆる。この精神的影響は決して小さくはない。英國を敵に廻はすといふことは、たゞちに波蘭をはじめ、波羅の沿岸において、露西亞の出口を扼してゐる所謂「沿波羅的諸邦」をも敵とするといふ結果になる。露國の中心に近い處にある、これ等の接壤諸邦が、英國を背景として、結束して起つ時には、恰も匕首を心臓に擬せられるやうなもので、この露西亞にたいする脅威の度は、北滿洲で張作霖に暴れられるやうな比ではない。グズ／＼してゐると共産黨の眞の生命にも關するものである。

これらの小邦（エストニア・ラトヴィア・リトワ）はいづれも自己の獨立保全に吸々としてゐるが、彼等は露西亞が復興して以前のやうな勢力になる時には、必ず之等諸邦を併呑してしまふだらうから、露西亞が共産黨政治の下に何時までも、實力の復興をなし得ざる

ことを望んでゐるけれども、一方共産黨の存在から來る主義の宣傳には大に惱まされてゐる。また之等諸邦は國土頗る貧弱で僅かに露國對西歐貿易のトランジット國として收入を得るより途がない。故に露歐貿易の發達は自國の收入を増加する唯一の途ではあるが、かくして露西亞が復興するときの事を考ゆると前述の如く、自國の獨立を脅威せられる結果となるので、河豚は喰ひたし命は惜しいの感であるが、兎に角國際聯盟の如きは頼りにならぬ現世においては、之等小邦は御互ひに聯盟して強露に當たるの外、西歐の強國に後楯となつてもらうといふ感念が起つて來るのは當然であつて、目下この後楯の役目を承つてゐるのは勿論英國である。

英國は極東や印度で、露國にイタズラをされる腹癒せに、之等諸邦を操縦して所謂「對露プロツク」を形成せんと、磅の威力を利用しなかく活動してゐるやうであるが、之等小邦はまた、いくら英國の手下になつたといつても、戦争してまでも露西亞に噛みつく元氣はさら／＼ない。蓋し下手に露西亞に手を出すと、却つて自分の方が一口に喰はれてし

まう危険を充分承知してゐるからである。

この邊のことはまた露西亞側の付け込み處で、露西亞は英國の「對露プロツク」政策を打ち壊はすため、之等小邦の間に好餌を與えて或は聯盟の切り崩しに、或は共產勢力の扶植に努め、その結果リトワとは已に相互保障條約を締結し、最近ラトウイアの懐柔に努め已に通商條約だけは成立せしめた。之等小邦の爲政家中には、國家よりも自己の方が可愛いいのが相當にゐるやうであるから、英吉利もうつかりしてゐると勞農に鼻毛を抜かれぬとも限らぬので、この頃は躍起となつてゐるやうである。

▲露西亞の將來 以上某氏の説のごとくであるとすれば、露國共產黨も相當危険に直面してゐるやうで、最近起る反共產黨事件の如きも、當然起るべき現象のやうにとれる。しかし之等の小現象をもつて、共產黨の命、且夕に迫れりとするは早計で、矛盾が平然と行はるる露西亞の、その將來を判断することは神經過敏にして直線的な日本人には却々出來るものではない。

自分が莫斯科滞在および、旅行中得た感想では、大部分の露西亞人はただ少しでも、以前に近い享樂的な生活が出來ればよい、それが唯一の希望で、假りに共產黨が政權を持続して行つても、この希望を充たしてくればいい……そこに非常な矛盾はあるけれども……それでもかまはぬ。何にさま昔の享樂が戀しくてたまらぬ、といふやうな處が本意ではあるまいかと思つた。

露西亞は日々に移り變つて行く。その變りかた如何は直ちに全世界に一大反響を與える。吾人は深甚の興味をもつてこれを觀んとするものである。

夏の莫斯科雜觀

一、大きな泡沫會社

流石に莫斯科も夏である、街路樹は青々として活氣を添へ、往き交ふ露人の服裝も冬に比較すると何となく美しく見える。世界大戦が生んだ最も大きい泡沫會社の露西亞も創立以來早や十年の歳月を経た。多少街路の修理もやれば家屋の手入れもやる、公園のベンチにぼんやり腰掛けて虚無に耽る露人の顔にも夏だけは希望が見える様な氣もする。

一體此の大きい泡沫會社は繁榮しつつあるのか、衰退しつつあるのか、さつぱり正體がわからない。蓋し會社の重役たる當局者と雖も吾人と同様わからないのであらう。幹部が國難來を旗印に戦争準備を叫べば、反對派が之に正面衝突をする。新聞を見て居ると恰も今や國を擧げて國難來を論議して居る様に思はれるが、一般民衆は「それは我々の知つた事ではない」と知らぬ顔の半兵衛然として居る。明日にも支那革命が成立して、自分等の生

活が向上する様に讀んだり聞かされたりして居る内に、早くも支那は全部反革命に變つて居る。英國が國交斷絶を宣すれば同國の勞働者は一致團結して露西亞の味方に起つと教へられて居るが、實際はそうでもない様である、露波戦争が今日にも初まる様に宣傳されて居り乍ら、結果はぼんやりして何が何だかわからなくなる。わからないのが當然で、わからない處に露西亞の面白味があると或人は云ふたが全くである。

二、漸次よくなる女の服裝

ある歐洲から來た旅客は云つた、

「露西亞で一番可愛想なのは女だね、虚榮は女の天性であるのに、あんな汚い風をさせられては、いくら共産主義に理窟があつても歓迎しないだらう、折角のスラブ美人も之れではね……………」

「共産主義は先づ婦人より破れる」論理が立つか立たぬか、筆者は今之を考へる餘裕がな

い。然し町を散歩して此頃目立って甲乙の差が生じて来たのは婦人の服装である、莫斯科の時價で數百圓もする絹の衣服、一足十八圓もする絹靴下、五十圓位には價する帽子、一箱十八圓（外國では一圓八十錢位）もの白粉で厚化粧して、肩で風切る美人の數がだんだん増加して来た。主人はどの位の月給を貰ふか？ 技師階級は五六百圓も取るが、一般勤務員は二百圓見當である。勿論住宅は殆んど官費、電車汽車の只乗り、芝居の無賃觀覽をするとしても、物價の高い莫斯科で、妻の虚榮を満さしむべくあまりに僅少である。それがどうして出来るか？ 結局法規以外の収入に依るの外はないのである。

レストランに行く、日本の乞食の様な服装をした労働者が一夜に數十圓を消費して成金風を吹かして居る。

一體此頃は景氣が好いのか知ら、とは誰の頭にも浮ぶ疑問である。

三、威張つた乞食

旅行者と町を散歩した。到る處に乞食が居て憐れを乞ふ、殊に外國人と見ると途中で乞食に早變りする横着者もある。露西亞の乞食の特色は、筋骨逞ましい壯年者が多いといふ事である。

「こんな立派な體格を持つて居て乞食をするとは何だ、働けばいゝじやないか、怠け者めが……………」

假りに旅行者が云へば、

「仕事のない莫斯科でどうして働く事が出来るか、君は立派な服装をして居る、授けて呉れるのが當然だ。

と威張つた返事である。

考へて見ると働くためには雇主がいる、雇主のない莫斯科、否金のない雇主ばかりの莫斯科といふ方が適當だらう。雇主は政府である、經費節約、事業縮少、冗員淘汰の標語の下に、毎日毎日政府が造りつゝある失業者の數は實に夥しいものである。莫斯科職業紹介

所で登記した失業者の数は、昨年末は百萬人であつたが本年六月には百五十萬人に増加して居る。又八月一日調、莫斯科に現住して居る失業者の数は勿驚二十萬人、莫斯科市人口の約一割である。失業者は失業後六ヶ月間、月十五留宛の手當を受ける、之が勞農當局が弊を大にして叫んで居る失業者救済乃至失業者保護である。工業品に比して食糧品の安い莫斯科では、それでパンだけは買へるそうである。然し湯は飲めぬ、まして茶に於てをや、パンと水、恰も獸の様な生活をする人間が莫斯科に二十萬人！
それでも莫斯科を去らうとはしない、蓋し何といふても莫斯科は都である、仕事を見付ける機會も、乞食の収入も他より多いからである。

四、スリ御用心

「上衣のボタンは全部かけて、スリにかゝらぬ様に注意したまへ」とは莫斯科見物に行く者に對する第一の注意である。

スリとコソ泥は莫斯科の名物である、殊に電車内が最も注意を要する。古い例は別として此の夏だけでも、日本人の被害は金時計二個、財布切り、カウス卸、絹ハンカチ三個、僅か二十人足らず、しかも相當の時日莫斯科に住んで居る日本人がこうである。恥かしくて取られても黙つて居る者もあると思ふと、其の被害の程度が察せられる。
相當の服装をして居る外國人が、あらゆる人間慾を壓迫せられた露西亞人の盜癖を唆るのも無理からぬ事であらう。

五、お寺とレーニン

莫斯科名物の他の一つはお寺とレーニンの肖像である。最初共産黨が其の主義上から、宗教を壓迫した事は周知の事實であるが、これは明かに失敗に終つた。朝夕鳴り響くお寺の鐘の音は相變らず露西亞人の心肝に徹するのである。日曜日のお寺の門前は昔ながらの人の山である。

ある人は云ふた「お寺の不潔な事、荒廢した事は昔日の比ではない、たしかに宗教は衰へた」と、然し不潔荒廢は獨りお寺のみではない、凡てである。

滑稽なのは共産黨の本家本元、赤旗翻へるクレムリンから鐘の音が響いて來る事である、「宗教は阿片也」と大書したお寺の門前に多數の群集が所謂阿片を吸ふべく十字を切つて居るのも皮肉である。

殊に皮肉なのはメーデー祭前後である。僅か數日以前に宗教上の大祭日たるパスハが來る、一般民衆は業を休み、貧乏世帯の中から無理算段して、出來得る限りの御馳走を拵へ、友を招ぶべく準備する。パスハの前夜、お寺に參集して不眠不休で讀經に耽つて居るさまは今も昔に變らない。此の民衆が二三日經つと早變りして、所謂勞農國家の忠良なる民となり赤旗を手にしてメーデー祭の示威行列に參加する、面白い對照である。

勞農當局も、今ではすべての宗教祭日には休業を許した、結局帝政時代の休日に、サウエートの休日を加へて休日の數を増した譯である。

一方各官衙、學校、政府經營の商店には到る處、レーニンの肖像畫を掲げて、故人の偉業を稱揚して居る。之に反して個人の住宅には相變らずイコナを祀つて燈明を絶やさない、朝イコナを拜し、役所でレーニンをおがみ、夕方亦イコナに禮拜する。

六、淫風荒ふ夜の公園

莫斯科の夏の夜の公園程、風紀の紊亂した處は文明國の何處の都會でも見られないであらう。レジム・エコノミーで街燈一つないうす暗い樹陰を縫ふて、男は女を、女は男を求めてそとろ歩く、そして相手を求め得た一組が到る處で醜態を演出するのである。以上述べぶるの要はあるまい。

由來一室一家族主義の莫斯科では、いかに寒國とは云へ、夏季室内に在る事は堪へ難い事である、夕方は大抵の者が散歩に出る、しかし不思議に夫は右に婦は左にといふ風で、思ひ思ひの方向をとり、夫婦相携へて散歩する者は尠い。即ち風俗壞亂の因をなすもので

ある。

一體に近頃の夫婦關係は、結婚生活といふより共同生活と云つた方が適切である。ある宴會の席上で、ある男が夫婦者に同つて結婚してどの位経つたか、と聞いた處が夫婦者は七年と答へた、すると其の男は、「七ヶ月なら話がわかるが、サウエート治下で七年とは信じられない」と笑つたといふ事である。それ程近頃は離婚結婚が奔放に、頻繁に行はれて居るのである。職業婦人の如きは「こう生活が困難では結婚しても夫婦共稼ぎの外はない、そんな位なら初めから獨身の方がどれだけ好いか、男は隨時隨所に求められるのだから」と公言して居る位である。

夏の公園が肉の歡樂場化する所以も自ら明であらう。

七、成金風を吹かす猶太人

露西亞人の服装が逐次よくなつて來るのは經濟的に復興して來た證左だと云ふ者があ

る。しかし之は富の平均が逐次破れて來た最も有力なる證據ではあるまいが、能力のある者は自己の經濟力をだん／＼恢復するし、無能力者は貧困への道を辿りつゝあるものと考へられる。斯くして革命當時一様に素裸體になつた露西亞人も、各自其の能力に應じて二方面、換言すれば人間本來の生存力に従ひ、獨自の道を進みつゝあるものと言ひ得る。新經濟政策、新々經濟政策は、此の止み難き大勢に押されて實施されたものである。さてそれでは一番有力者は何者であるか、これは明に猶太人である。

「猶太人か露西亞人かは顔を見なくとも後姿で判る」

とは莫斯科に於て露西亞人と猶太人の區別の仕方である、歩き方でなく服装をいふのである。物價の高い莫斯科で相當の服装をなし、相當の住宅に住み得る者は猶太人のみである、猶太人と露西亞人を自由競争場裡に置けば、其の天性其の才能に於て全然比較にはならない。革命以來十年間の努力は猶太人をして莫斯科の上流社會を形成せしむるに至つた。革命當時は、勞農政府即猶太政府也、とは獨り白黨の宣傳のみでなく實際であつた、其

後時勢の變轉は、猶太人の政治的勢力を失墜せしむるものがあつたが、尙依然として經濟上の地位乃至社會上の地位は一部猶太人に占められて居るのである。

ある人は莫斯科へ来て下宿を求むるに二ヶ月も要した、住宅の拂底せる莫斯科で他人に室を貸す餘裕のあるものは僅少であるからである、此の間、廣告、周旋人の利用等あらゆる手段を盡したが、結局露西亞人で之に應ずるものは僅か一二人で殆んど全部が猶太人であつた。

莫斯科で上流の生活をして居る者が猶太人である事は、露西亞内地を旅行しても汽車の一二等に乗つて居るのは共產黨員か猶太人である事、莫斯科一流のレストランで飲食するのは猶太人かゲーペーウーか、外國人の外はない事に徴しても明である。

八、共產黨員の墮落

破れ帽子に破れ靴、ルバシカ一枚で不眠不休獅子吼して奮闘したのは戦時共產主義時代

の黨員である。既に權力を掌握し泰平？に慣れては犬侍も出れば墮落黨員も出る、封建時代の武士の様に社會的特殊の階級を贏ち得た黨員の横暴の如きも周知の事實である。蓋し彼等も人間である、然も野育ちの者が多い、既に最高の權力を得て庶民を眼下に見下し得る地位に立てば、美衣美食も欲しいし、美人も欲しくなるらしい。文部大臣のルナチャルスキーの如きは十數名の妾を有し、其他の大臣連も之に準ずると噂されて居る。

一體共產黨員以外の國家機關勤務者程自己の位置を保持するに汲々たる者はない、殆んど全部が國家機關より成立して居る現在の露西亞に於て、一度失策して馘首されたが最後、他に職を求むる事の困難は想像に餘りあるのである、職業婦人等の弱味は此處にあるので、即ちこれが共產黨員のねらひ處なのである。ルナチャルスキー等の蓄妾も領かれる譯である。

九、彌縫的修理の莫斯科

寒國の夏は建物の修繕期である。現在の莫斯科で新築は殆んど見る事が出来ないけれども、家屋の表側の白亜の塗替は諸所に行はれて居る、何等根本的の修理をするのではなく単に白粉を塗つたにすぎないけれども、それが見違へる程奇麗である、事程左様にハタの家は汚いのである。

道路も車馬道の幅の広い處は手が及ばないか、ひどく破損したまゝである、繁華な町の人道の一部は修理に着手した所もあるが、これも要するに家に白粉を塗つて居る程度のものである。

これ位のことを或ひは露西亞復舊の一證左だと云ふが、餘程のお人好しでない限り直ちにこれを信ずることは出来ないであらう。元來莫斯科が斯く荒廢したのは革命が直接の原因ではない、レーニングラードでは、革命に依る被害の跡の歴然たるを見るが莫斯科にはそれがな。いつまり革命以來十年間、帝政時代の遺物を何等補填もしなければ修理も加へず、酷使した結果である。目下の修繕工事は、この酷使されて破損しきつた遺物を止むな

く彌縫するにすぎず、決して根強き復興力の現れではないのである。これは單に道路建物等の場合のみでなく、今日露西亞に於ける所謂復興なるものは、すべて此の意味に解して差支へないであらう。

唯革命當時に比し、近來個人的復興力の増進して來たことは否認出来ない様である。最近反對黨から「我國に於ける社會主義的建設は個人的建設に比し遙かに及ばない」と政府を攻撃して居るのは正にその一例證である。

十、得意満面の別荘生活

夏に於ける露西亞人唯一の楽しみはダーチャ(別荘)生活である。莫斯科郊外無數の別荘は大部分國有となり、國家勤務員の爲に開放せられて居るから、これ等の人は二週間に内宛交替で、此の別荘に來て骨休めする事が出来る。日曜祭日には各別荘地に向け、約二十分置き位に汽車を運轉して遊覽客を運ぶ、莫斯科の大部分の人間が郊外に出てしまふと

いつても過言ではない、そして昔のブルジョアの別荘を占領して得意満面である。夕方から夜半にかけて此等の人は莫斯科へ歸るのだが、燈火のない汽車には文字通りのスシ詰である。スリには好適の稼ぎ場だ。

定めし昔は立派だつたらうと想像される此等の別荘も、修理も加へずに多人數が無茶苦茶に使ふのだからたまつたものでない。

共産黨員はよく云ふ「此の別荘は昔何某といふブルジョアが一人で占領して居たのであるが、今は吾々が自由に夏を送る事が出来る様になつた」と、共産主義を賞揚しその最も大なる特典が別荘を自由に使へることにあるかの如く、有頂天になつて居る。正しく多數の人間が平等に、愉快に、すごせるのは結構な事に相違ない、しかし、物悉くが荒廢に歸しつゝある現在、此の別荘もやがて使用に堪へなくなるであらうが、その時こそは共産主義の最も大なる特典は無になつてしまふ譯である、別荘のみならず、すべて帝政の遺物によつて運轉して居る國家全體が無に歸するのではないかと思ふと、昔ブルジョアのみの遊

び場であつた劇場や、レストランや、別荘を占領して嬉々として居る露西人の心理の單純なのに苦笑を禁じ得ない。

十一、レジム・エコノミーと浪費

財政緊縮、節約主義は近年政府當局の大方針の一となつてゐて、各種方面に亘り冗費の大節約を厲行して居る。レジム・エコノミーは三歳の童子も口にする所である。従つて個人生活に於ても、これまで一室三個の電球を使用して居たものは二個に、或は一個にするといふ風に、すべて政府の監視の届く範圍の節約は厲行されて居る。政府の目の行き届かない處は此の限りではないが……

實際、生活に餘裕があるか無いかは別として、日曜や俸給日の夕方には町の各所に泥酔者を見る、殊に労働者が多い。私有財産の危険を革命によつて直接體驗した彼等は、困窮な生活を更に切りつめて貯蓄しやうなどいふ考へは毛頭持たない。「現政府の將來を想ふ

時安心して貯蓄する氣にどうしてなれるか、彼等が一様に答ふところである。金を取れば明日の事は考へない、目の前の人間慾を満すべく惜し氣もなくその費にあてる、利那主義である。政府の節約主義に庶民の浪費主義、面白い對照である。

政府は財政の危機を救ふべく屢々公債を募集するが其都度、應募する者は極く極く僅少である。其の方法は市民の射倖心を利用するもので、割増金二萬五千留、利子一割二分などいふ所謂富籤債券であるがそれでも仲々賣れない。結局國家機關の勤務員に對し強制的に賣り附けるか、僅かな給料の兵卒に月割で無理に買はせる等の苦策を弄するのである。利那主義の國民の前には富籤債券も猫に小判である。

十二、恐ろしい宣傳の力

宣傳に對する努力とその効果、露西亞に於て最も目につくのはこれである。最近一年間に於て一番力を入れたのは支那革命についてである。都會は勿論田舎でも蔣介石の名を知

らぬ者はない、日本人を見ても支那人と間違へて、醉拂ひの労働者や子供等は、「蔣介石」「張作霖」などの名を擧げてすぐ話しかけて来る。すこし物のわかつた者は、電車内や公園のベンチなどでも支那革命について質問を發する、俺は日本人だから支那の事はよくわからぬと答へると初めて日本といふ國があつたのだなと、記憶を喚び起す様な顔をして居る。すべて利那的の宣傳事件が終ると、國民の大部分は宣傳された事を案外早く忘れて居る様である。彼等は今、世界には支那と英國以外に國はない様にさへ考へて居るのではないかと思はれる。

對支宣傳と目標が決まれば、演説、新聞雜誌記事、各種のポスター、悉く支那に關係した事のみで滿される。芝居の脚本も活動寫眞も皆同様である。目標に向つて勇往邁進する當局の指導方針には全く感心せざるを得ない。

唯國民の健忘性は、以前に宣傳された事の結果が如何であつたか、それを思ひ起す事もなく、直ちに次の宣傳に乗つて平然として居る。

莫斯科まで

左記は最近西伯利經出入露した、本社客員H氏の旅行記の一部である。興味を兼ねた好参考資料と信ずる。

マツエフスカヤの一時間停車

日本酒、日本趣味にしばしの別れを告ぐべく、満洲里の乗替の二時間を利用し、日本宿でした。か日本酒を呷つた揚句、午後十一時慌たどしく莫斯科行のエキスプレッスに乗る。濫い見送りの邦人、冷かに、唯物的に吾々を眺むる驛員、列車ボーイ、春暖と秋冷と交々至るの感がある。

例の露西亞式のガンガンといふ發車の鐘を合圖に列車は徐々にスベリ出した。暗の裡に心ゆくまで吾々を見送つて呉れるのか、第一線満洲里の邦人はプラットホームの薄明りに姿が消え込んでゆくまで、帽子や手を振つて居る。列車ボーイは、そんなことには聊

かの頓着も遠慮もなく、扉をピシヤリ閉めてしまった。

しばらくすると列車はマツエフスカヤ驛に停つた。十月も下旬の空は中々の寒さだ。今日は卅一日、先帝陛下の天長節祝日である。

ボーイに停車時間を聞けば一時間といふ。その間に満洲里のホロ醉を醒まさんものと、ワゴンから下車しやうとすると、ボーイが扉の處に立ち塞がつて、ネリジャー(イケナイ)といふ。何故かと訊くと、軍隊が列車を検査するのだ、と答へる。そこでネブリヤトノ(ペラボーメ)と言つたら、ボーイ達は、此の驛には列車勤務員さへも下車させないのだ、と御同様にブツ／＼言つて居る。何の検査があつたのか吾々の一等車内では何もなくて済んだ。然し三等乗客は一々パスポルト其他を調べられた様子だつた。

何にしても満洲里を出て僅か一驛である、こんな處で一時間も無駄な時を過さねばならぬ位なら、満洲里とかわつて居て呉れたら、今少しゆつくり日本氣分に名残をおしまれたらうにと恨まれる。仕方はない。

ホロ酔氣嫌もいつしか夢の裡に融け込んで行つたらしい。

停車場の雑景

イルクーツクに着く。極東と西部西伯利との接際、蒙古方面への通路、此の地方屈指の都市である。停車場は相當大きなのだが、數年來建物に修理を加へた形跡等が少しもない。窓硝子は處々破れて居り、壁の塗替もいつしたものやら、上り下りの石段の如きも至る處かけて居て、うす汚ない壁には「國家の工業化」「二億留の富籤附公債募集」「兵卒の召集」「勞働保険」「極東移民」等、半ば破れたポスターが不規則に貼り散らされて居る。一寸廢屋を見るの感がある。

プラットホームには、例の長い外套を着た士卒が何やらお互に饒舌りながら、ブラリブラリ散歩して居る。傍らには貧苦のドン底にあるやうな、みすぼらしい老婆や子供が黒パンを嚙つて居る。ウオツカに酔つたのか、零度以下の寒天の、石のホームにスヤ／＼眠つて居る浮浪者らしいものもある。吾々一行の下車を見かけて、金を恵めと手を出す老翁もあ

る。巡査はこの不體裁を吾々外國人に見せたくないためか、物貰ひを追ひ散らして居るが、彼等は一向平氣である。そして曰く「生活に困るから」と……

此の汚ならしい停車場に、青年達が多勢集まつて、松の葉を綱に結び付けたフサで大きなアーチを拵へつゝある。數日後に来る革命十周年記念祭の裝飾だそうな。喰ふや喰はずで居ても、革命記念祭は飾り立てるのだなと、皮肉な笑を催さしめる。

ウランバートル（庫倫）行定期航空

驛の上空にプロペラの音がする、聞けばイルクーツク、知多、庫倫間の定期輸送といふこと。乗客は五人乗りと、詳しく聞く間もなく汽車は發車した。

庫倫のやうな田舎に定期航空などをやるところに、露西亞の味があると思はれる。

孤兒（ベスフリゾールヌイ）の無賃乗車

革命や饑饉のために、父母兄弟を失つた孤兒の多いことは著名な事實で、政府の頭痛の種となつて居る。

丁度列車がイルクーツク驛を過ぎたある小驛から、年頃十四五歳位の孤兒が國際寢臺車に乗り込んで来た。衣服は破れ千切れて、まるで糸屑の様になつたのをまとふて居る。一等車の各部屋の前に、何も云はず、物貰ひたげに立つて居て、何か呉れてやらねば立ち去らない。普通の乞食のやうに何か貰ひ出すために色々せがむでもなく、その言葉を出すのさへ、ものう氣である。幼くして親や兄弟を失ひ、強い精神的打撃を受けて、變態的性質を帯びて来たことが明に窺はれる。客から貰つた食物で相當腹がふくされると、無言のままペーチカの横にうづくまつて、いゝ氣持ち相に眠つて居る。次の驛の來るのを待つて、ボーイは放り出してしまつた。

彼等はどうして列車内に食を得、暖を執り、時をすごし乍ら、驛から驛と流浪して居るのである。家もなければ親もない、廣い露西亞をあてどもなく流れ歩く彼等の身の上こそは、哀れにも淋しい極みである。

列車ボーイの密輸入

サウエート聯邦の物價の高いことは世間周知の事實であるから、今更説明の必要もないが、中でも工業生産品は殊に高い。

此の物價騰貴にも拘はらず、海外貿易が國營であるから、密輸入は當然まぬかれぬ譯、國境を一ツ越えて、酒なり靴なりを密輸入すれば、その月の生活は樂である。列車勤務員等が、たとへば、新品の服を着用に及んでサウエート聯邦に歸り、之れを叩き賣るとすれば、列車勤務以上の収入を得られるのである。

丁度滿洲里を出て二日目の早朝だつた。起きて服を着、窓にかゝつて居る筈のブラシを取らうとしたがどうしたことかそこない。探して居ると寢臺の下に落ちて居た、ところが落ちて居るブラシの傍に一ツの紙包みがある、拾ひ上げて好奇心から開いて見ると、中から女の絹靴下とトランプが出て来た。誰か置き忘れでもしたのかと思つて、クーベールのテーブルの上に置いて知らぬ顔をして居ると、之れを見つけたボーイが早速しまひ込んでしまつた。サテは密輸入かなと感じた。

女の絹靴下が、莫斯科では十數留もするのである。北滿方面では四五留である一足の靴下の密輸入で、十留は儲かる、五足で五十留、五十留は彼等の三ヶ月分の俸給である。

列車内の密姪賣

イルクーツクを過ぐる頃、あまり立派でもない三四人の女客が三等車に乗り込んだ。

一寸三等車の構造を説明する必要があるが、三等車も一等車と同じく、列車の一方に片寄つて廊下があつて、その廣い側に四人宛一室に詰る様に仕切つた部屋があり、内側から扉を閉めれば、外界とは絶縁されるやうに出来て居る。夜はその廊下にばかりカンテラが點されて、室内には全く燈火がない。(一等や食堂には電氣がある)

廣漠たるシベリヤ平野の無味な永い旅は、紳士といはず労働者といはず、無聊と寂莫に悩まされること實に深刻なものがある。こういふ時に、脂粉の香や異性のヤハ肌が殊に慕はしいものに思ひ出されるのも、人情の常である。この虚を巧みに衝く者があるとすれば、誰か又木石ならんやである。

件の女等は日が暮ると同時に、挑發的な調子のバイオリンを弾き始めた。暫くすると、隣室の憲兵(ゲ・ベ・ウ)らしい二人の露人が、愈々たまり切れなくなつたのか、ポイイに相談して其の女のところに同室することゝなつた。三等車のクーパーは、一きは音楽で賑つたが、夜が更けるといつか静まりかへつて、燈火のないクーパーは一入ヒツソリ閑となつてしまつた。

次の日其女達は、又別のクーパーの商人態の露人と同席して居た。例のゲベウ連中はいつの間にか列車内に影を見せなくなつて居る。其の夜も前夜と同様である。今後こうした夜を繰返しながら、莫斯科まで續けて行くのか……

電氣の節約

803
エレクトリザイチャ(電氣化)は曾てレニンが高唱したところである。處がシベリヤ沿線で電燈の點いた町は殆んどない。こういふ風だから電氣化の必要を叫んだのであらう。列車内に於て、ポイイが電氣の節約を心がけることゝいつたら實に甚だしいもので、夕

方、本が少しも見えなくなつても中々電氣をつけて呉れぬ、朝はまだ暗い内から消してしまふ。乗客の便不便なんか、殆んど念頭には置かないらしい。レジム・エコーノミー（緊縮）が、あまりに徹底しすぎたのか。

食堂車内の不作法

露領に入つて直ちに感じたことは、彼等の服装が頗る貧弱であるといふことよりも、又建物が汚いといふことよりも、一般露人が、一種云ひ表せぬ人間味に乏しいことである。何となくいやな感じを興へることである。誰れの顔を見ても温か味を漂はせて居るのはない。列車ボーイの如きも、頼まれたことをすれば、それで事足れりといつた様な風で、客に不快の念を起さしめぬ様努めるなんてことは、毛頭考へにないらしい。此の邊、唯物觀的教育があづかつて力あつた結果だと思はれる。

列車食堂のボーイなども、食堂内の禮儀なんか少しもお構ひなしで、汁を客の前にはばす位のことには平氣である。言語ふるまひ、悉く粗野である。簡単に云へば、客の胃腸に少

しも早く食物を詰め込みさへすれば、食事の目的はそれで達するものと考へて居るらしい、結局それに相違ないとしても、食事の氣持等は全然念頭に無い様だ。食物に至つては徒らに量ばかり多くて美味しいこともなんにもない。之れもカロリーさへあればそれで足りる、といふ考へからではないかと思ふと、益々有難くなつて来る。

唯、物のみを以ては満足出来ぬ吾々と、物を以て唯一とする彼等の生活との相異より生ずる當然の景品ではあるが、實に厄介な賜物たるを免れぬ。

犬の乞食

西伯利の何處の驛でも、列車が着くと何處からともなく、多數の野犬が停車した列車をめぐめて集まつて来る。これ等の野犬は、ワゴンの出口に乗客が散歩等に出るのを待ち受けて居て、パンの残りなどを貰ふことを例として居るらしい。

浮浪孤兒に犬の乞食、經濟逼迫の状況をこういふところにも反映して居るのか。

莫斯科 著

十一月七日朝莫斯科に着く筈の列車が、大分遅れてその夜になつて露都に入つた。驛の前や街々は、革命十周年記念祭當夜であるから、それこそ肩々相摩する盛況を呈して居ること、豫想して居たが、豈はからんや着いて見ると静かなものである。丁度日頃の銀座の半數位の人出である。

多少荷物もあるので二臺の自動車雇つてホテルへ走らせた。始め自動車は一臺八圓といふ約束だったが、ホテルへ着いて金を拂はうとすると十五圓を要求して譲らない。「金を豫約より多く要求する、一體モスコフスキーか或ひはサウエートスキーか」と強い語氣で嘲るやうに詰つてやつたが、彼等は平氣なものである。要するに金を取りさへすればいいといふ態度である。

この自動車ホテルの前に停つて居ると、四五人の男が自動車の後ろに迫つて、小便をやりはじめた。彼等の曰く、自動車の蔭で小便するのが一番譯がない、と、町の真中でのことである。

視 察 紀 行

久原經濟特使隨員

小 西 増 太 郎

一 イルクツクまで

昭和二年十月廿三日に東京を出發して途中奉天に二泊、哈爾濱に着いたのが廿八日である。こゝで防寒衣等の準備を整へ、東支鐵道は鐵道當局の優遇によつて車中頗る愉快に三十一日には滿洲里着、休息三時間、發車すれば僅か二十分にして愈々サウエート露西亞の領域、ザバイカル州に入る。

長春滿洲里間は、悠長な支那兵が停車場毎に日本式又は獨逸式の小銃を持つて守備に任じて居るが、滿洲里以西は、灰色の制服に同色で脛まで届く様な外套を着、これも同色の

帽子は桃頂式に仕立てたものを戴き、連發式ベルダン銃を肩にした、一向締りのない顔付の守備隊兵を見る。

汽車は露西亞の他の種々なものゝ内では、仲々立派な方だが、これも修繕が行届いてゐないので同じ一等車でも外の國のに比較すると、西伯利のそれは餘程見劣りがする。殊に遂隣りの東支鐵道が頗るよく出来て居るので一層この感を深うする。

西伯利線の停車場は公園でもあるかのやうに、附近の住民が暇があると列車の通過する時間に出て来て、プラットホームを散歩する習慣がある。列車が着くと驛の大小に應じて數十人乃至は數百人の若い男女が手とりつゝ、語りつゝ遊歩して居るのを見る。この習慣を知らない外國人は、西伯利線の驛といふ驛、どうしてこう乗降客が多いのだらうかと驚くそうであるが全く無理からぬことで、外國のどこでも見られない場面である。

未智な人達の間には西伯利といへば朔風荒るゝ茫漠たる曠野を聯想し、白熊位しか棲まない極北のやうにばかり思つて居る向もある様だが、西伯利といつても殊に鐵道沿線は決

してそんなものではない。現に哈爾濱のデルトラで出版した英語の鐵道案内には、親熊が二疋の子熊をつれて林間に戯れて居る圖を畫き、西伯利の名物として公衆に示して居るのであるが、聊か人を愚にした傾きがある。

滿洲里を發して駛行約十七時でチタ市に着く。チタ市はザバイカル州の首都、曾てはセメノフ將軍の幕營地で、仲々繁昌したものであるが、附近にこれといふ産物がないので近時は至つて振はない。

チタを出て一晝夜の間には頗る有意義な所がある。

ウエルフネウーヂンスクは、蒙古の大都會キヤフトに通ずる要地で、何時でも停車場には數十名の蒙古人が居る。各地から蒙古に送り込む物資、蒙古各地から諸方に送り出す天産物若くは獣皮羊毛等は、このウエルフネを経由するのである。ウエルフネを過ぐる次日の未明から山間の谷々、鐵道側の疎林を徹して例の七博士の公開文で有名なバイカル湖が隠見する。

バイカル湖はその長さ約二百里、幅員に於てはその最も広い所で約三十里とされて居る。周囲は連亘せる山脈で、處々には密林もあり風景の佳なる文人雅客を喜ばしむるに足るものがある。水は頗る清澄で、三四十尺の水深で明かに湖底を洞見することが出来るといふ。一行を乗する列車の車長の説明に曰く、亞細亞に於てこのバイカル湖ほど深い湖水は他にない、最も深い處は一干呎に垂んとすると。

老子曰く、水清ければ魚棲まずと、バイカル湖は老子の言に違はず、水清澄なるためにか魚類はきはめて少い。筆者がこの湖邊を通過したのはこの二十數年間に前後十回にも及ぶが曾て湖面に魚の浮游して居る氣配だに見たことがない。偶には釣を垂れて居る人もあるやうだから、どんな魚が釣れるのか聞いて見ると、オークニと名づくる鱸に似た魚で、味は鱸よりも美味いといふ。湖邊の大驛バイカル附近では調理したオークニを賣つて居るが、試みにこれを買ひ醬油を加味して味はつて見ると、なる程美味である。併しあまりに脂肪が濃厚なので、早く厭くやうである。

湖水の南端から、この湖水を水源とするアンガラ河口までの間は斷崖絶壁で、三十餘の墜道を穿つて車道が出来て居る。景趣盡きざるものがある。

汽車は湖邊に沿ふて早朝から午後の三時頃まで走り続けるのであるが、これでも湖邊の約四分の一を通つた位にすぎないのである。

アンガラ河は頗る急流で、處々には島嶼の點在するあり、これ等の島々や河岸には或は森林が茂り牧場が展げ、天然配景の妙は行客の目をしばし楽しましむるものがある。

河岸に沿ふて西行すること約三時間にして西伯利の門戸たるイルクツク市に着く。

市はアンガラ河の右岸にあり、東部西伯利に於ける最も古くして且繁盛なる大市街である。帝政時代にあつては西伯利總督の所在地で、諸官衙を有し、極東に於ける國政の策源地たるの觀を呈して居たが、今は全く火の消えたやうな状況で、寂寥々たるものである。

左岸にある停車場は、西伯利に於ける最も大規模のもので、車庫は勿論汽車の修繕工場もあつて仲々堂々たるものである。

ところがイルクツク市とその附近は、天恵に浴すること稍貧弱でこれといふ特別の天産をもたない、バイカル湖邊から伐り出す材木にしてもあまり豊富でないから、特にこの地方の繁榮を招致する程ではない。レナ、エニセイ、オビ三河の流域は砂金に富んで居るけれども、その利益はクラスノヤルスクや、トムスク、ノオシビルスク市等の壟斷する處となるので、イ市は何等そのお蔭を被らない譯である。

二 ノオシビルスクと中央亞細亞鐵道

中部西伯利に於て目下東西の注視點となりつゝあるのは、ノオシビルスクである。當地よりブハラ、サマルカンド等の中央亞細亞の要地に向つて南下する延長數千軒の新鐵道建設が始まつたからである。

ノオシビルスク市は舊名ノオニコラエフスクと言つた處で、オビ、エニセイ兩河間の豊饒地を控へて居るので、頗る將來のある商業地とされて居たのであるが、今度勞農政府が中央亞細亞鐵道の建設を始めたので、更に一層繁昌を來すこととなり、昨今の形勢では、

毎月千七八百乃至二千の人口を増しつゝあるといふ。

この鐵道が竣工すれば、中央亞細亞を西伯利線に聯絡せしむる莫大なる利益がある外、西伯利の穀倉と稱せらるゝ地方を經過するので、この地方の利源を開發するのは勿論、金鑛、石炭鑛の如き天然の寶庫も開くことが出来る。

右炭鑛は殊に露西亞工業界の注目する處となつて居るので一言これに就いて述べて置きたいと思ふ。

この炭鑛はクツネツキー炭田と稱し、層厚約百二十尺、面積約二方里、傾斜二十五度乃至三十五度、炭質はコークス性で、炭量約二十億噸と稱して居る。ある地點に於ては地表に炭層が露出して居るから、撫順炭坑の如く露天堀を行ふことも出来るのである。現在では搬出の設備が整つてゐないので、たゞ當該地方の需要に當てゝ居るのみであるが、鐵道が敷設された曉に於ては、設備に資金を投ずる額に比準して多量の石炭を採掘することが出来る譯である。

如上の地域内には、舊帝政時代にオルロフといふ貴族の經營して居た金礦がある。約百年間も採掘して居たのであるが、交通の便なき地方のこととて、事業の進行は遅々たるものであつたに相違なく、まだ採掘の餘地あるものと思はれる。

尙同地方は前述の如く西伯利の穀倉とも稱される地方であるだけに、小麥の産額たるや實に莫大なもので、農民は毎年の收穫を如何にして賣拂ふかと苦慮する程で、一石の小麥が僅か一圓五十錢位で賣買されるのである。尤もオビ河エニセイ河の本支流に沿ひ舟楫の便ある地方は自ら選を異にする譯であるが、それにしても寒帯の國柄として、河川の氷結は速かた、而してその融解は五六月頃になるので、産麥の全部を搬出することは到底不能なこととされる。鐵道輸送の便には比すべくもないのである。

鐵道完成の曉この優越なる地歩を占むべきノオジビルスクが、近時著しく發展するのはその據る眞實に斯くの如きものあつてのこととて、抜く可らざる根底に基いて居るのである。

三。ロマノフ家最期の地

筆者が始めて西伯利鐵道でこの邊を通過したのは明治四十二年の八月で、當時鐵道は二日でも三日でも森林の中を疾走したものであつたが、今日で森林は鐵道から遠く去つて之れを望見することさへ困難である。車窓の眺めは清々して氣持よくはなつたが、伐採したあとに植林するでもなく、耕耘されて居るところはほんの小部分で、其他利用されて居ても牧草地若くは放牧地たるにすぎず、殆んど大部分はそのまま放棄されて居るので、單に富を減じたといふに止まる、こゝに想到すると一種の淋しさを感じざるを得ない。我々手狭な國に育つた者の眼から見るとこんな土地を遊ばせておくのは實に惜しいものと思はれる。然し森林伐採は鐵道の兩側七八里の處まで行はれたのみで、まだ奥深く繁茂して居るといふから廣茫たる西伯利の野に悲觀の眼を投ずるにも當るまい。

西伯利の平原が終りに近づきウラル山域に入らんとする地點にスエルドローフスクの市街がある。西伯利としては先づ大市街に屬する方である。

ス市は色々の點に於て我々の好奇心をそゝるものを有して居る。

第一その名稱に於て既に然り、舊市名はエカテリンブルグと言ひ、當市創設當時の女皇エカテリナの名に依つて命名されたものであつたが、共產革命の成るや、共產黨の闘士でレニン氏の秘書として棘腕を振つたヌエルドロフ氏の名を取つて變名されたのである。

この街とは何等直接縁故のない人物の名を冠せられて居るのである。

次には、ウラル山中の寶石、其他の産物がこゝに持ち出されて販賣されて居るので、この驛を通過する旅客は争つて之を購ふのを例として居る。特にこゝが安價に寶石其他のウラル産物を求められるといふのではない。寶石は莫斯科や哈爾濱の方が安く買へるのである。長い汽車の旅に厭いて何か新しい刺戟を欲して居る折柄なので、少々高價なこと位は無聊を慰する代價として顧みないで購はれるものらしい。兎に角この街の印象を深からしむる一事である。

更にこの地は、ロマノフ家最終の皇帝ニコライ二世がその家族従者と共に、共產黨員の手にかゝつて非業の最期を遂げた、帝政没落の哀史に深い關係を持つ街である。この事は

その地名と共に永久に青史に傳へられ人口に膾炙されることであらう。

プラツトホームの一端に立つて感又多少ボンヤリ市街を望見して居ると、一露西亞人が何を眺めて居ますかといふ。

ニコライ二世がどの邊で殺されたかと思つて

と答へに應じて指し示す處には鐘樓が悄然と屹立して居る。教會の丸屋根に、色のあせた十字架が立つて居るのも何となく物淋しい感じである。

ニコライ二世の最后については、人も知る如く異説紛々として眞疑何れとも定かならぬものがある。

一説にはある日守衛長が前皇帝に向ひ「他の市街に轉居させよとの命令だから整理せよ」と告げ、皇帝が家族と共に一室に整理するや、次室に控へて居た兵隊が一齊射撃を行つて之を斃殺したものであると、頗る残酷、悲愴で皇帝の終焉としてありそうな話である。

又、ある日守衛長は莫斯科よりの命令なりと稱して、死刑の宣告文を前皇帝に読み聞かせた後、直ちに銃殺したとの説もある。しかし今はその眞疑の程を論ずるを要しない。たゞ指示さるゝ皇帝最期の地を望んで、轉た哀愁を感じるのみである。

四 莫 斯 科

ウラル山中に亞細亞と歐羅巴の境界標が建てられて居ることは衆知の事實であるが、一行の通過したエカテリンブルグ、ウヤトカ線では之れを見ることが出来ない。この標識はウラル鐵道南部線の方で、オムスク驛から左に進みエカテリンブルグを遙か北方に望みつゝズラトウスク驛に至りそれよりウハー驛に向ふ途中に於て望まれるのである。この方の沿線には、高い山あり深い豁谷あり、眺望が刻々に變化して車中も愉快であるが、エカテリンブルグ、ウヤトカ線は沿路の風景頗る平凡で倦怠を感じることも甚だしい。

遮莫、吾々一行は滿洲里を出てから八日目即ち十一月七日の夕方莫斯科に到着した。列車時間表通りであれば七日の朝莫斯科着の筈だから、その日の午后四時に一行は伯林

に向け出發する豫定のところ、約九時間の延着のため伯林行列車の發車時間に後れてしまつたのでこの豫定は變更の餘儀なきに至つた。約六千五百軒、七晝夜も走り続ける汽車の事だから多少の遅延位は止むを得ないとしても九時間といへばあまり無茶である。夜の七時を過ぎてから旅館に移らねばならぬ破目になつた。

ところがこの日はサウエート革命の十年記念祭當日なので各縣の黨員、各官衙の代表者が廣い露西亞の版圖内から集まつて來て居るので、旅館といふ旅館は何れも満員の盛況である。筆者がこれまで泊り馴染の大モスクワ旅館に馳け込み、無理な遣り繰りをさせ、やつと七室だけ提供させたが勿論上等の室ではない。室の良否など論ずる場合ではないから不平も言はず、御厚意忝なしと泊り込んだ。

こんな厄介な思ひをして莫斯科に一泊した代りには、革命十年祭の夜景を見る事が出来た。自動車を驅つて通過した町々は莫斯科市内でも最も賑やかなところであつたが、家々は多くレニンの半身像又は畫像を中心として裝飾を施し、町々はイルミネーションに色ど

られ、さすがにお祭気分が漂つて居る。赤いサウエートの事とて飾りものすべてが赤色を帯びて居るのは勿論、それに電光が映えて全く赤色世界に彷徨して居る感がある。歩道は見物人で満されてゐるが秩序は少しも亂されず、何れも静肅に歩いてゐる。こんな日には政府がアルコール飲料の販売を嚴禁するから酔漢などは見當らない。ホロ酔機嫌で散歩でもして居て巡査や角袖杯と衝突でもしやうものなら、何の容赦もなく拘引されて、科料二十圓位か、又は數日の拘留に處せられるのだからたまらない。静肅ならざるを得ない次第である。

このお祭騒ぎが東京でもあつたら、それを賑やかなことだらうが、こゝでは音楽などの催しもなくイルミネーションの見物位で満足して、静肅を旨としてそゞろ歩いて居る態は氣の毒なやうである。

滯露中雜觀

K H 氏

左記は今回露西亞並に接壤する關係諸國を巡歴し、親しく實情調査に任じつゝある本社特派員K H氏が滯露中の雜觀を述べたものである。記者は目下土耳其政府に滯在して居る。

國營商業

社會存立上の動脈とも云ふべき生産及び分配の權を國家の一手に收め、國家の意志通りに生活必需品を按配せんとするのは共產政治の理想である。

サウエート聯邦の都市に於て第一に目につくものは、生活必需品の分配たる商業を擔任して居る國營商業機關である。或は食料品コーペラチーフ、或は金屬製品トラスト、或は國營汽船切符販賣所、或は國營ホテル、國營レストラン等悉く國營ならざるはない有様である。この間に個人商店が肩幅せまそうに小さい看板を掲げて居る。

さてこの國營商業の商賣振りを一覽するに、例へば先づ靴店に這入つたとする、誰もお早うとも、いらつしやいとも云はぬ、日本のお役所に於けると同じである。そこでお客は自分の買ひたい品物を告げると、店員は型の如く其品をお客の前に展開する。お客が品物が氣に入らぬ様な風をして居ても平氣である、他のものを出して見せやうとするでもない。買手と賣方との間に情愛など聊かも含まれないのである。それでも兎に角女靴を一足買つたとする。求めた女は自分の足に果して適ふかどうかをためして見る、ホンの少しボタンだけの位置を替ふれば氣持よく穿けるのだが、それを見て居乍ら店員はそのボタンを付替ふるだけの勞力を提供しやうともせない。仕方はない、買つて歸つて慣れないことを自分で繕はねばならぬ。之れが個人商店だつたらそんなことはない、直ぐ修正して呉れる、愛嬌もあればお世辭もいゝ。

汽車の切符を販賣するデルトラといふ國營の店がある。店員が四五人、お客も大抵十人いつも居る。寢臺券を要求しても、先づ辭書のやうな部厚な賃金表を繰り出さねば價が

判らない、やつと判つて金を拂ふと大きな受取書見た様なものを渡して切符は直ぐ呉れるのではない。切符を受取るまでには四五十分位待たされる。丁度日本で銀行に行つて何十萬圓といふ預金を出す位手数料がかかる。賣り切れてはならぬと思つて翌日の切符を買ひに行くと、切符は又明日受取りに來いといふ。翌日行つてもおいそれと渡しては呉れぬ、實に厄介な事夥しい。又この店に行く爲に百哩分の汽車賃に相當する位の馬車代を棒にふらねばならぬ。切符は日本の大封筒位のものに何やらコマ／＼しく書き立てたもので、切符の紙代だけでも随分かゝるだらうと思はれる。事務簡捷を叫ぶ所も肯かれる。

買物に列を作つて居るのは各所で見受けるところで別に珍しいことではない。朝などは朝飯の用意をするために、パン、牛乳等を買ひに來て居るのだが、第一郵便局で見るやうな小さい窓口から一人々々買ひ取るのだから暇取ること甚だしい。それに店員が仲々さばけない。それでも買手は仕方は無いとあきらめて居るのか、慣れて何ともなくなつたのか、ニチエオー主義の先天性によるのか、平氣で井戸端會議式の談笑に耽つて居て焦れる模様

もせき立てる風もない。

高い物價

生産分配を國家の手に收めた以上、物價は自然安くならねばならぬ道理である。物品の普及に關し、何等不勞所得を着服する仲介者たる商人が居らぬからである。

處が仲々そうは行かぬものと見えて、物價特に工業生産品の高價なる事は世界にその比を見ない程である。物價昂騰には頗る苦しんで居る、今物價高を歎ずる一例として莫斯科の一タイピストの語る處によれば

物價が高いばかりでなく、吾々の要求を満足せしむる品物は皆無である。この物價を下げ、良品を得るためには自由貿易をやればいゝのである。一寸國境を越ゆれば二留か三留で買へる靴下がサウエート聯邦内では二十留もする。實に不自然である。然るに爲政者は自由貿易をすればサウエート聯邦は諸外國の資本に壓迫せられて帝政時代と同様資本の羈絆に苦まねばならぬと云つて居るが、そんなことは爲政者のみの苦痛であつて

吾々政治に關係ない社會の一員としては何等の苦痛も感じない。それよりもきれいな氣持のいゝ生活をした方がどれだけ幸福かわからない。と

これは政治的に無智な一婦人の言ではあるが一寸面白い觀察である。又如何に生活必需品の高價なるに苦しんで居るか、窺はれる。

この物價高騰と自由貿易の禁止は勢ひ密輸入を盛ならしむることゝなつた。汽車汽船の乗務員の如く比較的多く便宜と機會とを恵まれて居る者の間では盛んにこれが行はれる。黒海航海の船中等では、乗客も船員も密輸入の話して持ち切りの有様である。ある時露西亞婦人が君府への旅行に頗る立派な毛の外套を着用して居た、君府に數日滞在後往きの姿で露西亞の港に歸つた處が、外套に君府の香水が香ふといふので、税關吏はこの外套は密輸入品だと主張して女が如何に辯解しても、泣く様にして訴へてもいつかな背き入れない。仕方なく女は輸入税に相當する税を支拂つて上陸したといふ話もある。この税關吏の無謀と神經過敏さには全く驚かざるを得ないが又一面、如何に密輸入に悩まされて居るかを反

證するものとされやう。

今一二の物價を國外のそれと比較して見れば、例へば、哈爾濱あたりで三四十留で買へる服が先づ百留以上、哈市で百留もする服は二百留出しても買へない。同じく哈市で七八留の靴は些くとも二十留はする。全般の比率が之れと大差はないのである。

共産黨員と猶太人

社會一般が惨めなる生活を續けて居るにも係はらず、踊場、料理店の賑やかなことは實に驚く程である。處がこの料理店等でも高級な處に来る客は殆んど猶太人か然らざれば共産黨員で、一般露西亞人は下等なところで満足して居るやうである。猶太人はどうして金を得るのか知らぬが金使ひも相當荒く、純露西亞美人を擁して悦に入つて居る、この豪勢ぶりを見せられては、猶太人排斥の喧しく論議せられるのも無理からぬことかと思はれる。兎に角こう云ふ餘剰生活場裡に幅を利かす者は猶太人と共産黨員である。

ある幹部級の共産黨員の語るところによれば、吾々共産黨員の名を以てすれば、如何な

る佳人も處女も立所に自由にすることが出来ると、眞疑の確證はないが、共産黨員が男女の關係の上に於ても優越權を有して居ることは明かである。問題は別だが汽車の一等に乗つて居るのでも皆之等共産黨員と猶太人ばかり、三等に詰詰にされて居ても、一般の者がこれを見て怪しまぬ處に露西亞人の面目が窺はれる。

自動車の不足

露都は自動車が實に少ない、東京の十分の一位だらうか、それも新しいのは見出すのに骨が折れる。全部ガタ／＼である。停車場に下りて自動車を見付けるのは一仕事である。

乗合自動車には國家經營のものと個人經營のものと二種ある。國營のものは米突付であり高くはないが、乗らうと思つて行つても運轉手が居らぬことがある。運轉手の居所を捜しあてゝも飯を食ふとか何だ彼だと、仲々気軽に出して呉れない。營利觀念が少しもない。一日どうにか働けばそれでいゝといふ考へらしい。然し分け前は少しでも多くを望むのだから、働かずに多く儲けるには悪いことをせねばならぬ。だから外國人と見ればメー

タ一の数字を最初から三留と出したりする。個人經營のものは一體にあまりポルので乗手が少ない。年に千四百留も税金をかけるといふことだからボラざるを得ないのだらう。

處に依つて異なる自由の程度

自由を理想とする國家だがその自由も處によつて差異がある。莫斯科は政治の中心でゲ・ペ・ウの監視も嚴重なためか、屋外で公然と政權を誹謗するやうなものはあまり見當らないが、一步莫斯科を出ると仲々そうでない。レニングラード行の汽車に乗ると早速車中勞農政府の悪口を聞く。レニングラードは反對派の多い處とは聞いて居るが、こゝではやゝ自由に政論等を闘はせて居る。又卑近な例では、莫斯科では決してそんなことは許されないがレニングラードでは宿屋へ怪しな女が平氣で出入して居る。キエフあたりではまた此種社會風紀上の取締りが頗る峻嚴であるし、ウクライナの如く他國境に接して居る處では萬事やかましく話しにならぬといふ。

序でだが、ウクライナは諸事取締嚴重を極めて居り乍ら盜賊の横行跋扈すること他に類

を見ない。露西亞中で一番人氣のよくないところとされて居る。列車の運行中泥棒を働いて飛び降り逃走するやうなことは珍らしくもないのである。驛でレニンの肖像を繪端書にしたもの等を賣りに列車内に入り込んで来るものがあるが、客が油斷をして居るとす早く何でも失敬してしまふ。この繪端書の賣上金は孤兒救済に宛てるのだそうだが、なる程賣上全部を社會事業に投じて差支へない譯である。

淫賣の種々相

淫賣の盛んなことは露西亞社會に於ける最も顯著なる一事象である。

夜一人か女同志二人連れで散歩して居るものは大抵淫賣婦と決めて差支へない。この種の者は宿屋へ遣入れないので、勢ひ相手の男の家若くは淫賣婦自身の家に行かねばならぬ。處が莫斯科の如く住宅難で一室に數家族も同居して居るやうな有様ではこれも意の如くなり兼ねるので窮余自動車内淫賣と稱する珍妙な方法を案出した。運轉手は心得たもので郊外を後も見ずに疾走して呉れる。無論車内の灯は消してある。自動車が好もしくない者

は郊外の吹きさらしの凍り付いた野原を選ぶこともあるといふ。中には小さい室を借切つて居るものもあるそうだが、こんなのは當然割高といふことになる。

淫賣にも種々な階級があつて前述のやうに野ざらし、自動車内、室内と別れて居るが又その内に専門的なものもあれば、一定の職業を持つて居るもので内職にやるものも少くない模様である。日本でもこの種内職的なのがあるそうだけれども數に於ては到底比すべくもあるまい。

オボジチヤ(反幹部派)と第三勢力

レニングラード等では、帝政時代の將校や官吏で反幹部派に同情を有する者が多いやうである。之等の者はトロツキーやジノウイエフ等とその主張を同じくするのではないが、此の際兩者間の紛争を煽り、あはよくばこの紛争に因を發せしめて擾亂を掻き起し、機に乗じて他の政權を樹立せんとする下心あるもので、それには反幹部派の尻を押して幹部派の牙城を動搖せしむるに限るといふ考へかららしい。

美 術

帝政時代の美術繪畫等は依然博物館等で一般の觀覽を許して居る。一方革命後のものもムゼイレポリユーチヤと稱して並び觀覽に供されて居る。

帝政時代の藝術作品には流石に人を魅するやうな逸品があるが、革命博物館に於ては到底そう云ふものを見出すことは出来ない。折角日星しいものがあつても宣傳的な説明が施してあつたりして、藝術價値を毀損してしまつて居る。舊時代のものには作そのものに作者の生命が漲り、躍動して居るが、新しいものは多く、ためにする作品とでも云ふか作者の製作目的が他に逸流して居る感がある。

革命後僅かな期間中のものと、永い年月の幾多のものから選び出されたものとを比較するのは無理かも知れないが、一般に美術として見るべきものゝ少いのは一面、國を擧げての騒亂のため美術等のあまり顧みられなかつたのにも由因することはたしかである。

革命後十年

第二期の困厄

ウストリヤロフ教授

註

在哈爾賓エモ・ウストリヤロフ教授は穩和社會主義者であるが、その學識識見は當代赤白露西亞人中の代表的のもので、殊に教授の評論はサウエート政界にも非常に尊重せられ、彼のレニンの如きも多大の敬意を拂つてゐたのである。教授は年來、サウエート政治に好意を寄せ、現在の共產黨幹部派の政策には教授の説に負ふところが尠くないといはれる。そのウストリヤロフ教授が最近哈爾賓の左系一露西亞新聞紙上に、共產黨の内訌問題を批判し、黨内の多数派が漸次反對派の主張に引づられて行く、その左傾的大勢を説き、この結果露西亞國民は一層重大なる問題に際會すべきを憂ひ「革命第二期の困厄」の題下に論じた長文の論説は、現代サウエート露西亞の研究上、はなはだ價値あるものと信じ、左にこれを譯載する。

(一) テルミドルの發現

テルミドルの妖雲はまた現はれて、クレムリン宮殿の空は怪しくも暗黒となつた。今度

はトロツキーによつて反革命的(テルミドル)主義が主張され、大聲に、峻烈に、しかも言はんとするところの總てを盡したのである。テルミドルはもう今日では、立派な黨内の問題となつた。と云ふのはテルミドルは局外者の無責任な觀察、批判でもなく、階級の敵によりてなされる、不吉の豫言でもなく、確かなる事實……黨の領袖の善良なる半數がテルミドルをもつて任ずるほどの立派な事實であり、また實に黨の内訌の根本的原因であり、反對派の主義主張によつて起る源泉であるのである、しかして今や革命の頭上にふり翳さず断首刀のやうな物凄さを呈するに至り、今日となつてはも早や如何なる魔法使ひも、この妖雲、この断首刀を打ち拂ふことは出来なくなつた。

しからは、何故に情況がかくも逼迫したのか？ どこから斯様な妖雲が降つて來たのか？ ポリシエウイキの領袖達が歴史上の事實を根據として、或は論理的考察によつて、筆に、口に、命令に、訓示によつて、これを反駁し、否認するに拘らず、何故ふたたびテルミドルが現はれて來たのだらうか？ 反革命分子は殺された筈なのに、まだ死に切れずに

ゐるのである、テルミドルは實際にまだ生命を保つてゐるのだからこそ、わが社會主義建設でふ大殿堂はこれがために、毎年震動を感じてゐる。テルミドルを無視する者は勝手に無視するがよい、だがテルミドルといふ名稱が無くならないのが、何よりの證據である。たとへばチエーホフの「黒僧」におけるが如き起死回生の見込なき、病的變態者であるにせよ、その存在の事實を否定することは出来ない。しからば何故にかゝる變態的現象が生ずるに至つたのであらうか？

(二) 革命の目的と反響

ポリシエウイズムは歴史と社會生活における怪物であつた。ポリシエウイズムは主義のために何物も犠牲にして憚らぬ、生命をも惜まない信念であつた。偉大なる革命はすべてかゝる信念のもとに行はれてゐるが、實際舊ポリシエウイキの黨領袖達は主義理想に對する熱狂者であり、浪漫主義者であり、空想者であつた、これは彼等の履歴を讀むと誰に

もすぐそれと肯かれることである。故ヂエルジンスキー(ゲー・ペー・ウー長、昨夏頓死)の二重人格的奇癖もこの見地から首肯することが出来る。

佛蘭西革命當時でも同様で、露西亞のゲー・ペー・ウーの主班にも比すべき地位にあつた彼のセンジュスタにしても、その行爲は兇暴であつたが、しかも柔和なる童顔、美しい房房した長髪の持ち主であり、ロビエスピールだつてまた多情多感な男であつた。わが革命の領袖でも、ブハーリンなどは、その演説は炎の如き信念と、鐵をも焼かん熱血性のほとばしりを認めるが、同時にその反面には冷靜氷の如き批判、骨を刺すが如き諷刺、細密なる數字の羅列、一言一句も苟もせざる反面を有し、あだかも氷上の燒酒のやうな感じを人に與へる男である。

さて革命後こゝに十年、いまだ何等の不思議、奇蹟も現はれない。古い世界は矢張り古い世界である。ただ強ひて變化を求むれば、多少の動搖があつたにすぎない。露西亞の國內に起つた颱風も、國境線で止まつて國外には何の被害も及ぼさなかつた。露西亞革命の

歐洲に與へた影響といへば、一部に社會制度の改善を見たこと、某國における選舉制度の改正、ファシズムの擡頭に過ぎない。しかしその反面、露西亞の功績として残つたのは、世界をして従來以上に、露西亞の歴史、露西亞の國民性、露西亞の文化に對する注意を喚起したといふその一點に過ぎない。こればかりが眞の革命の賜といつて可なるものである。だが元來ホリシエウイキ領袖が革命を企てたのは、そんな目的からでなかつた。世界を赤化するためには、人類殺戮戦をやつて、無益な人間共は片つばしから掃蕩して、世界革命に必要で有益な善人ばかりを世の中に残さうとしたのである。この闘争がすなはち彼等の眞實、至高の目的で、彼等の聖書の中にはこの一事のみが異彩を放つてゐたのである。

オーガスチンは「人類は自由をのみ欲す」と云つたが、十年間の戦闘であらゆる闘略を廻らし、鮮血を流し、忍苦を續けて來た。そして十年間、後進國しかも農業本位の國家の上に一躍共產主義政權を組織し來つたのである。そして又今後とも努力、忍耐、闘争、困

難の十數年が續かんとする……無論、革命の名において、はた共產主義の名においてである……革命の歩調を揃へよ！ 敵に油斷するな！ と。

然り而して革命道の保護者が、國家を支配するところの政府をいよく樹立して以來、何者の利益、何者の必要、何者の期待に酬ひねばならなかつたかと云ふに、それは決して共產主義者に對してでなく、やはり一億五千餘萬人の住民の爲めであつた。だから實際と理想と矛盾するところの、不自然の妥協を十ヶ年間も續くるの餘儀なきに至つたのは、けだし當然のことであるが、その間理想に忠實ならんこと、政權を維持すること、革命的共產主義を變更しないやう、様々に苦心を重ねて來たのである、このことたる、露西亞革命の混沌時代においては、さしたる困難でもなかつたが、革命事業が一段落を告げて以來といふものは、非常な困難を感じるに至つたので、これがまた黨の指導者階級の間に二つの意見の相違を生ずるに至つた原因なのである。

(三) 兩派の論難應酬

現在、黨内の大多数を占むる一派は、かやうな考へを抱いてゐる。

「世界革命の實現は遅れたところで、何れは實現する。實現しない筈はない。我等はその時期まで持ちこたへて行かねばならぬ。我等はその實現のために努力しやう。現在先驅者としてあらゆる努力を續けてゐるやうに、サウエート國家は云ふまでもなく、將來の革命の基礎である。だからその権力の維持上、讓歩もしなければなるまいし、また妥協の必要もあらう。一方、我國の經濟的鞏固を圖ることに全力を擧げて努力せねばならぬ、何となれば經濟的地盤の固まらない間は、萬一の場合に處してあまりに弱いものとなり、一押しに壓倒されてしまうからだ。で我國の經濟的發達のためには生産力を高めねばならず、それがためにはブルジョアとの或る程度までの妥協も必要である。

勿論、我等はプロレタリア獨裁の本質を失はないで、しかも或る程度までブルジョアと

の接觸關係を保つことに、不斷の注意が肝心であつて、我等は世界革命及び、社會主義の建設でふ大理想の實現には一刻も忽にしてはゐないのである。我等は必ず理想を實現して見せる。經濟力の充實を計りつゝ且つ必ず我國に社會主義を建設して見せる。そも、一國における社會主義建設可能論を續けてゐるのは、現今のやうに國際關係が我れに不利、困難な場合……將來我等の飛躍時代の來るまでの一時のことであるが、しかも我等の存在は、各國ブルジョアの前に社會主義建設、世界革命實現の可能を語る活きた證據を示すものである。

將來全世界共產主義の勝利を信する者は誰しも、我等の黨略の正當なことを首肯するであらう。プレストリトフスク會議におけるレニンの言も、經濟政策を採用したレニンの考へも、決して退歩ではないのである。」

多數派は右のやうに考へ且つ主張してゐるのだ、ところで他の一派乃ち現在における反對派の意見はどうかと云ふと、右と異り、

「世界革命は全く遅れた。眞實我等の事業は困難に陥つてゐる。そして我國における社會主義建設はあまり期待を懸けることは出来ない有様となつた。十年の間、黨は政權を維持せんがために、多くの完全なる讓歩と、半讓歩を重ねて來た。その當然の結果として不祥の事件が起らざるを得なかつた。すなはち、漸時色彩が薄くなり、變質し、かつ爲さざるべからざること、爲すべからざること、との區別が次第に不鮮明となりかかつた。最早や昔日の如き革命的氣魄も失せ、昔の面影が無くなつてしまつた。國家は非プロレタリア的な超階級的のものになつてしまつた。實に、國家のためには革命的の日没であり、黨のためには將に政治的生命を失はんとしつゝある有様ではないか、従つて今日では、國內におけるテルミドル的分子に對して爲さざるべからざる抵抗さへも試みないといふ無氣力の状態に墮落しつゝあるのだ。

國家機關の對外政策もまた萎縮し來り、プロレタリア鬭争を國民主義的鬭争に右傾せしめ、滔々として第二インターナショナル的黨略は墮落しつゝあるのである。對内政策方

面にありてもまた同様だ。農民に厚くして労働者に薄く、ブルジョアの専門家を好遇するやうになつた。これじや到底駄目だ。我等は斷じて當初の主張を狂げることが出来ない。レニンもこんなことは決して我等に教へなかつた。」

と應酬してゐる。多數派は口を開けば、反對派を非難し、不信、小膽、怯懦なりと嘖ひかつ、反對派を目し、徒に困難を大袈裟に吹聴しこれを杞憂するの徒なりと攻撃しました、

「多數派と雖も世界革命、社會主義建設の重大問題を忘れてもゐなければ、また放棄もしてゐない、實に止むを得ざるが故に黨は妥協もし、讓歩もしてゐるのである。だから黨が變質したなど、云ふのは、全く畑違ひの人間の言ひ草で、ネツプ的（新成金）思想家……結果を見て物事を批判したがる連中の云ふことである。」

と辯じてゐる。だが、共產黨の内部に假りにテルミドル的非難、攻撃が起るがごときことは、蓋し未曾有の現象で、この重大、危難の秋に際會しては大に勇猛心を起さねばならぬ、すなはち黨員の緊禪一番を要するときであるのだ。がこれは自働車が方向を轉換する

やうに、そんなに手輕には行かぬ。なか／＼困難の業である。一方反対派でも決して黙りこんではゐない。

「多数派の言ふところの自衛手段なるものは畢竟、退歩である。新經濟政策といふ泥田の中に足を踏み込んで、抜き差しなくなつたので、特別委員會の威力を藉つて辛ふじて自己の安全を保つてゐるに過ぎない。また多数派が英國の半改革派相手に英露委員會を組織したり、民衆を忘れて支那の軍閥巨頭と談合を續けてゐるなどは笑止千萬のことだ。」

と冷評し、トロツキーの如きは「最近プロレタリアは政治的勢力を著しく低下しつゝあるに反し、他の各階級は到るところに擡頭しつゝある」と、多数派の經濟政策採用後、非社會主義的現象が國內に起ることを攻撃してゐる。が無力なるスターリンの黨政治部はトロツキー等の攻撃に對しても「思想的に貧弱なる辯解をなすことゝ、權力を濫用して對抗すること」の外は何等爲すところを知らない。

反対派は依然として現在の黨領袖に對する攻撃を止めない。トロツキーの如きはオルジヨニキゼ（勞農監督省長）に與へた書中に「思想的ごみくすの中から勝利は得られない」とさへ書いてゐる、彼は「姑息なる手段を弄する者の過まれる政策はごみくすの如くに捨てさせねばならぬ」と考へてゐるのである。

(四) 黨内訌の眞因

斯くのごとき見解の相違は、決して偶然の出來ごとではなく、彼等共產黨としては到底避け難いことで、宛然一場のドラマである。畑達ひの無理解者、或は亡命露國人中のおぼつちやん連中ばかりは、現在の黨内訌問題の原因を「領袖間の感情の衝突である」とか或は「政權争ひ」とかと簡単に考へてゐるが、決してそんな上つ走りのものでなく實に、鐵の如く堅いレニン黨員間の長い歴史上の因果關係による理論、學說、主義、主張上の深長な闘争なのである。事實、黨の前方には今日大なる二つの道がある、否な二つの黨略があ

る。すなはち、

一、國內の經濟力の充實を先にし、將來の勝利のために、止むを得ずあらゆる讓歩を爲さんとする漸進主義と

二、今直ちに乾坤一擲の英雄的行動に出で一擧に勝敗を決せんとするもの

とである。が、多数派が反対派を目して不信の徒と云ふことは、これは當らずと雖も遠からざる言であつて、矛盾せる非難でも、また低級な論法でもない。反対派の本質本領がここに説明されてゐるのである。

「反対派は露西亞式の社會主義を信じない。我が社會主義建設の可能性を危ふんでゐる。我國における社會主義分子と資本主義分子との無抵觸關係を納得出来ないで、後進國たる農業國家に社會主義を建設せんとするのは、砂上に樓閣を築くの類だと危ふんでゐるのだ。」

と多数派は云つてゐる。

反対派も終局の勝利を疑ふものではないが、世界革命に對する確信の點においては、多数派に比し幾分懐疑的ではある。だから反対派はブルジョア世界に早く露西亞革命の炎の消えない間に、大暴風の捲き起らんことを望み、早く西歐プロレタリアが革命道に上らんことを希つてゐるのである、反対派においても舊黨員の意氣は決して失せない、レニン主義の變質者でもない。で「革命の日沒的衰運を挽回するには、露西亞革命は何物をも犠牲にするぞと云ふ威力を示して、もつて今後に起る革命に刺戟を與へねばならぬ」と主張してゐるのであるが、その意味はつまり泥の中に兩足を突き込んでゐて抜き差しが出来ない中に、細菌の浸入を見ない前に、世界共產主義のために乾坤一擲の快舉を試みるのは今の内だぞといふのである。が多数派はこれに反し

「今のまゝでも、今の露西亞の状態でも、我等の希望は必ず達成されること疑ひない。

我等にその確信があるから、須く安心して我等の爲すところを見よ、國內政治の行詰り位ひはなんでもないことだ、黨さへ日の出の勢ひであるならば……日沒どころか、社會

主義建設事業は着々と進捗してゐるじやないか。志さへ確固ならば、外形の妥協や譲歩は問題じやない、物には圓轉滑脱の妙、臨機應變の術策が必要である。それに資本主義はまだ鞏固で安定してゐる。西歐には何處にもまだ革命の起りさうな國はない。こゝをよく考へなくてはならぬ。特別委員會の行動をもつて我等一般の方針と見ては困るが、革命の參謀本部の威嚴を傷け、黨員の團結を素さんとするのは不徳である。歐洲、阿富汗、亞細亞のプロレタリアの前に威信を失せしむるやうな言動は困る。反對派が革命に非常な損害を與へて平氣でゐるのは罪惡である。」

と反對派を攻撃してゐるのである。

(五) 反對派の政策的勝利

最近の黨の中央委員會および中央監督委員會の總會において、多數派は反對派に對して再び形式上の勝利を得たが、その勝利といつても、反對派が多數派の要求どほり實行しな

ければ何にもならぬ。實際、反對派は今日までのところ、陳謝狀に認めた義務を履行してはゐないのである、のみならず、反對派の形式上の敗北は、反つて精神的、實際的方面の勝利となつたと見ても可なる状態にあるのである。無論、反對派の勝利といつても、組織方面においてでなく、反對派の政策および方針に就いてであつて、反對派が議政壇上に自由を獲得するや否やは問題でなく、黨が反對派の忠告に耳を傾くるや否やが問題である。しかして、黨政治部最近の政策を見るに、反對派の主張する、政治經濟上の重要政策に益益接近しつゝあるやうである。

反對派は多數派を目して「ウストリヤロフ的傾斜」だと難じてゐるが、冷靜に判斷すると、多數派の政策中にはより多くの反對派的傾斜を明瞭に認めることが出来る次第で、これは國家のために益々複雑な脅威を與ふるものである。

吾人の見るところによると、從來反對派の攻撃論の眼目は多數派の對外政策である。昨年黨領袖ブハーリンは世界革命の實現近きにありと大歡喜と、大期待とをもつて「世界革

命の三大支柱」を有すとして英國炭礦夫の罷業、支那革命及びサウエート露西亞の三つを擧げたが、反對派は當時中央委員會の政策に對して、

一、英國の非共產主義的職業組合との接觸の無益なることを主張し、英露委員會の撤廢を可とし

二、支那の軍閥、巨頭や國民黨領袖等相手の援助は百害ありて一利なしとし、黨の政策の純潔を保つために、國民黨より共產黨員を離脱せしめんことを主張し、始終、民衆の直接組織を高唱し

て反對したのであるが、當時多數派は毫もこれに耳を傾けなかつたのである。然るにプハリンが擧げた所謂三大支柱なるものは、今日如何なる状態にあるかといふに、英國の總罷業は敗北し、プハリン等が力瘤を入れた英國の職業組合機關は今日では著しく右傾し、民衆もまた「直接行動」などを顧みざるに至つた。支那革命においても同様、プハリンの期待を裏切り、ラデツク（反對派の領袖）の豫言のごとく、見事に失敗したのである。

る。すなはち世界革命の所謂支柱の二つは跡かたもなくなつて、しかも新しい支柱は近き將來に建設されさうにもないではないか。こゝにおいて反對派の意氣はますます昂らざるを得ない。「我等の言ふことを聴かないから此のさまた」と放言して憚らないやうになつたのである。

由來、政治は事の成敗を見て論ずるのが立て前である。で失敗した者は去るべし、と云はれても仕方はない。もつとも英國總罷業の失敗も、支那革命の失敗も、必ずしも第三インターナショナルの失敗ばかりでなく、種々複雑な歴史的原因が潜んでゐるのであるが、それでも反對派にとつては多數派攻撃の絶好唯一の活材料である。支那革命の失敗、南方諸將の變節、英露委員會の解散を目撃する者は直ちに黨政治部の失敗であると思惟し、また反對派の主張が今日將さに多數派の手によつて行はれ始めんとするもの、如くに見る。

また内政問題でも同様、専門家でさへも工業化の成績遅々として擧がらざることを聲明し、第十四回黨大會（一九二五年末）當時、工業至上主義は一蹴されたに拘はらず、今

では中央委員會そのものが、嘗て反對派の唱へた政策を我物顔に盛んに説き立てつゝあるほど、状況は一變したのである。すなはち、經濟方面における、壓迫、剪り立て、妨害、調節等と左傾的方針が採られ、特に新經濟政策後、村落商品生産者すなはち大農に對する方針が著しく左傾し、哀れむべき被壓迫者たる大農こそ、黨の方針を計るべき唯一のバロメーターとなつてゐるのである。

一九二五年春チフリヌに召集された大會は、黨内に健全なる主張が行はれた全盛時代であつた。當時國家の方針たる制限的發達方針が勝つて、産業の振興は、國民の福祉増進を目的としたもので、モロトフの云ふ「農民と公然握手した」時代であり、ブハーリンは「農民よ富めよ」と有り難い標語を掲げたのである。ところが、農民のためには幸福と見られた時代は又急轉直下し、豫期のごとく反動は來たのである。農民が安定するのは危険だと主張してゐたジノウイエフの攻撃は、第十四回大會でスターリンのために一蹴されたが、實はその時から多數派の農民政策の根底はぐらつき始め、反對派の主張を加味し出すやう

になつた。すなはち、新農村税は、村落の健全なる生産的發達を壓迫せんがために施行され、再び、貧農擁護の聲が高くなり、従つて大農はまた「憎まれ者」となつたのである。つまり、黨の革命主義のためには、經濟狀態の退歩せざる限り、多少の沈滞は忍ばねばならぬといふ方針に變つたのである。かつまた、昨年末の第十五回黨聯合大會において多數派は、反對派との闘争によつて得たところの新方針を大分實現したので、反對派たるもの益々もつて氣勢を強めざるを得ない。十月革命記念日が近づいた今日、吾人は再び問題勃發の徴候を認めるのである。

(六) 危険なる反對派の政策

我等は革命露西亞に起つた妖雲が、早く消散せんことを希ひ信じてゐる。でなくては、國家には新たに動亂が起るよりも、もつと大きな不幸を見なければならぬからだ。國家は革命によつて改造された制度によつて、平和に發達せんことを期待してゐる。革命的勞農

民衆との關係は密接となり、國內の秩序は恢復に向ひ、假令、幾多の缺陷と困難はあつても、國力は發展に向ひつゝあるの今日、反對派の方針は最も危険にして無益なもので、それはサウエート政府を世界に孤立せしめ、政府當局者を國內に於ても孤立せしめるものであるからだ。

サウエート聯邦の國際的地位が失はれば、世界の社會的輿論はますます各國政府の反サウエート政策に共鳴するに至るであらう。

「世界が絶えず不安に驅らるゝ妖雲」として露西亞を見ることが一層強くなるであらう。ブルジョア各國の政府當局のみならず、労働黨の反感を買ひつゝ、「對外政策の革命化」を主張して止まざらんか（反對派の要求の一つであるところの）莫斯科政府は遂に崩壊するに至るべく、その結果將來もつとも大切な時期において、莫斯科は西歐に親友どころか、半親友（現在でも非常に力になつてゐるところの）をも失ふに至るであらう。革命の完成期に尙ほ斯のごとき創業時代の政策を應用することが果して賢明であらうか。

左傾的對内政策も矢張り賢明な政策ではない。それは折角發達しつゝあるものに大支障を興へ、村落の振興を阻害し、外國の對露經濟封鎖の政策に力を添ゆるに等しき結果を生ずる、又私營商業壓迫制度は國民の利益を殺ぎ、サウエートの議員數を減じ、事實において、今日まで努力して得たる、かつ内外の敵が驚異してゐるところの最も尊き「達成」を失ふからだ。もしさうなつた暁には、チエンペレンを筆頭に、極右的反革命分子は雙手を舉げて歡喜するであらう。また彼等の共鳴者たる露國人および、在外反過激派亡命露人も大に喜ぶであらう。に拘はらず、我等の敵を喜ばすために努力する必要が何處にあるか？ 多年の努力によつて建設した革命事業は、かくてただ子孫に一章の歴史を残すのみで終りを告ぐべく、反對派の主張は痛快には相違ない、又それがために死ぬることは、悲壯であるかも知れないが、それは新經濟政策施行の前にも行ひ得べきもので、今日となつては何人も希望せざるところである。反對派は現在の状態をもつて革命の日没だと評し、今日の革命露西亞をテルミドル時代と見てゐるが、彼等反對派がもし勝利を得ても、それは

僅かにフルクチドル時代の、燈火の滅せんとする前の光明に過ぎない。フルクチドル主義者は革命の勝利を維持するためには、法律を廢して劍を用ひやうとした。がその結果、民衆はロビエスビールを殺し、革命が失敗に歸したことをトロツキーは記憶せねばならない。トロツキーが今日、多数派に壓迫を加へんとすることは、革命第一期時代の政府當局が、反對派を射殺すると同様で、たとへスターリンを頸切ることに成功しても、遂ひには民衆の反感に逢ふて自らもまた亡びるに至らう。佛蘭西革命の時代でもセイヌ河は川上には流れなかつた。ウオルガ河の流れを人力をもつて如何に努力しても逆流させることは出来ない。トロツキーが「ウストリヤロフ的傾斜」なりとてスターリンを攻撃することは余の甚だ迷惑とするところである。

(七) 左傾的大勢と將來

共産黨内は勿論、國內一般、反對派征伐の運動は今や高調に達した。然るに黨政治部は

委員會總會の決議尊重を布告して、反對派に壓迫を加へながら、しかも重要問題では反對派の政策を平然として採用してゐるが、それならば、政治部がトロツキズムに傳染したのであるかどうか、これが刻下の革命露西亞における重大問題なのである。事實、反對派の主張にたいし、最も恐れをなして動搖してゐるのは、古い黨領袖連であることは注目に價する。それかあらぬか、最近の共産黨機關紙の論調は、舊黨員の態度に飽きたらざるかの感がある。のみならず、舊領袖中には窃かにトロツキーと握手せる者あるかの形跡さへ看取される。トロツキズムの前に、レニニズムが降伏したのではないかとさへ、疑はざるを得ないやうな記事すら見當るのである。

とにかく、一大權威者の黨内にゐないことが、我等の不幸といはねばならぬ。政治部は今日では兵馬の權を左右するの實力もなければ、また確固不動の政見も持たない。輿論の尊重を人に説くが、その輿論なるものの中には反對派の議論が加味されてゐるに至つては、ます／＼黨内に中心人物のないことが判る。今日になつて顧みると一九二一年の新經

濟政策もレニンが無くては斷行されなかつたであらう。偉大なるかなレニン。

かくて今日では、多數派でも、反對派でも小競合ひに夢中になつてゐるから、今後共産黨はどうなつて行くのか、第三者には判らないが、大體において多數派が漸次左傾するとは到底免れざるべく、革革は今や第二期の困難時代に入つたことはこれを想像するに難くない。果して然らば、何時までも小競合ひは續くものでなく、將來多數派は反對派の綱領を容れ、組織的方面で敗北し、次でジノウイエフ、トロツキ一の政策が、スターリンとプハーリンによつて行はるゝに至るであらう。事茲に至らんか、將來必ず重大な問題にぶつかるに相違ない。すなはち、農民との鞏固なる團結なくして而も革命を遂行し、現在の悲運を挽回するには如何なる方針をとるか？ 換言すれば、反對派がテルミドルの軌道によつて前進するか、或はまた黨の運命を賭しても、武斷政策を採つて革命の利益のために新しい行動を起すか、その何れを選ぶか知らないが、吾人は二者何れの成功をも反對派に期待することは出来ないのである。

これを國家的見地から論ずれば、勿論現在の多數派の政策がそのまゝ行はれんことを希望せざるを得ない。インテリゲンチヤは未だ眞の自覺に乏しく、トロツキ一等の左傾的政策に共鳴してゐるが、これ等はもとゞ年少血氣の勇を尊ぶの亞流に過ぎない。左傾は痛快事ではあらうが、偉大なる革命遂行後、今日までに着々と國力を充實して來たところの我が國家を混亂せしむることは吾人の欲しないところである。反對派の中には有爲の士が乏しくない、が彼等の政策中には、露西亞民族の健全なる發達のためには、危険性が餘りに多い。革命は須く漸進主義によるべく、急激なる方向轉換は百害ありて一利ない。故にスターリン一派の多數派の漸進主義を正道とすべく、この革命第二期の困難に際し、露西亞國民は重大なる時期に慎重なる態度を持し、決して輕舉妄動してはならない。かくて遂に困難を切り抜け、革命によつて改造された新國家に曙光を望むことが出来やう。(完)

日露乎、日英乎

左記は最近の朝鮮文新聞中外日報紙上、社説として掲げられたものである。現在の對露國際關係に就いての一觀察として面白いので茲に譯載する。

天下の形勢が歐洲大亂以前に逆轉すると同時に、東亞現象も日露戦争以前に反還しつゝあることは否むべからざる事實である。當時帝政露西亞の南下に依り、擾亂さるゝ滿洲、印度に關する利益を保護する目的を以て、日英兩國が同盟を締結するに至るや、茲に英國の援助を得たる日本は、三國干涉の如き國際的孤立より發生する危険を除去することゝなり、安心して遂に露國と開戦したのである。

故に萬一日英同盟が成立して居なかつたならば、日露戦争は起らずに或は樽俎間に妥協の成立を見たかも知れない。當時日本政界の元老中には日露提携を畫策し戦争の慘禍を未

然に防止せんとする者もあつて、一八九七年に故伊藤博文は、世界漫遊に名を藉り、歐米諸國を巡歴し最後に露都を訪問して日露提携を謀る豫定だつたのである。併し日本のこの秘密が、機敏なる英國に察知さるゝことゝなり、英國外務省より突然駐英日本公使林董を經由し、巴里客舎に滞在中の伊藤に、日英同盟の意あるを表示し、日露結託を防止することに努力せる結果、伊藤の快諾を得ることゝなり、日露提携は流産し日英同盟が成立して、畢竟日露開戦を見る様になつたのである。

この國際的瞬間變化は、同盟を締結せる日英双方の當事者も、嘗て夢想だにしなかつただけ、一世を驚動せしむるに至つたのである。今日の形勢が日英同盟の締結されたる當時の形勢と頗る彷彿たるものがあるのである。後藤の訪露に依り、日露親善が高調さるゝ一方、倫敦に於ては日英同盟の復活論が更に擡頭する模様である。勿論時代が三十餘年以前に比し、特殊なる點あることも事實であるが、その特殊なる中に共通點あることは、勞農

露西亞が絶えず日英兩國に脅威を與へて居る點がそれである。

x

主義上、政治上二重より、日英東方の勢力根據を動搖せしめつゝある恐怖物がある以上、日英が更に結託し得る可能性が充分あるのである。殊に國際競争の中心舞臺が大戦以後漸次太平洋の上に推移するに隨ひ、亞細亞が世界問題の焦點となつて居る今日に、英露の爭霸が益々激烈になりつゝあるのである。況んや英露國交の斷絶により、歐洲にて失意せる勞農露西亞が、主義の違ふ日本と接近してまでも極東に新らしい路を發見せんとして居る以上、日本として露西亞に對し今日よりヨリ一層和好の關係を結ばしむることは、英國が東方の利益を挫失する憂慮がないのではないから、この際英國政治家は東方國際關係に對し腦漿を搾りつゝあるに於てをやである。然らば日本は果して如何なる態度を執るであらうかと問題であるが、北方より南下する露西亞と、南方より北上する英國は、大陸より西進する日本を間にして、互に對峙することとなるが、日本の舉動如何が兩者の進退に大影

響を及ぼすことは日露戦争の事實に徴し明かなる所である。言はゞ日本は英露兩國に對し仲立的なるを許さず必ずある一方に加擔せざるを得ない境遇に到達する時にはその加擔せる一方のために、加擔して居ない他の一方を共敵として、畢竟戦争までも辭しないことは、過去の歴史が證明する所である。此の點より今後日露及び日英の國際關係の展開如何は頗る重視を要する所である。

雜 俎

◇勞農露西亞の自動車の數は皆て二萬一千三十八臺で、その七割八分まで國家機關の所有だといふ當局は國產獎勵の意味で、國內自動車製造工場の擴張費に六百萬留を支出することにしたと。

◇昨年十月一日現在、極東露領の人口は百九十萬八千人で、一年四%乃至五%の増加で此の點は全國無比であるが、移民による増加が主である。都會人口が全體の二六%の多數を占めてゐることも他に類がない。(最近公表)

サウエート聯邦と

奈翁主義の能否

社會革命黨左派領袖スターリンスキー

(註) 左記は露西亞社會革命黨の集宿ブラーグ市で發行する同黨の機關雜誌ウオーリヤ・ロシー誌に掲げられたスターリンスキー氏の「露西亞にボナバルチズム發生の可能性ありや」と題する論文の譯文である。

ボナバルチズム(ナポレオン主義)とは、佛蘭西革命から出た言葉で、佛蘭西革命の末期、革命主義の威信地に墜ちた當時、革命軍隊の中からナポレオンのやうな青年が起つて、革命を倒し皇帝の位についたこと、乃ち革命軍から帝政を實現した反動勢力のことを指すのであるが、露西亞ではじめてボナバルチズムを口にしたのは新經濟政策採用の初期、在外白系露人等が其の言論機關をもつて「ボリシエウイキの革命も將來必ず赤軍の中からボナバルチズムの代表者を出すに相違ない」と論じたのが、そも／＼の始まりである。が當時ボリシエウイキの方では露西亞は佛蘭西と國情が違ふから、そんなものが出現するもんかと一笑に附してゐた。

然るに千九百二十五年十二月の第十四回共產黨大會で、反對派の領袖サプロノフ、スミルノフなどが「現在赤軍の將校中には反革命分子が多數を占めてゐるに拘はらず、スターリンが此の點に考慮を拂はないのは不都合だ」と攻撃し、昨年二月スミルノフは黨の中央委員會に對し「赤軍中にボナバルチズムの組織的運動が始まつてゐる」ことを警告し、七月トロツキー、ジノウイエフは「赤軍中にはボナバルチズムは既に深く喰ひ込んでゐる」とこれまたスターリンに注意を促したなどの形勢となり、益々露西亞人間の注意を惹き、新聞などに之に關する議論が相當に現はれるやうになつた。

赤軍の中からナポレオンの如き人物が現はれて、ボリシエウイキ政權を倒壊し、別な政體を樹立するが如きことが有り得るかどうか、これに對し本文の筆者スターリンスキー氏は「露西亞にボナバルチズムは斷じて起らない。また起させてはならない」と斷定してゐる。スターリンスキーとはベンネームで本名は別にあるが、社會革命黨でも左傾派中の著名な人物で、ケレンスキー政府の農相チエルノフ氏の親友である。

コムニストが労働者を中堅とするのに反し、社會革命黨は農民を中堅とする黨派であるから、氏は革命主義に立脚し農民がボナバルチズムにかぶれてはならぬとの趣旨で本篇を草したものである。

(一) 奈翁主義の發現

若し後世歴史家にして、露西亞革命の搖籃期、いまだ流血の慘を見ざる二月革命の初期の頃、すでに露西亞にボナバルチズム（奈翁主義）が発現してゐたといふ事實を知るならば、必ずやこれを不可解なりとして研究に努めるであらう。すなはち、革命の機運漸く熟し、しかしながら其の進路いまだ定まらず、何物を覆し、何物を産み出すかも豫想し難かつた頃、或る社會團體は早くも天の一角に奈翁主義の閃光を認めたのであつた。

しかして革命一度び勃發し、此の世に修羅道を演出したとき、右黨の者は彼の大奈翁のごとき英雄が白馬に跨つて出現し、擾亂を征定するも近きにあるべしと狂喜した。すなはち帝政時代に與へられた特權を剝奪され、革命後何等の保護をも受け得なくなつた者達は奈翁主義に絶大の期待をかけたのである。がこれと同時に革命側の者達も、奈翁主義の出現が何となく氣にかゝり、漸く捲き起したばかりの革命の前途に、一大暗影を投ぜられたかのやうに不安を感じたのである。かくて奈翁主義は兩派の期待と、不安の間に消滅もせず、さりとして擴大もせず存続して來たのであるが、これが大勢力化するには一定の狀況を必

要とし、又相當錯雜、混亂を経た後、偉大なる人物の出現にまたねばならぬから、その時期は恐らく革命の終末期であらうと豫想されてゐた。ところが現在では二月革命からもう十何年も経つてゐる。しかして露西亞革命はまだ完成を告げず、ポリシエウイキの恐怖手段は依然として際限なく行はれ、ポリシエウイキ革命の命は意外に永續してゐるが、もう末路の近づいて來たことは疑を容れない。だから現今では奈翁主義は眞面目な問題として取扱はれるやうになり、千九百十七年時代とは餘程觀る眼が違つて來たのである。

露西亞は宿命的に決定された方向に自然と進みつゝある。また長い間の革命騒ぎのために變り果てた國家および民衆の休息時代——一時的靜止状態に到着した現在、すなはち奈翁主義的政變に都合よき空氣が充滿して來たかに見ゆる現在において、人々が多年心の裡に希つてゐた奈翁主義が愈々擡頭して來たのである。この奈翁主義の擡頭と、その危険なことを充分に知つてゐながら、共產黨内の反對派は、自派の頽勢挽回策として奈翁主義を唱道するが如き奇觀を呈してゐるのである。

(二) 奈翁主義と革命

しかし茲に注意を要することは、現在奈翁主義が著しく擡頭して來たといへ、それは現在各地各人の話頭に上つてゐるだけのこと、實行的のことに就いては國內でも、國外の露西亞人間にも何等唱へられてゐないことである。もつとも、國外亡命露西亞人間には、ボリシエウイキ獨裁制度を憎むと同様に、奈翁主義を敵視するところの社會黨や、共和民主黨と、他方奈翁主義によつて自己の勢力を復活させやうとする、露西亞帝政派の殘黨および特權階級との合同した一團との二つがあつて、後者は公然、陰然、君主政體の組織に腐心してゐるが、左様な時代錯誤の計畫が現在の露西亞に適せないことは無論であり、また帝政の復活と奈翁主義とは根本から絶対に相容れざる異質のものであるから、自己本位の彼等の連中の間に眞の奈翁主義が芽生えることは決してない。

奈翁主義の権力は革命の胸から出るものであつて、帝政の復活ではない。むしろ革命の

部分であり變態であつて、革命の整理者として出現すべきもので、革命前の政體への復歸であつてはならない。奈翁主義は舊政體擡頭の支柱ではなく、革命の産んだ新保守的形態であり、革命によつて既に獲得した社會を基礎としたものであり、舊社會制度の復活を仇敵視するところのものでなければならぬ。然るが故に奈翁主義とボリシエウイズムとの間には可成りの共通性がある。

867

現今露西亞の右黨や、一般帝政派の連中にはナポレオンを追慕し、革命の惡蛇を踏み躪つたナポレオンの如き英雄、救世主の出現を望み、奈翁主義が一つの流行語になつてゐるが、當時全歐洲の王政黨や、復古主義者はナポレオンに對して、前記の連中とは異つた感想を持つてゐたことを記憶せねばならぬ。當時王黨の面々などはナポレオンをもつて地獄の鬼位ひに思つてゐたのである。彼等のためにナポレオンは「英雄的統御者」でなく、革命の産んだ兇猛兒であつたのである。彼は片つばしから諸國の王位を覆滅し、掃蕩して歐洲の封建的王政主義を破壊したものである。

の出現することは、到底不可能だといふことになる。奈翁主義は民主的政治か、または國民政府の外にこれを擔ぎ出すものではない。だから露西亞に奈翁主義が起る可能の有るか無いかは、露西亞に民主政治が可能なりや否やといふ問題を決して後に議論さるべきものである。

(四) 奈翁主義とメニシエウイキ

奈翁主義の出現を最も危険視し、聲を大にして叫んでゐるのは、露西亞のメニシエウイキである。彼等は千九百十七年時代においてさへ、既にその發生を憂慮し、今にも奈翁主義の危険が切迫しつゝあるかの如くに恐れたのであるから、現在では神様の御告げでもあるかのやうに迷信的に、奈翁主義の出現を信じ切つてゐる。彼等は「凱旋將軍を恐るゝが如くに、今や奈翁主義に怖氣づいてゐる」といつても誇張の言ではない。

思ふにメニシエウイキが奈翁主義を恐れるその原因は、佛蘭西革命とその根本を異にす

る露西亞革命に對する見解から來たものでなく、彼等は奈翁主義が如何なる革命にも離るべからざる關係を有するものだと過まれる考へに捉はれてゐる結果に外ならない。例へば、アブラモウイチの如きは、佛蘭西革命にも斯かる危機を包有してゐたから、露西亞革命も矢張り同じ危険が胚胎されてゐると斷言してゐる程である。が何人も未だ斯様な見解の當否を斷言した者が無いから彼等の杞憂はますますひどくなる。

大革命の何れにも、その進行中には奈翁主義の醸生避け難しとの斷案は、未だ何人からも下されてゐない。奈翁主義は歴史的因縁の兒であつて、或る革命はこれを産み、或る革命はこれを産まない。だから必ずしも革命の必然的附物だとは云はれない。殊に佛蘭西革命と、露西亞革命とは兩者の内的條件に非常な差違があるのみならず、その進路が全く異つてゐるのである。

(五) 佛蘭西革命の特異

殊に自分の直接の敵たる佛蘭西の帝政派に對する彼の態度はどうか、頗る殘忍冷酷なものであつた、例へば尊王黨の勢力を殺がため、深夜龍騎兵の一隊を派してロウエリス親王を捕縛して異境バアデン領に幽閉し、無裁判のまま銃殺したなどはポリシエウイキの態度と少しも違はない。イボリト・テンが「奈翁研究」に書いたのを見ると「カトリックの長老ワリニムに向つて奈翁が、佛蘭西は何を求むるかと訊いたとき、長老は勇氣を鼓して、佛蘭西はブルボン黨の再興を望む」と返答したと記してある。學士會員ストルウエはこの言葉を現代語で「ツアールの血族が必要だ」と答へたと譯してゐるが、奈翁はその瞬間、渾身の力をこめてワリニムの腹部を蹴上げたので、長老は釣臺に擔がれて退出したと書いてある。テン氏はその光景をもつて奈翁の短氣な、峻烈な性質の一例として傳へたのであるが、またもつて奈翁が如何に尊王黨を憎んだか、すなはち奈翁主義が如何に復興黨を憎んだか知られやう。

(三) 舊露西亞の再現は不可能

露西亞革命は歴史的因果の發露であつて、今更ら舊露國復活の不可能なことは贅言を要しない。未曾有の破壊を敢てした露西亞革命そのものが、舊制度に對する國民の反感が如何に深刻であつたかを物語つてゐるではないか。君主專制政治下の舊露國の社會は、革命の暴風のために根底から覆されてまた舊態を止めなくなつた。舊露西亞はもう夙に無くなつて、未來永久に復活する時は來ない。土臺が無くなつたからである。

その露西亞は今奈翁主義が問題になつてゐるのである。でウランゲルやその他の有象無象が飛び出すか、或はまた舊露西亞皇族の誰か、何者かに擔がれて飛び出すかは問題じやない。革命後の今の露西亞に昔のやうな保守的權力が芽生え、普通の虐殺政治を再び行ひ得るやうなことは出來得べきものではない。従つてかゝることを空想してゐる舊弊な人間のために奈翁主義が守本尊として擔がれる道理がない。だから今の露西亞に奈翁主義

の出現することは、到底不可能だといふことになる。奈翁主義は民主的政治か、または國民政府の外にこれを擔ぎ出すものではない。だから露西亞に奈翁主義が起る可能の有るか無いかは、露西亞に民主政治が可能なりや否やといふ問題を決して後に議論さるべきものである。

(四) 奈翁主義とメニシエウイキ

奈翁主義の出現を最も危険視し、聲を大にして叫んでゐるのは、露西亞のメニシエウイキである。彼等は千九百十七年時代においてさへ、既にその發生を憂慮し、今にも奈翁主義の危険が切迫しつゝあるかの如くに恐れたのであるから、現在では神様の御告げでもあるかのやうに迷信的に、奈翁主義の出現を信じ切つてゐる。彼等は「凱旋將軍を恐るゝが如くに、今や奈翁主義に怖氣づいてゐる」といつても誇張の言ではない。

思ふにメニシエウイキが奈翁主義を恐れるその原因は、佛蘭西革命とその根本を異にす

る露西亞革命に對する見解から來たものでなく、彼等は奈翁主義が如何なる革命にも離るべからざる關係を有するものだとの過まれる考へに捉はれてゐる結果に外ならない。例へば、アブラモウイチの如きは、佛蘭西革命にも斯かる危機を包有してゐたから、露西亞革命も矢張り同じ危険が胚胎されてゐると斷言してゐる程である。が何人も未だ斯様な見解の當否を斷言した者が無いから彼等の杞憂はますますひどくなる。

大革命の何れにも、その進行中には奈翁主義の醸生避け難しとの斷案は、未だ何人からも下されてゐない。奈翁主義は歴史的因縁の兒であつて、或る革命はこれを産み、或る革命はこれを産まない。だから必ずしも革命の必然的附物だとは云はれない。殊に佛蘭西革命と、露西亞革命とは兩者の内的條件に非常な差違があるのみならず、その進路が全く異つてゐるのである。

(五) 佛蘭西革命の特異

佛蘭西革命の顯著なる特異は戦争的なところにある。平和時代に擡頭しながら進んで歐洲の王政保守黨に挑戦し、先づ歐洲の強國塊太利とポヘミアに宣戦した等、間斷なく對外戦争を繰り返し、常に鋒を異國に向け、もつて内部的鬭争性を薄弱ならしめた。國民の精力も注意も方向を轉じて次第に内部から、外部的に變じた。占領地域には佛蘭西の楯を立て佛蘭西流の政治を布き始めた。自由解放を標榜する遣外部隊は、外國領土占領軍に變質した。すなはち革命の墮落であり、革命の道義的自殺である。従つて國內の状態もまた變化し、軍國主義は次第に國內を風靡し、昨日までの政變の中堅人物も、民衆運動のリーダーも、今日では第二流の人物扱ひを受け、凱旋將軍は議會の幹部となり、民衆の崇拜を受けるやうになつた。乃ち一變せるアトモスフェラの中に、靜かに、力強く、奈翁主義の實結ぶ幼き二葉は培はれてゐたのである。

嘗ては軍隊幹部は公民政權の掌握者の鐵腕に拘束されてゐたが、佛蘭西が好戰國となるや、將軍連は次第に覇權を掌握し、公民政權の把握者は漸次將軍連の前に屈服し、軍閥の

勢力伸張に伴ひ、遂に公民政府を亡ぼし、革命そのものまでも壓迫するやうになつた。斯くてその軍隊は最早や、自由、平等、博愛のために身命を捧げんとする、革命精神の權化としての軍隊でなく、掠奪的なものに變質し、民衆の軍隊でなく、軍閥の手兵化したのである。軍隊は彼等をして勝利者たらしめた武將のみを崇拜し、武將は軍隊の飼養者となり、寡頭政治の終末期には兵力を有する武將の奪ひ合ひに苦心し、ナポレオン政變の直前には何事も將軍連の意のままになつたのである。

かくて革命の精神地を拂ひ、公民政府の權威失墜し、軍隊萬能の時代になつて、百戰百勝の餘威を驅つた大英雄ナポレオンが現はれたのであるが、奈翁が現はれたといつても格別時の政情に大變化を起させたのではない。ただ從來の政情を方式化したに過ぎない。約言すれば佛蘭西革命は軍人政治に移つた時に消滅し、軍人政治はまた新皇帝の來り坐する椅子を造り、ナポレオンがその据え膳を喰つたといふ譯である。

(六) 露西亞革命の特異

然るに露西亞革命はこれと趣を異にし、戦時に起こり、しかも戦争を欲せず、これを廢せんがための革命であつた。嘗て佛蘭西が埃太利や米へミヤに挑戦したに反し、露西亞革命の指導者たるボリシエウイキは、帝國主義的な獨逸と和を結び、爾來對外的に戦争を行はず、露西亞から分離した遠隔地方の赤軍の軍事行動も單に内亂鎮定を目的とした行動に過ぎなかつた、とボリシエウイキは説明してゐる。しかし赤軍がワルシヤワ進撃の時「何故に銃剣をもつて波蘭を突くか？ それは共產主義の露西亞と、資本主義の西歐との間の壁となつてゐる波蘭の固さを試験するためだ」とレニンは言つたが、トロツキーとてもこれと同じ考へを持つてゐた。乃ち赤衛軍の後援の下に、革命の聯合勢力をもつて、資本主義の聯合軍に大打撃を與へ、世界に共產主義革命を實現せしめるために、乾坤一擲の大戦をライン河畔に決行せんことを望んでゐたことは明かである。ところが此のボリシエウイ

キの軍事的企圖は見易き原因のために蹉跌した。それは對獨戦争を好まなかつた、全露西亞國民の大半を占むる農民や労働者が、第三インターナショナル主義のために戦ふべく自覺が缺けてゐたのに因る。しかして廣大なる領土と、その他莫大な犠牲を拂つて而も得たところのものは、新たなる國難を招來したところの、彼のリカ協定ばかりであつた。

かくてボリシエウイキは國外に勢力を向けなかつたため、蹉跌に蹉跌を重ね、僅かに讓歩の一手のみで革命を救ひ得た。すなはち露西亞革命は戦争革命にあらず、對外戦争も開かず、連戦連勝の凱歌を聞かず、異國を侵略せず、自己防禦のみに闘ひ續けたのであるから、我々はそこに佛蘭西革命におけるナポレオンに類することを見ることが出来ないのである。我等の國には軍國主義の權化ともいふべき代表的人物もなく、軍閥の跋扈もなく、連戦連勝の將卒も、民衆と隔離して盲目的に自己の將軍のみの親兵を氣取るやうな軍隊もなく、實にサウエート聯邦の赤衛軍は農村と相親しみ、かつ自己の自由意思でもつて兵營に奉任するといふ底の平和の軍隊であつて、武斷政治時代の佛蘭西軍隊のやうな臭味を有

しないものである。時の佛蘭西國民はナポレオンの武者振りにすっかり酔はされてしまつた。これが奈翁主義成功の根源であるが、露西亞には月桂冠をもつて飾られた凱旋將軍を有しない。名譽、人格、特殊の魅力をもつて國民を眩惑し得るが如き典型的武將を有しない。奈翁は伊太利遠征の後「余は強力なる國民を創造せり」と傲語したが、露西亞には何人もこの言を發し得る者はない。

佛蘭西革命は戰國革命であり、露西亞革命は決して然らざりしのみならず、その發達の進路において非常の差違がある。すなはち露西亞の革命勢力は佛蘭西の如く、國外に波及せず、反對に國の内部に向つてのみ進展した。これは農民が土地分配といふ革命に参加せんとしたことが主因となつて戰陣が崩壊したのにも因るが、専ら内部的に活動したために、佛蘭西革命が、對内的には緊張したが、對外的に悲境に陥つたとき状態には出會はなかつた。

無論この革命の内部的活動に對し無數の國民は恐怖震駭した。革命の火炎は外敵に向は

なかつた代りに、廣大なる露西亞の國內隅々まで炎の渦を捲き、残忍なる流血の内亂が続いた。しかして露西亞革命は偉大なる破壊力を示し、一切の舊文物を跡形もなく潰滅してしまつたのである。乃ち斯の如く根本から總てを破壊し且つ變質せしめた點は、彼の佛蘭西革命と非常な差違あるを示してゐるのである。

(七) 佛露革命の差違

佛蘭西革命は内部の改革に着手するの暇もなく對外戰爭に歩を進め、結局國の内外から同情を失したが、露西亞革命は専ら力を内部に注ぎ、大破壊を斷行した結果、奈翁主義の芽生え得ざるまでに土壌を變質してしまつた。のみならず、奈翁主義的政治展開の要素、保守的組織の可能性をも、革命の初期に根絶してしまつたのである。

勿論或る種の奈翁主義の發生する餘地はある。がそれは問題じやない。何となれば既にボリシエウイズムが存在するからである。このボリシエウイズムと奈翁主義と類似點のあ

ることは前述の通りである。ポリシエウイキも奈翁主義同様、選挙権も與へておれば憲法も制定してゐる。が、極端なる専制政治下において、共に有名無實なることも彼此相似てゐる。ポリシエウイキの組織は奈翁主義のやうに、國民の總ての自由意志、總ての運動、は勿論些細なる獨立的傾向と雖もこれを抑壓し、政治的に國民を奴隸視し、事實頗る保守的なる點においても奈翁主義と相似てゐる。

これを約言すれば、奈翁主義は歴史的舞臺に灰色の軍服を纏つて現はれ、ポリシエウイズムは共產赤色のカウンを被つて唄つた。が共に革命進行上の免れ難き産物ありし點においてその型狀が近似してゐる。奈翁主義は極端なる外方進行革命の表現で、戦争マクシマリズムであり、ポリシエウイズムは極端に内部を攪亂した破壊の表現で、社會マクシマリズムである。

しかしながら兩者の内容に至つては甚だしき相違があつて、奈翁主義は軍隊、官吏、新ブルジョア階級を中堅とし、彼等の間に覇權を握つて彼等の特殊利益を擁護したに反し、

ポリシエウイキは自己の黨機關を中堅とし、黨機關を通じて掌握するところの兵力、官僚的分子を味方とし、自己の獨裁政治の利益を齎すもの以外の階級の利益を保護しなかつた。殊に重要な點は、ナポレオンは社會状態に適應しつつブルジョア革命の完成に全力を傾注し、因習の範圍を脱せなかつたが、ポリシエウイキはこれに反し、深く國內の事情を考慮するところなく、唯だ黨員のみを擧川するに努め、歴史的な必要條件を無視し、一氣に露西亞の共產革命を實現しやうとしたことである。更に佛露革命の差違を講究すると、露西亞にはナポレオンが皇位に上つた以前の如き状態が無かつた。ナポレオンの歐起前、佛蘭西の政情は極端に不安であつた。共和黨は物質的、道德的の後援を有せず、有力な中心人物もなく、民衆との確固たる聯絡をも有せず、且つ政府の威信は甚だしく失墜し、政府には無能の輩のみが集まつて國政を議してゐたのであるから、政權が忽ちにしてその手を離れたのは當然であるが、他方國家公共機關の腐敗、道德の頹廢、秩序安寧の紊亂等惡風滿天下の有様で、反對派は「政府は自由を阻止し國家を分裂せしめ、民主的社會を蹂躪す

るものだ」と攻撃したが、外部的危険も同時に逼迫し、國軍は幾度か大敗し、國境は次第に不安を増し、寡頭政治の終末期の佛蘭西は切實に鞏固なる中央政權の出現を要望したのであるが、斯の如き政權は統一されたる勢力——乃ち軍隊の力によつてのみ創造し得るので、果して佛蘭西の軍隊はこれを創造し得たのである。しかし露西亞の革命前には右のやうな要望は格別認められなかつた。無論ボリシエウイキを攻撃する材料は何に程でもあるが、しかし彼をもつて無力なる政權だといふことは出来ない。今までの政情は寧ろ革命的の國民の休息と、自然の發達を阻止するものであるが、かかる政情を続け得るほど政權は鞏固である。これが彼此全く事情を異にしてゐる一例である。

また當時佛蘭西のブルジョアは、革命のために特權を失つた貴族階級に取つてかはつて、新しい社會の貴族となつた。佛蘭西革命はブルジョア階級を衰退せしめざりしのみか、反對に彼等を極めて強大ならしめた。革命當時ブルジョアは或は御用商人となり、或は國有財産、貴族の舊所有地、寺寶の競賣等によつて一層その富を増し革命成金を無數に出した。

が勞働階級は革命後貧困ではあつたが、以前もまた同様で、何も革命ばかりを怨むわけにはいかない。尤も當時既にジャコビン俱樂部内には反ブルジョア主義の煽動が始まり、パピフの陰謀はブルジョアに對する脅威で、ジャコビン黨を甚だしく怖れた、同時にまた寡頭政治の終末期に擡頭した勤王黨をも怖れたブルジョアは自己を擁護すべき劍が必要であつた。だからコルシカ島の風雲兒を狂喜して迎へたのは當然である。

だが、露西亞革命はブルジョア勢力を擡頭せしめざりしのみか、根こそぎにこれを絶滅した。佛蘭西のブルジョアは革命により、舊貴族の財産を二東三文で買つて成金となつた者が多かつたが、露西亞のブルジョアは貴族になるどころか、無情な破壊的革命的の脚下に敗殘の身となつた。もしそれ、新經濟政策によつて成金になつた新成金輩が社會的勢力を云々されるやうになるのは遠き將來のことである。これが彼此革命の差違の一例である。

(八) 奈翁主義は實現し能はず

露西亞革命が社會的改革を斷行せんとした當初の唯一階級は實に農民——國民の大半を占むる——であつた。革命の火炎を潜つて、多年自己を束縛した鐵鎖を焼き切つて、自己を解放した農民達に奈翁主義が必要かどうかを問題とするだけが野暮である。

メニシエウイキは盛んに農民の奈翁主義化の危險を高唱するが、これは奈翁主義の社會的支持者たるブルジョア階級が露西亞から消滅した結果、農民だけが有力な勢力として残つてゐるのを見てゐるからである。だがいまだ社會的に農奴的束縛を脱し得なかつた露西亞の農民は、革命によつて全く自由に解放された、斯様なことは露西亞以前になかつた事實である。革命の力は一撃の下に、非勞働的な總ての地主を撲滅した。農民は革命運動がまだ民意を尊重して進行した時代には、擧つて社會主義に走つた。そしてブルジョア黨は農民から何等の支持をも受けなかつたのである。然るにメニシエウイキは農民が自己の利益擁護のため、奈翁主義の首唱者になるものだと思つて恐れを抱いてゐる。メニシエウイキはまた「農民は以前は成る程革命兒であつたらう。しかし目的を達した後の今日ではも

う保守黨であつて、反デモクラシー、反社會主義の思想を抱き勞働階級を敵視してゐる」と評してゐるが、農民は將して保守黨であらうか。

抑も保守とは現状維持のことであるが、保守黨といつても幾多の種類があり、英國の華族式保守黨と、露西亞の百姓式保守黨とはその保守せんとするものに大差がある。露西亞の農民は如何にもこれ以上の革命の進展を喜ばない。革命の力によつて舊地主制度が無くなり、代つて彼等が受けた新耕地制度を何時までも保守しやうと考へてゐる。と同時に折角革命のおかげで向上し得た自己の地位をよく自覺して非ブルジョア的（土地私有制度の廢止）なる革命精神、革命の勝利を維持しやうと努力してゐる。果して然らば、奈翁主義は農民の間には到底發酵せない。もつとも、若し露西亞に何等かの大勢力が現はれて武器をもつて彼等を威嚇することありとせば、その時農民は露西亞農民流の奈翁主義の傘下に避難するかも知れないが、斯様な勢力が露西亞に現はれる道理はないから、結局農民にとつては如何なる奈翁主義も沒交渉である。元來が必要がないからだ。

思ふに奈翁主義は、他の總ての獨裁政治と同様、農民の國家たる露西亞においても、農民を壓迫することは必定である。従つて政治的に必ず失敗する。西歐諸國のそれと違つて、露西亞の農民はプロレタリアとの利益が相反しはしない。露西亞のプロレタリアの過半数は農民と密接な關係がある。だから工業の發達につれて村落青年は都會に集集し、工業が閑散になれば歸農する。社會的大改革も勞農民の協力で出來たものである。吾人は露西亞農民の自覺に信頼する。自覺せる農民は決して自己の手をもつて自己を苦しめるに等しいこと、すなはち奈翁主義に走るやうなことは斷じてないと信ずる。

或る者は農民はプロレタリアとの闘争のために、權威ある政權、勢力の起こるのを望んでゐるかに見る者があるが、これは過まれる觀察で、露西亞の農民は事實都會の住民に反感をもつてはゐない。これが西歐農民と相違する點である。もと／＼露西亞革命は勞農民が提携して行つた革命ではないか。少くとも革命中でも、内亂時代でも農民はまだ反革命の方に脱線しはせなかつた。また佛蘭西革命における農民暴動の如き性質の暴動は露西亞

革命後には起きなかつた。又露西亞には帝政派や反動派的性質の農民運動は勿論、宗教的色彩の農民運動も起らない。最近ボリシエウイキに對して起した農民暴動でも、保守的、ブルジョア的要求は少しも加味されてゐなかつた。土地國有制度に反對する農民の運動は一回も行はれたことはない。

これらを見ても露西亞は辛勞農民の國家たることが判らう。だからこそ革命が社會改革を實行し得たし、また奈翁主義と利害關係を同じうする非勞働階級に對し峻嚴であり、革命そのものが奈翁主義發生に必要な諸條件を悉く破壊し、革命の發達に必要な歴史的條件の創造に向つて努力しつゝあるのである。斯るが故に露西亞農民は奈翁主義化の憂なしと斷定するものであり、且つ決して奈翁主義を露西亞に發生せしめてはならぬのである。

(完)

メニシエウイキと

ボリシエウイキの論争

左記はメニシエウイキの閣将アブラモウイチ氏が十月中旬、リガ市においてボリシエウイキ革命の失敗をコキ卸した演説と、之を嘲笑した共産黨機關紙の社説の概要で、此の兩者の論争は最近の評論界に大部注意を惹いたやうである。ボリ・メニ兩派の思潮の一端を窺ふ一材料であらうか。

露西亞革命は敗北だ

ボリシエウイキ中の心ある者はよく「奈翁主義化の危険」なことを認識してゐる。千九百二十五年カーメネフ（註、駐伊大使、反対派の巨頭）は當時既に大農の数が全農民の一割二分を占め、全農民の生産額の六割を市場に供給した位ひ、大農が急激に増加してゐることを指摘して黨に警告したが、その反面、農村プロレタリア中の失業者群も増加しつゝ、

あつた。でボリシエウイキ中の具眼の士をして「今や農民はサウエートと云ふ建物の床下に火を放ち始めた」とさへ嗟嘆せしむるに至つたのである。而もボリシエウイキは農民を抑壓する能はず、事毎に讓歩また讓歩し、農民は益々勢に乗ずる有様で、千九百二十一年故マルトフが「露西亞のプロレタリア革命は敗北に敗北を重ねつゝあると」偽らざる批判をしたのが愈々適中したのであるが、しかも此事實すらもボリシエウイキ中の純良分子即ち反対派が認識するまでには實に七ヶ年の経験を要したのである。この反対派はトロツキの口を藉りて、さる八月の黨中央委員會幹部會において「プロレタリアは日に月に勢力を強め來れる他の階級に征服され、今やプロレタリアは急轉直下その勢力を失墜しつゝある」と斷定した。

これはマルトフや社會民主黨が「露西亞に於ける社會主義革命は不可能である。もし強てこれを行へば經濟、文化の程度の低い露西亞の農村は破産する」と斷定したことを裏書

するものである。従つて露西亞のプロレタリアは果して勝利を得たるか否かといへば、言下に「否」と答へざるを得ない。もつともボリシエウイキの獨裁は社會主義革命に數歩進み寄つたものかも知れないが、其の獨裁なるものが既に社會主義に對する最大の障礙物なのである。見よ、今やボリシエウイキの獨裁政治なるものは、畢竟多數國民の生命財産の生殺與奪の權を掌握し、露西亞の労働階級を搾取機中に投じてその膏血を搾取するところの少數團體の專制政治に變質し墮落したではないか。

露西亞においては、決して他國において見ることの出来ない政治的壓制が行はれてゐるのである。當初ボリシエウイキは言論の自由を、労働階級の一部と、農民中の非共產分子に對して禁止したが、今日ではこの不當な手段を共產黨内の或る一派にも適用してゐる。斯様に全く社會の批判を行はせない組織の下にある國家において、ボリシエウイキが社會主義革命などを口にするときはそも／＼僭越至極の沙汰と申さねばならない。



露西亞の労働階級は事毎に敗北を續けてゐるが、斯様な状態では將來は將してどうなるであらうか。思ふにプロレタリアが最後の敗北から自己を救ひ、勝利の幾分でも保持して行くには、如何なる方法を執らねばならぬか。すなはち革命を危機より救ひ、社會主義實現の最大障礙たるボリシエウイキの獨裁を打破する方法としては是非とも「間斷なく反ボリシエウイキ宣傳を行ひ、同時に勞農露國內の不純なる或る労働階級に壓迫を加へる必要がある」と云ふに歸しやう。而して勞農露國內における我々の運動は公然これを行ひ能はざる條件の下にあるに拘はらず、既に労働階級の一部を正しき方向に向はしめ、更に共產黨員の一部をも指導することに着々成功しつつあるのである。吾人はボリシエウイズム打破のために將來も此の方針を以て奮進せなければならぬ……。

共產黨機關紙の嘲笑

右アブラモウイチ氏の論文を掲げたブラウダ紙は同日の紙上大要左の如き嘲笑文を掲げた

「露西亞のプロレタリア革命は敗北に敗北を重ねつゝある」「千九百二十一年故マルトフが既に正しい批判を下した」「純良なるボリシエウイキ分子(その厚顔なること正に斯の如し)即ち共産黨反對派は此の事實を確實に體驗するために七ヶ年を要した」などとアラモウイチは述べ立てた。またマルトフの綱領の眞理なることを立證せんがために、トロツキーの如きは御苦勞にも千九百十八年から現在まで、敗北に關する詳細なる記録を集めては毎度共産黨インターナショナル幹部會に提出してゐるのである。ところでそのトロツキーの敗北記録全集なるものは一、千九百十八九年獨逸における敗北一、千九百十九年洪牙利サウエート事件一、千九百二十年伊太利における敗北一、千九百二十一年獨逸における三月事件一、千九百二十三年獨逸および、勃牙利における敗北一、千九百二十六年英國における總同盟罷工の敗北一、千九百二十七年支那における敗北などの例を擧げてゐるが、勿論吾人はアラモウイチの所謂「純良」なるボリシエウイキなる連中とは十月革命勝利後その見解方針を異にしたことが再三であつた。

▲

トロツキーは嘗て其の舊師パーベリ・ポリソウイチ・アクセリロードに自己の反ボリシエウイキ的の著書を捧げて褒められて感奮しメニシエウイズムに返つた事がある。そのトロツキーがマルトフと見解を同じくして彼れ獨特の昔ながらの思想を再び主張し始めたのに何の不思議もない、が「吾人はコムニズム一掃の方針の下に共産黨員の一部をすら指導する事に成功しつゝある」と公言して憚らないアラモウイチの無禮な態度に對しては若干述べて置かねばならぬ。アラモウイチによれば、彼はトロツキーやカーメネフなども指導してゐるやうだが、まさかトロツキーが彼の下でメニシエウイズムの講義を傾聴する筈はない。トロツキーは嘗てメニシエウイズムの柱石であり、アラモウイチは單にトロツキーに學んだ無名の一學生に過ぎなかつたのである。

▲

カーメネフだつて「露西亞における社會主義革命は不可能である、もし強てこれを行へ

ば經濟、文化の程度の低い露西亞の農村は破産する」といふやうな思想をアブラモウイチから教へられたのじやない。カール・メネフは昔からこの位のメニシエウイズムの思想を持つて居り、十月革命記念祭にもこれを繰り返へして放言する位ひの度胸を持つてゐる。アブラモウイチの演説はプロレタリア政權存続十周年の今日、トロツキーが矢張り故マルトフや舊師アクセリロードの忠實なる學徒だといふことを裏書したに過ぎない。

トロツキーや、カール・メネフやジノウイエフなどが、今頃かびの生えたメニシエウイズムの頽勢を挽回しやうとしても出来ぬ相談で、最早やその滅亡は免れない。トロツキーやその一派の連中が、自己の收北即全世界プロレタリアの收北のやうに考ゆるのは御勝手だが、かゝる徒輩のたわ言に耳を傾ける者はもう今日の世の中には恐らく居るまい……。

獨逸聯邦議會議長の

露西亞に與ふるの書

左記は獨逸聯邦議會議長パウ・ロエベ氏が、露西亞に與ふると書として、ダス・ダゲブラッド誌上に發表したのを哈爾濱の一右黨派露紙が譯載したものの再譯である。

同氏は露西亞と或る歐洲諸國との關係の悪化は、獨逸國民の頗る遺憾とするところであると冒頭し

「露西亞が資本主義諸國の聯合包圍に備ふべく、同盟國を物色して援助を藉らんとしつゝある今日一方資本主義國の政府に對し巧言令色的な泣付きをやつてゐる半面には、その國內の共產黨員と握手して赤化運動を計畫してゐるやうな二重政

策は不合理極るものである。莫斯科政府は自國の共產黨をして各國政府に反對せしめ、共產主義を鼓吹して資本主義を排斥しながら、各國政府とは親交を計らうといふ兩天秤政策を執り、自國の政治代表、軍事代表をヒンデンブルグや、レキフスウエルの處に派遣してその歡心を買ひつゝ、一方第三インターナショナル分會にも特別政治部員を特派してその方の

歡心をも買つてゐるのであるが、斯様な二重政策は自滅の基で、資本主義政府が莫斯科と國交を斷絶するか、それとも露西亞共産黨部内に反對派を生ずるか、何れにしても不幸な結果を招徠するに極まつてゐる。

莫斯科の内訌は益々深刻化し、國力は疲弊してゐるが、これは政權を執るものゝ方針の拙劣な結果に外ならない。こんなことでは資本主義者側からも、また外國共産黨側からも援助を受け損ね、あぶち取らずになつてしまふであらう。もし露西亞が帝國主義戦争排斥のための新規闘争を起さうとするならば、歐洲の有力な労働黨……英國労働黨、獨逸社會民主黨、佛蘭西社會主義者、スカンヂナウイ

ア社會民主黨の援助を受けない限り、到底成功の見込はない。

これがためには露西亞は、社會主義者との闘争を休め、労働運動の分裂を妨げずかつ他國の内政に干渉してはならぬ。烏合の衆にあらざる西歐の偉大なる労働黨の援助があつてこそ、はじめて露西亞に對するあらゆる妨害を防ぐことが出来るのである。彼等労働黨が戦争排斥を高唱し、また露西亞の事は露西亞人に任せよ、との輿論を喚起するときにおいて露西亞ははじめて救はれるのである。見よ、從來英獨の社會民主主義者は決して露西亞の内政に干渉せなかつた。露西亞のポリシエウイキはこの態度を學ばねばならぬ。露西亞のポリシエウイキにして、もし

西歐社會主義者の行動を誹謗したり、その缺點を摘發したりするやうなことをせず、長短相補ふことに努め、彼我の和親を計つたならば、西歐社會主義者もまた

敢て露西亞を輕蔑するやうなことをせまい。而してその結果は雙方とも、就中露西亞側により多く有利であらう。云々

舊帝の親戚……………實は赤の密偵

フタベストからの報道によると、同地警察はニコライ二世の親戚と自稱する舉動不審の女を逮捕したが、取調べの結果この女は露語の下手な女で、露西亞亡命者間に宣傳を行ふべくポリシエウイキの特別使命を帯べる事が發覺した。

十二、時事、世相、人物月旦並雜錄

監獄驛

——共産黨機關紙ブラウダより——

我が國內にも鐵道の數が澤山ある。そしてこの鐵道にも終點驛がある。ところで此の頃ウイテフスクで建設に着手した新鐵道の終點は、多分監獄だらうといふ話だ。その鐵道建設部の役人達はまだ監獄までの線路を引つ張つてはゐないが、何れももう監獄行きの御面相をしてゐる。

◎
そこではゴスキン、ガリナ、コチエトコフなどといふ連中が主で采配を振つて御座るが、何れも莫斯科からわざ／＼取り寄せたパネ附の椅子にふんぞり返つて仕事をしてゐる。聞けば行

政部長のガリナは元貴族夫人であるが、大變この役目に御満足ださうだ、それはまあ結構なことだとして、サテ彼の女のスタイルと來ちやお話しにならぬ。また例へば技師共が何か報告に罷り出ると、まづ恭しく彼女の手にキツスをさせる……事實だ！……そして彼の女は椅子にふんぞり返つて報告を聴く。また、彼の女の使用する事務所の什器は一切合財莫斯科から取り寄せたものであるが、活きた什器さへも莫斯科に注文して取り寄せた。會計係のスコピンスキをわざ／＼莫斯科から引き寄せたのがその一例だ。

◎ この地方にだつて會計事務の經驗を有する者は、アラにあるんだが、ウイテブスク邊で、失業者になつてゐる會計屋上りの大部分は猶太人である。だから昔の華族さま連中が威張りちらしてゐる此の事務所に、猶太人などを入れることは穢はしい事だと思つてゐるのだ。いくら手腕があらうがこゝばかりは猶太人入るべからずだ。事務所では受附にだつて元大佐位の人物を据えなくちやならんのだらうが、生憎くと大佐の古手がなかつたと見えて、元デニキン軍の一等大尉を引つぱり込んでゐる。おかげで下級の労働者はよく労働規則を守る、事務員もベコ〜と頭ばかり下げて「ハイ〜かしこまりました」とか「ご尤も、仰せの通り……」とか何とか様子を見て上官に對するその愛想のいゝことゝ來たらとても他處では見られぬ圖だ。

◎ 此處では職業紹介所からは決して人を採用しない。特別の紹介狀持参の者か、自分の知合ひの人間でないと採用しない。この頃採用になつたガルフィールドといふ男は課長閣下の實弟ださうな。この種の「専門家」の採用には遠近とか、着任の日數とか、旅費の多寡なんぞは問題じゃない。アチンスクからわざ〜自働車の運轉手と呼ばせられた。記帳係のクツコフはウヤトカ市から、オストロフスキーは西伯利の眞中から何れも遙々と呼び寄せたのだ。西伯利のアチンスクで運轉手を見つけた程だから、この課長閣下はよほどの活眼といふべきだらう。もつとも幸ひなことにはこの連中に一任された折角の工事も今のところ中止となつてゐるが、元々立派な専門家連中のことだから終點……監獄まではきつと到着することだらう。

佛蘭西記者の見た

チチエリン外相

左記は今秋、露西亞の各地を旅行した、佛蘭西の著名な新聞記者ジエ・ロンドン氏のチチエリン外相との會見記である。

サウエートの大官連は大抵、わざと粗末ななりをしたり、貧乏ぶりを自慢にしてゐるものだが、外相チチエリン氏だけは、派手なことが大すぎだと思つて、ウネリヤム二世陛下が時めいた時代の正装を想起するやうな立派な大禮服を持つてゐて、公式の宴會を開いたり、賓客を招待する場合などには、大將軍の禮装見たいな素晴らしい大

禮服を身につけ、兜式の大禮帽のやうなのを被つて出て來る。のみならず共産黨の集會のときにもよく、そんな調子で参列するのでタワリーリシチ連をアツト云はせることがある。或るときは同氏はキルギス人獨得のゾロリとした服装をしてやつて來たので、列席の佛國共産黨員は不愉快な感じを抱いたが、その中の一人などはすつかり

當てられて二三日眼が痛かつたと嘖つてゐた。

チチエリン氏は、多年獨身生活をつゞけてゐる位ひだから極端な女嫌ひで、變態性慾だなど、蔭口云はれる、外務省の女事務員連はビリ／＼してゐる、役所では自分の部屋からタイピストや、女事務員を別室に追つ拂らつてしまつたほど、異性の嫌ひな人である。がかゝる性格にも似ず反面にはやさしい道樂が一つある、それはピアノであつて時々彈奏しては孤獨を慰めてゐる。しかしピアノを彈く時には堅く自室を締め切り減多に他人には聞かせない、たゞフロリンスキー秘書官外二三の側近者だけが拜聴の光榮に浴するのみだ。彼は夜間仕事をするのが好きで、訪問客とは大抵夜間に會

ふ。現に自分が面會したのも深夜であつた

外務省長の部屋の入口には、誰れでもサウエートの大官を警護してゐる石像のやうな、護衛兵が嚴然として起つてゐるのにおつゝかる。そしてその兵隊さんに退いて貰はねば戸を開けることは出来ない。兵隊さんが機械人形のやうに動いたり、不動の姿勢をとつたりする様は他國ではとても見られない圖である私が初めてチチエリン氏に會つたのは、露佛關係の最も險惡な、また政務多忙を極め、殆んど毎日のやうに佛國の三色旗をのせた自動車に門前に停まつてゐる時であつた。乃ちラコフスキー事件が白熱化してゐた時であつた。チチエリン氏は我が駐露大使とは全然意見を異にしてゐ

た時なので、自分との會見は私的のもので

正式の會見とは思つてくれるなど何度も繰返へし云つたが、餘程神經過敏になつてゐた時なので、無理もないと自分は思つた。

二度目に會つ時にはサウエート政府の對佛方針が誠心誠意を基として行はれてゐることを盛んに説き立てた。また氏は露西亞の内部には積極派と穩健派とがあることを語り、

「過渡時代に過激分子のあることは當り前で、某國記者の露西亞の對内政策觀は頗る酷評である、大河の水を一時に海に流し出さうとしたつて出来ない相談と同様で、佛蘭西革命だつてダントもロベスピエールもゐたじやないか。」

と云つたから自分は

「御意見は一應御尤もだが、我々は一九二七年の世の中に住んでる人間ですぞ、佛蘭西の社會は貴官達が政敵をどし／＼頸切つたり、牢屋にぶち込むのを餘りひどいと云つて反感を持つてゐるのですと云つたところ、氏は露西亞人獨得の身振りをして答へた、それはニチエヲと云ふ形であつた、そして

「矢張りやる丈けやらにやならん、我等は貴族政治、官僚政治、ブルジョア社會など一切の舊制度を打破した。實に大なるピラミットを破壊したのである。しかし在外亡命露西亞人にはまだ手が届かないその在存すらも忘れてゐる位ひであると云ひ、反幹部派に對しては何も云はな

つたが、まさかチチエリン氏が亡命露西亞人を忘れてゐる程の大度量家とも思へぬし、また反幹部派にはひどい壓迫を加へてゐる僻に、この方面のことは巧みに言葉をそらせてしまつた。書記官が間断なく書類

を持つてサインを求めに来る多忙の有様に遠慮して匆々に切り上げ、ドアを排して廊下に出たが、番兵は機械人形のやうに半ば右を向いてゐた。外に出るともう夜が明けてゐた……………。

カウエート笑話

タイピスト——お母さん、今日は仕事で忙しくて萎すつかり疲れてしまつたわ、報告書と来たら、それは——長いんですもの

母——それがあたりまへです何でも隠さなければならぬところは長いものが入るんだよ、お前のこの頃のザマは何です、私の若い時とは違つて、一切見えすく様な短いスカートを着て、少しはお役所の風でも真似なさいよ

舊露都と革命記念日

巴里通信によると、十月革命記念祭當日レニングラードでは幹部派と反対派との間に、随時随所、口論、掴み合ひなどが演ぜられたが、反対派の方で「赤軍の武装解除が急務だの、奈翁主義が急速に發達して来た」などと喝破したのに對し、幹部派は殊の外激昂した。レニングラードの總督とも云ふべきジノウイエフが拍手に迎へられて演壇に起ち、散々幹部派をコキ卸した時の如き、聴衆は熱狂的な拍手喝采を送つただから幹部派の方ではジノウイエフに「白黨の

奴よりも劣つた非國民だ」などあらゆる罵聲を浴びせ、果は演壇から引ずり卸さうと、大勢の者が押しかけたので、ジノウイエフ派の壯士との間に大格闘が始まり、喝采、罵聲相錯雑ししながら戦場のやうな修羅場を演出した。反対派はあらゆる壓迫にひるまず各所で猛烈に幹部派攻撃の煽動演説を行ひ、外國から来た代表者がお世辭的演説を試みると「お客さん」とか「金がかゝつてるぞ」とか散々反対派に彌次られ氣の毒なほどであつたと。

赤色大學教授

日本の國體を賞揚

レニングラード大學東方語學課日本語教授、

エヌ・イ・コンラード氏は、政府の命を受け三ヶ

月間の日本教育界視察を終り、過般歸國したが途次哈爾濱滞在中、同市新市街白系露人の經營に係る東洋經濟學院の招聘を受け、十日間毎夜學生のため、日本の社會經濟史の講義を行った。

その一日目の講義は、大古、藤原時代、鎌倉幕府時代、徳川及明治時代に於ける日本社會の變遷を語り、更に政權が公卿より武家に、武家より再び皇室に移つた概要を説明して「日本の社會革命政權争奪戦は屢々行はれたるに拘はらず、皇室と將軍家の區別鮮明で、決して皇位を奪取せんと企てし革命家なく、君臣の分、確然と定まれる事は他國の革命史上見るを得ざる日

本國體の精華である」と雄辯を振ひ、日本に關し案外智識の淺薄な露支大學生及び教授等に多大の感動を與へた。

同氏は日本語に極めて巧みて、在東京、露西亞大使館のヌバルウイン博士の日本語の如きは足許にも及ばない。

赤色大學教授のこの講義振りに徴し、露西亞の日本赤化方針は從來に比し一段と進歩し、皇室に關する誹謗は反つて日本プロレタリアの反感を買ひ、目的達成の障害となるべきことを自覺した結果、名を捨て、實をとるの方針に一變したものと解せられて居る。

新駐日勞農大使の前身

——嘗て極東積極策を高唱せる急進主義者——

哈市發行ザリヤ紙は舊臘廿三日紙上で「日本の國體は如何にして破壊すべきか」と題し、新任駐日大使トロヤノフスキーの人物に關し、日本諸新聞もあまり經歷を述べて居らず、外務省側に於ても貧弱なる情報より持合せて居らぬ模様であり、且世間にト氏の素情及び駐日大使任命の理由などに關して知つて居る者は無いと冒頭し、我が社が最近探知したところによると、彼トロヤノフスキーなるものは、露西亞内亂戰の白熱化してゐた一九一九年中第三インターナショナルに於ても、まだ世界ブルジョア諸國に對する戰略が決定して居なかつた頃、全露勞兵會中央執行委員會より「革命期に入れる極東」と

題する一書を刊行し、ボリシエウイキ領袖間にその名を高めた男で、當時既に第三インターナショナルが極東に打撃を加へる事は、即ち資本主義諸國就中、帝國主義日本に對する攻撃を意味するものであると喝破し、サウエートの極東政策は飽くまで積極的ならざるべからず、と説き、露西亞が自國一國の革命で満足するやうでは早晚露西亞革命は滅亡すべしと警告し、進んで、第三インターナショナルと被壓迫民族との團結は世界歴史に對する我々の一大義務であり「露西亞革命」「第三インターナショナル勢力擴張」及び「被壓迫民族解放」のために露西亞を對西歐革命の根源地、印度を極東赤化の策源地

たらしめ、波斯、土耳其、埃及は印度との連絡地帯化せしめねばならぬ。また支那共産黨員をして極東赤化運動の好射手、補佐者たるの役割を演ぜしむるやうに養成しなければならぬ。と

の意見を述べた男である、と報じ、終りに、かかる亞細亞破壊の専門家、を正月早々迎へる日本はお祭騒ぎなどをしては居れぬであらう、と結んでゐる。

サウエート笑話

労働保護

- 當局の管理区域ではまだ今月中不祥事故が一件もありませんでした
- 工場當局が鋭意努力した結果だ
- 違います、どの工場も機械破損で操業を中止してゐるのです

最近サウエート露西亞と芬蘭との國交が兎角面白くないやうで、先達もサウエート政府の機關紙は

「芬蘭の言論機關が、サウエート露西亞に對し敵愾心を挑發するやうな記事を頻々と掲げてゐるのは不都合である。殊にプロコペ氏が外相に就任したのは一層露芬兩國の國交に害がある。今や芬蘭が波蘭に接近し、波羅的沿岸における英、波兩國の反露的陰謀に引きずられつつあることは明かだ、沿波羅的諸邦代表者會議の傾向も明かに反露的である。」と論じたが、更に最近の共産黨機關紙ブラウダ紙は芬蘭が白系政治犯人の引渡に應じないことを憤慨し

「芬蘭政府がかゝる札附の政治犯人を庇護することは、サウエート露西亞との善隣關係を

沿波羅的諸邦の反露傾向

……労働機關紙頻りに攻撃……

無視するもので、最近英國の尻押して沿波羅的諸邦が反露的的態度に出で、白系露人に好意を表してゐるのは誠に不都合である。殊に芬蘭とエストニアにおいては一番白系露人に同情を表してゐる。之に對しサウエート政府は再三反省を求めたが依然として顧みられない。芬蘭は多年自國を虐げて來た他國の術策に陥り、誠意善隣國の誼を厚ふせるサウエート露西亞に反抗し、露西亞の連分子を庇つてゐるが、今後もし芬蘭その他において反露運動を續け、我國に不幸を及ぼしたならば、その責任は白系露人を庇護する彼等の負ふべきものであると攻撃した。

之等でもつて白系露人をはさんで沿波羅的諸邦とサウエート露西亞の國交關係がよく窺はれやう。

獨逸新聞に現れたサ聯邦の窮状

金屬職工會議の席上、人民委員長ルイ

コフ氏は緊急を要する政府の措置と題し
一大演説を試みて曰く

農民が穀物の賣惜みをするため國民の
給與に關して幾多の故障が續出した。
各市街は全く何等の工業生産品なくし
て存在し、地方の穀物生産高は又頗る
貧弱となつてゐる。政府は工業生産品
を地方に輸送し、以て絶えず都市住民
に食糧品の供給を圓滑になさんとする
のである。税金は富豪及び悪意ある穀
物所有者に課さんとしてゐるが、今後
二三年間は尙相當困難なる狀況を繼續

するであらう。

と、サ聯邦に於ける物資缺乏の狀態は先
づ食料品店の前で充分目撃することが出
来る。店舗の前には長蛇の列が廻々とし
て連り、各々自分の順番の来るまで一時
間以上も待つて居るのである。官立コー
ペラチーヴ食料賣店は既に販賣制限を爲
してゐるが、一つのコーペラチーヴ賣店
が午後三時のバタの販賣を告知すれば午
前十一時にはその店前に人山を築いて居
る。而も食料品販賣日の麥粉各人の割當
は五ポンドで、恰も一九二〇年頃と同じ
狀態である。小麥粉の貯藏量は極めて貧

窮で、莫斯科ではどうか遺繰りつくそ
うであるが、ウタライオの都市に於ては
能く見積つて四五日分しかないと言つて
居る。特に不足を訴へつゝある物資は麥
粉を初めとして茶、牛酪、卵、轉肉麥等
の食料品及び織物製品、護謄、藥品、洗
滌石鹼等で、就中織物類は高價なものを
除く一般用は品切れで、多くの店舗の織
物部は閉鎖の標示を出して居る。

たゞ都市の中央部に於ては一見物資缺
乏の狀態は見受けられないが、これは一
種の欺瞞で、店頭や陳列棚には各種の品
物が列べ立てゝあるが、一步店内に進入
ると全く空つぽで陳列されて居る通りの
生活必需品は何もない、同じく極度の缺
乏狀態である。斯の如き物資窮乏の結果

は今や一般人心を恐慌に引戻さんとする
に至つた。

その價格に就て見れば、個人商店で茶
牛酪一冠が十一馬克、食用卵一個三十片、
官營のコーペラチーヴでは珈琲一冠三十
二馬克、私營はこれよりも高價である。

右の如く食糧品の缺乏を來すに到つた
原因は農夫が賣り惜みをするためであ
る。政府は穀物の購入を強制手段によつ
て試みやうとしつゝあるが、これも結局
無駄になるのではあるまいか、一月下旬
には一部市場に聊か好況を認められる傾
向を來したが、二月に入るや更に不振の
狀態に陥り、以來時日の経過と共にこの
現象は愈々深刻なものとなつて來た。
今や農夫は直接最寄市場へ穀物を賣捌

くことを禁止せられ、國家所有の倉庫又は産業組合へ持つて行かねばならぬこととなり従来とは全く趣を異にするに至つた。而して産業組合では品物は決して販賣せず、たゞ農夫が穀物其他農産物を持つて行つた時に一部の物資を交換的に渡すだけで、その交換率に至つては穀物一布度に對して僅か八十哥といふ法外なものである。實際價格は一・五〇九瓦一・七〇留位が普通とされるものである。其他一布度の絹に對して十四五布度のライ麥、一米のバルヘント(一種の綿ネル)に對して二十五布度のライ麥といふ様に、工業品と農産品との換價比較は話にもならぬ程の開きを呈して居る。以上の様な次第であるから農夫の不平は甚だしく、

農村は穀物の義捐をしなければならぬのか、吾人の戦時とも見做すべき收穫の秋に於てすら全く何物をも持ち得ぬ状況である。國家は他國と戦争でもして居る様に吾々に穀物の軍税をかけるに憤懣の聲が隨所に擧つてゐる。

最近政府はチエルウオーネツツノーテンによつて爲す輸入を禁止するに至るであらうと觀測されてゐる。之れによつてサ聯邦内で支拂ひをなさねばならぬ外國各商會は、サ聯邦内で貨幣を購入し、又兩替するからサ聯邦の貨幣價值を標準まで引き上げ得ると思つて居るのである。伯林では目下その價值は三分の二にしか當らない。

全聯邦モープル創設

五ヶ年間の成績

「資本主義國內で革命のため悪戦苦闘しつゝある者や、之れが犠牲になつた者を援助救済する目的」で莫斯科に「國際革命戦闘員後援會」(略稱モープル)が一九二三年に組織されて以來今年三月は滿五ヶ年になる。で三月十八日には各地代表二百餘名が集まつて盛大な祝賀會を催したが、五ヶ年間の成績に就て報告されたところによると、募集義捐金の總額一千七十三萬留て、内五百九十四萬留は國外で募集し、且つ國外で革命闘士の家族救済に使用した、又一九二五、六、七年間に於けるブルジョア各國で殺害された革命闘士の数は八萬六千五百九十一名で、二萬四百七十二件の裁判が行はれ、その結果六萬

四千五百二十二名はそれ〴〵懲役に處せられたが、所謂文明國に於て之等革命闘士はあらゆる暴行を加へられ中には拷問にかけられたものもある。と報告された。尙三月十八日ブラウダ紙は左の如き報道をなした。

一九二七年一ヶ年間に革命運動闘士に關して開かれた裁判事件は二千五百十七件で、この内ブルジョア裁判所から死刑の宣告を受けた闘士の数は一萬一千六百八十八名、終身懲役に處せられたもの九十六名、其他懲役刑を課せられたもの一萬六千八百十九名である。尙同年中檢舉拘留されたものは十萬三千七十名、負傷者五萬二千七百四十名、運動中殺害

された労働者農民の数は六萬六千八十名である。

と、……囚にエヂンバラ發行スコットマンに發表されたサラレー教授の調査によると革命中米
リシエウイキのために殺戮された人員は

僧正	二八八
僧	一、二九一
教育家	六、〇〇〇
醫師	九、〇〇〇
陸海軍將校	五、〇〇〇
兵卒	二六〇、〇〇〇
警察官	七〇、〇〇〇
地主	一一、九五〇
智識階級	二五五、二五〇
労働者	一九三、二〇〇
農民	八一五、一〇〇
計	計百七十六萬六千七百四十七人

米リシエウイキは實に百七十八萬人といふ驚くべき多数の國民を殺害したのである……

革命犯人が官憲に對する唯一の對抗手段は絶食同盟であるが、最近世に知れ亘つた分だけでも二百六十ヶ所に之れが行はれ、一萬二千六百七名が参加し、絶食の延日數十萬七千七百七十人の平均絶食八・五日に當つたと報告された、尙モールは巴里コンミュン事業の後継者、世界革命の應援者を以て任じてゐるのであるが五周年大會を開いた三月十八日は巴里コンミュン運動の五十七周年記念日に相當する。巴里コンミュンは僅か七十五日で佛獨ブルジョアに壓倒されたが、四十六年後（露西亞革命を指す）に替て巴里で踏み躪られた労働軍旗は數千人の手により再び地上に翻へり、今日では世界の六分の一に相當する國土（露西亞を指す）に翻りつゝある。第一回大會後モール

ブルの事業は非常な勢を以て發展し、全世界赤色革命戦の後方勤務衛生隊としての任務に服し、各國に於ける闘争的世界革命機關と直接連絡し、労働民衆の中から勇敢なる會員の糾合に全力を注いで居る
中央委員のスタソフは開會の辭を述べた。
モール會員の數に關して一昨年二月政府機

關紙の發表によれば、露西亞國內だけで四萬三千の細胞を有し會員五百萬を算すとあり、今年一月一日現在モールの細胞は五萬に達したと報じられたが、會員數は何故か發表されなかつた。
日本にのその名も同じモールが組織されて居るのは注目に價することである。

サウエー
ト笑話

サウエー ト金言集より

官僚主義者が未だ官僚主義を捨てざるは、官僚主義征伐に關する特別書式が制定されざるためなり。

一事を爲さんとせば先づ書類、報告書の形式雛形を制定するを要す。

至急公文書

ボブリスツク州職業組合では数日前、ロガチニツクの支部に送つた至急公文書の回答の来るのを頻りに待つてゐるが、なか／＼来ないので、やきもきしてゐる。その至急公文の追加照會事項といふのがまた次ぎのやうな頗る振つたものである。

第一、州職業組合員、補缺會員の總年齢（例へば何某三十歳、何某二十七歳等記載してその合計數字を要す）

第二、全露共産黨員黨籍年月合計（例へば何某在籍何年何ヶ月、何某何年何月に入黨したるにつき本日まで何年何ヶ月といふ如し）

第三、職業組合員入會後の年月數合計

第四、會員入會後積極的行動に従事せる總年月數

その翌日になつて、回答は来た待ちかまへてゐた事務所では萬歳を唱へた。その回答文には

第一、當方職業組合員及び補缺會員の年齢合計——四百六十二年

第二、黨籍年月合計——三十一年三ヶ月

第三、六十二年五ヶ月

第四、十一年五ヶ月

尙ほ當方の参考に供し度候間千九百二十五年一ケ年間における貴職業組合員の頭髪の長さ總計及

び貴所におけるユデ玉子供給計畫並びに貴地に騾馬の有無、若し無きときは何年何月以降棲息せざるに至りしや御調査の上至急御回答被下度候。

排日記事

山本社長就任後は、東支鐵道と滿鐵との未解決保爭問題に對し高壓政策を執るべく、従つて日露兩國政府間は種々の軋轢が今後絶えぬであらう。（共産黨機

關紙八月九日社説）

勞働者の不平高まる

——伯林ルイー紙——

莫斯科勞働者の官憲に對する不平反感益々高まり、最近では公然官憲に向つて、政府部員等は日夜莫斯科第一流の料理店に宴會を開き山海の珍味を飽食して居るにも不拘、勞働者を飢饉より救ふ事を爲さぬと抗議し其の回答を迫つて居る程である。

ロシアだより

■赤軍内共産黨員數 過般開催された赤軍内共産黨細胞書記大會で發表された所によると、赤軍内の共産黨員は一九二四年末に五萬七千六百八十七人だつたのが、一九二七年末には八萬千九百二十一人に増加してゐる。猶赤軍幹部方面では三年前は全體の三十九パーセント、現在では四十九パーセントを超えてゐると。

■チエンパーレンへの回答飛行機 五月六日サウエート各都市に於て、チエンパーレンへの回答週間で募集した資金を以て製作した飛行機三十一臺は、國防飛行協會の手

によつて當局へ引渡しが済んだ。

■サウエートの文盲退治 サウエート文部當局の公表によれば、來る一九二九年の國民教育費として三億九千三百萬留を支出する。其内職業教育費が三千七百八十萬、社會教育費が三億四十萬、政治教育費が四千六百八十萬留である。

■國費節約二割引問題 サウエート露國の國費節約問題は數年來唱へられてきた所であるが過般全國的に二割引を命じ、四月一日から實行の筈であつたが其後検査の結果いづれも不合格であるといふ。とにかく政府の豫定通り三億三千五百萬留節約するとロシア人一人の負擔額は昨年の一留十九哥が、九十五哥になる筈であると。

■農業税は二割五分引上 最近のサウエート全聯邦中央委員會議は、政府の提出した農業税二割五分増税案を可決した。これによると約八千萬留の増収になる譯であるが政府は該税が上に重く下に軽く決して過重でないとは辯明してゐる。

■國寶の賣却 マテン紙發表によれば、サウエート政府は財政難のため國內博物館所藏の國寶の一部を外國に賣拂つたが、それで約一千万留の收入がある豫算である。アルミターチ館長はこれに反對して辭表を提出、一方政府は國內各旅館に對し美術品、書畫骨董品の備品目錄書を作製して提出すべしと命令した。

■鑛業界の大勢 過般第六回全聯邦鑛夫大會での報告によると昨年末の鑛業労働者は

四十七萬四千人で、前大會時に比し十一萬二千人を増した。生産高は最近二ケ年間に石炭九十二パーセント、石油四十五パーセント、泥炭七十六パーセントを増加。因みに一九二三年より同二八年までの五ケ年間に國庫が鑛業界に投資した額は十三億二千三百萬留で、工業界への總投資額の三十五パーセント強に當る。

■ゴリキイ歸露 文豪マクシム・ゴリキイは五月一日伯林着、同廿七日同地發歸露の途に就いた筈。

■スターリンの獅子吼 去る五月十六日スターリンは青年共産黨大會の席上で階級的内敵がまだ勢力を奮つてゐることを指摘し官僚主義を絶滅せよ、労働者の文化を向上せしめよと叫んだ。反對派が陰然たる勢力

を有し、繁文辱禮がまだ盛んで、労働者の教育程度がまだ満足すべきものでないことがこれによつて窺はれよう。

■莫斯科縣と新聞 近着の莫斯科新聞によれば、本年三月の調査で、莫斯科縣下に配布されるサウエート新聞の總數は約百萬部で全國の約半分に當り、讀書力ある者は平均三人に對し一人の割合である。

なほ人口の割合に農民新聞の發行が少いこと、青年共產黨新聞の不成績なことなどが記述されてゐる。

■レニングラードの人口 一九二三年には九十一萬六千八百人であつたが、現在は總數百三十八萬六千九百人である。その中に猶太人が八萬四千五百人ゐる。

■反對派流刑囚の厚遇 共產黨から除名流

刑に處せられた反對派の者は、他の者が官から一ヶ月六留二十五哥しか支給されないのに反し三十留も手當を貰つてゐる。變心組のジノウイエフはゴリキイ地方の田舎に居住し、目下中央委員會の依頼でトロツキイ排斥の書籍の原稿を書いてゐると。

ロシアだより

■青年共產黨近況 青年共產黨は昨年より本年五月までに三十萬人を入黨せしめたが全露共產黨への新入黨者總數の三七%にあつたと。

■サウエートの監獄 中部シベリヤ北方の奥地エニセイスクは四年前から流刑地になつて目下七十名の政治犯人がゐる。一ヶ月の手當は一人六留二十五哥しか支給されない。規定に依れば一週間に三回は必ずグベ、ウに出頭せねばならぬ。流刑囚はいづれも生活難に苦しみ、又病人が多い。

■猶太人の移住 曩に猶太自治共和國として割讓された極東ピロ・ピツチャンスクへ

は、今回ウクライナから猶太人二百家族が移住することになつた。が希望者はその二倍もあつたといふ。

■ロシアの新聞 發行する新聞の總數五百五十六種、讀者總數七百六十八萬人。

■著作権の變更 サウエート聯邦政府は今回新法令を發し、從來著作権の期限が二十年だつたのを終身所有といふことに改正した。但し相續者は著作家の死後二十年間著作権を繼承することになる。尤も樂譜、脚本、活動ヒルムは十年、特に著作権を認められた寫眞は五年である。猶著作権を外國人に讓る場合は政府の許可を要する。

■ゴリキイと政界 文豪ゴリキイの歸國は政界に一大シヨツクを與へた。現政府首班スターリン(グルジン族)に楯ついてゐる

カリニン、ルイコフ等の所謂「ロシア組」は、ゴリキイが國民に人望があるのでその抱込みを策してゐる。しかし肝要の本人は中立の看板を掲げ八方美人式に至る處盛んに愛嬌を振りまいてゐると。

■新自治共和國と洲の設定 全露中央執行委員會幹事會は左記を決定し來年度（本年十月以降）から實施する。

一、ウオロネジ、タンボフ、オルロフスキイ三縣を合併し、ウオロネジ市を首府とする中央黒土州を自治共和國とするこ

と。
一、サマラ、オレンブルグ、ベンゼンスク、ウリヤノフ縣を合併し、サマラ市を首府とする中央ウオルが自治洲とするこ

■東方學院の生徒募集 サウエート聯邦中

央執行委員會の經營に係る莫斯科ナリマノ東方學院は將來東洋の外交經濟學術の研究に進む者の養成機關、實は東洋各國赤化宣傳員養成の學校だと云はれてゐるが、過般來學生を募集してゐる。學年は四年制で日本支那トルコ印度アラビヤ波斯語を教授する。募集人員は五十五名。

■伯林のゲ・ベ・ウ 伯林ルリ紙の發表によれば伯林勞農大使館内にはゲ・ベ・ウ外國課本部が設けられ、歐洲に於ける情報蒐集の中心になつてゐると。

■ブハリン怒る 最近ブハリンは、共產黨員の風紀が亂れ家庭生活が亂脈に陥つてゐるといふので莫斯科に於て長廣舌を揮ひ、かゝる徒輩は容赦なく機關銃で一掃す

べきであると憤慨した。

■サウエートの通貨 聯邦當局は昨秋よりの方針に基き約一億千萬留の通貨を收縮したので、本年三月末に至つて、國內通貨の現在額が十五億二千萬留になつた。

■日曜勞働音樂學校 モスコ國立音樂學校では昨秋十月革命記念日から日曜勞働音樂學校なるものを開設した。勞働者及び農民の音樂向上を目的とし、科目は一ヶ年を以て修了。入學資格は男女共十八才以上。

■サウエートの劇場 ロシアには約五百の劇場があり一ヶ年間に千五百萬人の觀覧者がある。その他、村落の芝居小屋が三萬ある。サウエート式の劇には倦が來て、もつと目先の變つたのをといふ希望が一般の間に起つてゐると。

■ロシアとラチオ サウエート聯邦には放送局が七十七（一八〇キロワット）あるが

本年一月から三月までの調査では民間の加入者が二萬人に過ぎない。そこで小規模の放送局を廢止し、千五百軒半圓に放送し得る大放送局を數ヶ所に建設しやうとの計畫がある。

■國防週間で寄附募集 聯邦飛行後援會では六月十五日から廿二日まで國防週間を舉行し、一般から寄附金を募集する。

■農民と孤兒勞農官 邊の傳ふる所によると數年來やかましかつた孤兒問題に對する處置の中で孤兒を農民に托したのが一番成功してゐるといふ。莫斯科縣では過去一年間に 千名を此方法によつて救助したが後戻りしたのは僅かに七%であると。